

2013年度 多摩大学経営大学院 カリキュラム

マーケティングマネジメント											
春学期						秋学期					
科目名	教員名	曜日	パターン		頁	科目名	教員名	曜日	パターン		頁
マーケティングマネジメント概論	村山	日	集中		1	マーケティングマネジメント概論	村山	日	集中		42
実践Webマーケティング	村山	木	A		2	Webマーケティングイノベーション	橋本(大)	木	A		43
マーケティング戦略	原田	水	B		3	マーケティングコンテキストデザイン	原田	水	B		44
マーケティングリサーチ	朝野	月	B		4	パブリシティマーケティング	久保山	土	B	PM	45
ブランド戦略	首藤	日	A	PM	5	マーケティングコミュニケーション	東	水	A		46
サプライチェーンマネジメント											
春学期						秋学期					
科目名	教員名	曜日	パターン		頁	科目名	教員名	曜日	パターン		頁
サプライチェーンマネジメント概論	松本	土	A	AM	6	サプライチェーンマネジメント概論	松本	土	A	PM	47
SCM-IT	松本	土	B	PM	7	グローバル・ロジスティクス	矢野	火	B		48
人間工学とリスクマネジメント	橋本	日	B	AM	8	日本・アジアの流通構造とSCM	西田	土	B	AM	49
ドラッカーとSCM	今岡	月	B		9	日本のものづくり経営	柿内	金	A		50
実践オペレーションズリサーチ	中川	火	A		10	ジャストインタイムとSCM	今岡	金	B		51
ファイナンスマネジメント(*:CFP必修)											
春学期						秋学期					
科目名	教員名	曜日	パターン		頁	科目名	教員名	曜日	パターン		頁
ファイナンスマネジメント概論-I *	宇佐美	日	A	PM	11	ファイナンスマネジメント概論-II *	宇佐美	日	B	PM	52
パーソナルファイナンス *	紀平	水	B		12	管理会計	金子	火	A		53
タックスプランニング *	ハツ井	金	A		13	法の経済分析 *	宇佐美	日	A	PM	54
金融工学	中岡	土	A	PM	14	リアルオプション	中岡	土	B	PM	55
金融実務と資本主義	堀内	金	B		15	統合リスクマネジメント *	樋渡	土	A	PM	56
ヒューマンリソースマネジメント											
春学期						秋学期					
科目名	教員名	曜日	パターン		頁	科目名	教員名	曜日	パターン		頁
ヒューマンリソースマネジメント概論	徳岡	金	B		16	ヒューマンリソースマネジメント概論	徳岡	金	B		57
インナーコミュニケーション	徳岡	水	A		17	組織コンセプトと組織デザイン	橋本	土	B	PM	58
モチベーションとエンゲージメント	舞田	木	B		18	実践組織変革	浜田	月	A		59
職場のメンタルヘルスとウェルネス戦略	寺内	金	A		19	実践人事戦略	佐藤	火	A		60
ヒューマンリソースエンパワーメント	富田	月	A		20	組織行動とリーダーシップ	須東	日	A	AM	61
インテグレーションマネジメント											
春学期						秋学期					
科目名	教員名	曜日	パターン		頁	科目名	教員名	曜日	パターン		頁
インテグレーションマネジメント概論	橋本	日	A	AM	21	インテグレーションマネジメント概論	橋本	日	A	PM	62
実践アントレプレナーシップ	本荘	月	A		22	実践経営実学	紺野	金	A		63
ベンチャー経営	柳	土	B	PM	23	サービスイノベーション	諏訪	水	B		64
ITプロジェクトマネジメント	西沢	土	A	AM	24	ビジネスシミュレーション	明賀	日	集中		65
事業プロジェクトマネジメント	楠田	土	A	PM	25	カルチャーベースマネジメント	徳岡	水	A		66

ビジネスアウトレット《アントレ(イントラ)プレナー・NPO・NGO》											
春学期						秋学期					
科目名	教員名	曜日	パターン		頁	科目名	教員名	曜日	パターン		頁
医療介護事業の未来	真野	木	A		26	ヘルスケアと関連事業マネジメント	真野	月	A		67
医療経営戦略	家里	土	A	AM	27	医療保険とソーシャルビジネス	川井	土	A	PM	68
地域観光ビジネス	丁野	火	B		28	地域デザイン戦略	原田	水	A		69
ビジネスパーソンの出版戦略	永井	土	B	AM	29	ロジスティクスビジネス	角井	月	B		70
社会起業家演習	中村	水	A		30	社会的企業演習	田中	土	A	AM	71
世界・アジア・日本の変化											
春学期						秋学期					
科目名	教員名	曜日	パターン		頁	科目名	教員名	曜日	パターン		頁
ソーシャル・アントレプレナー	田坂	火	A		31	ソーシャルイノベーション	田坂	火	A		72
ビジネスモデルジェネレーション	紺野	日	集中		32	日本型CSR	田坂	火	B		73
現代中国のビジネスと経営	沈	日	集中		33	現代中国に於ける企業経営	沈	日	集中		74
日本を取り巻く経済の動き	下井	土	B	AM	34	東アジアのビジネスと経済	金	水	B		75
行動ファイナンス	濱田	月	A		35	金融市場の変化と企業経営	福島	木	A		76
ビジネスの基盤知識											
春学期						秋学期					
科目名	教員名	曜日	パターン		頁	科目名	教員名	曜日	パターン		頁
知識創造経営	紺野	木	A		36	イノベーションのためのデザイン思考	紺野	日	集中		77
企業法務	宇佐美	日	B	PM	37	経営者のための経済学	瀧澤	日	集中		78
社会的企業論	田坂	火	B		38	図解コミュニケーション	久恒	金	B		79
経営基礎数学	小野里	金	A		39	統計モデルの基礎	岡太	木	A		80
比較文化論	歌川	土	A	PM	40	人間力向上と日本文化	辻	木	B		81
経営トピックオムニバス											
春学期						秋学期					
科目名	教員名	曜日	パターン		頁	科目名	教員名	曜日	パターン		頁
地域社会とヘルスケア	真野	火	A		41	グローバルビジネスのマネジメントスタイル	橋本	火	B		82
インターゼミ	長田	土	毎週		83	インターゼミ	長田	土	毎週		83

ビジネスICT											
春学期						秋学期					
科目名	教員名	曜日	パターン	時限	頁	科目名	教員名	曜日	パターン	時限	頁
国際情報戦略	金	土	B	1・2	84	プロジェクトマネジメント入門	西沢	土	A	1・2	89
ICTイノベーションⅠ	出原・中村	土	毎週	3	85	ICTイノベーションⅡ	出原・中村	土	毎週	3	90
ICTマーケティングⅠ	豊田・今泉	土	毎週	4	86	ICTマーケティングⅡ	今泉他	土	毎週	4	91
ICTメトリクスⅠ	諸橋・彩藤	土	毎週	5	87	ICTメトリクスⅡ	大森他	土	毎週	5	92
ICT基礎技術入門Ⅰ	今泉・出原	土・日	集中		88						

【注意】CFP受験資格の取得について
 CFP必修科目(下記6科目)に加え、論文演習(宇佐美)を2期以上受講し、提案書作成の指導を受けることとす
 ・ファイナンスマネジメント概論-Ⅰ *
 ・パーソナルファイナンス *
 ・タックスプランニング *
 ・ファイナンスマネジメント概論-Ⅱ *
 ・法の経済分析 *
 ・統合リスクマネジメント *

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	村山貞幸
■講義名（和文）：	マーケティング・マネジメント概論
■サブタイトル：	マーケティングの基本的な理論と思考法
■講義名（英文）：	Marketing Management
■講義目的： マーケティングの基本的な理論、フレームワークと思考法を学習する。	
■講義要旨： ディスカッション＋講義の形式で学習する。マーケティング実務に不可欠な理論、フレームワーク、思考法の理解を、さまざまなビジネス事例を題材にディスカッションしながら深めていく。	
■講義の進め方： 全 8 講	
〔第 1 講〕	イントロダクション マーケティング戦略 環境分析
〔第 2 講〕	マーケティング戦略 セグメンテーション・ターゲッティング
〔第 3 講〕	マーケティング戦略 ポジショニング、マーケティングミックス
〔第 4 講〕	マーケティング戦略 競争戦略、戦略立案
〔第 5 講〕	研究発表
〔第 6 講〕	研究発表
〔第 7 講〕	マーケティング戦略 顧客リレーション
〔第 8 講〕	まとめ

■教科書等： 指定図書

グロービス・マネジメント・インスティテュート編著『MBAマーケティング』（改訂 3 版あるいは新版）（ダイヤモンド社）

■評価について： 評価方法・基準など

発言の量&質 50%、レポート 50%

■その他： 特に留意する事項など

初回クラスには、少なくとも教科書の第 1～4 章を読んでもくること。

受講生のバックグラウンドや数により内容を変更することがある。

受講人数の下限を設定します。オリエンテーション時に連絡。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	村山貞幸
■講義名（和文）：	実践 Web マーケティング
■サブタイトル：	実践的ウェブビジネスのアプローチ
■講義名（英文）：	Web marketing
■ 講義目的： 本講義では、実際の Web marketing 担当者をゲストとして迎え、実例をベースに、ウェブマーケティングの基礎から活用方法までを理解する。 豊富な先端事例により、受講生の担当事業及び企業戦略をウェブマーケティングの視点から構想、構築する力を身につける。また、ウェブビジネス担当になった際の、事業成功のための要諦の理解と、実現性高い事業計画をたてるための実践理論および実現力を身につけることを目指す。	
■ 講義要旨： 講義は、前半はウェブマーケティング基礎として、ウェブマーケティングの変遷（歴史）と現在のトレンドを踏まえて、事業機会はどのような視点で創出されてきたのかを知る。モデルケースとしてウェブビジネスの中心的企業の担当者をゲストとして迎え、ケースを元にディスカッション形式でウェブマーケティングの基礎を体感する。後半は、事業担当者がぶつかる壁とその対処法を身につける。現場の担当者や投資家、企業経営者とのケーススタディとディスカッションを中心とする。最終講義では、ウェブマーケティングを活用した事業企画の最終発表とフィードバックを行う。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	オリエンテーション／ウェブマーケティングの歴史と生態系
〔第 2 講〕	ウェブマーケティングの活用変遷／KPI マネジメント
〔第 3 講〕	ウェブマーケティング基礎 1：EC 事業
〔第 4 講〕	ウェブマーケティング基礎 2：プラットフォーム事業
〔第 5 講〕	ウェブマーケティング基礎 3：ソーシャルネットワーク・メディア事業
〔第 6 講〕	ウェブマーケティング実践事例：実践しているメーカーなど
〔第 7 講〕	ウェブマーケティングと事業計画
〔第 8 講〕	受講者の事業におけるウェブマーケティング活用企画の発表（受講生数により分割し実施）

■ 教科書等：

参考図書：中澤功著『体系 ダイレクトマーケティング』ダイヤモンド社 2005 年、橋本大也ほか共著『新・データベースメディア戦略。オープン DB とユーザーの関係が最強のメディアを育てる』インプレスジャパン社 2008 年、中山淳雄著『ソーシャルゲームだけがなぜ儲かるのか』PHP ビジネス新書 2012 年

■評価について： 評価方法・基準など

出席 20%、発言の量&質 50%、レポート 30%

■その他： 特に留意する事項など

・ゲストを迎えての講義を予定していますので、ゲストの事業について予習をしてください。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	原田保
■講義名（和文）：	マーケティング戦略
■サブタイトル：	知行合一の重要性を体得する
■講義名（英文）：	Marketing Strategy
■講義目的：マーケティング理論の実践への活用ができる人材を育成する、講義を通じて個人の抱える課題を解決すると同時に、議論の成果を広く社会的に公開する。	
■ 講義要旨： 毎回設定されるテーマに依拠した提案をパワーポイントを使用してプレゼンし、それにもとずいた議論を行う。最後に全体としての共通認識を共有する。優れた研究については、広く社会に対して常用発信すると同時に、外部組織とのネットワーク形成を指向する。インプットよりはアウトプットを重視する。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	オリエンテーション
〔第 2 講〕	マーケティング戦略の全体像を理解する。（イントロ、プレゼン、ディスカス、インプリ）
〔第 3 講〕	パーソナルマーケティングの手法を理解する。（イントロ、プレゼン、ディスカス、インプリ）
〔第 4 講〕	ブランドマーケティングの新機軸を理解する。（イントロ、プレゼン、ディスカス、インプリ）
〔第 5 講〕	奈良のブランディング手法を理解する。（イントロ、プレゼン、ディスカス、インプリ）
〔第 6 講〕	温泉のビジネスモデルを理解する。（イントロ、プレゼン、ディスカス、インプリ）
〔第 7 講〕	スロースタイルマーケティングを理解する。（イントロ、プレゼン、ディスカス、インプリ）
〔第 8 講〕	クリエイティブジャパンを理解する。（イントロ、プレゼン、ディスカス、インプリ）

■ 教科書等： 指定図書

①マーケティング戦略論（原田・三浦編著）、②戦略的パーソナル・マーケティング（原田）、③ブランドデザイン戦略（原田・三浦編著）、④奈良のコンステレーションブランディング（予定）〔原田、武中、鈴木〕、⑤温泉ビジネスモデル（原田、大森、西他編著）、⑥スロースタイル（原田・三浦編著）、⑦クリエイティブジャパン（予定）（寺本、原田、中西）

■ 評価について： 評価方法・基準など

プレゼン、ディスカスの質と回数を重視する。

■ その他： 特に留意する事項など

学会活動や執筆活動を希望する人は歓迎です。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	朝野 熙彦
■講義名（和文）：	マーケティング・リサーチ
■サブタイトル：	データ・リテラシーの基礎
■講義名（英文）：	Marketing Research
■講義目的：調査を通じて顧客ニーズを発見し、データにもとづいてマーケティング計画を策定するためのマーケティング・リサーチを学ぶ	
■ ■講義要旨：マーケティング・リサーチの実践例を紹介する。広範にわたるリサーチ課題の中でも新製品・新規事業開発のリサーチに重点を置くので、新規ビジネスのプランナーや起業家に役立つだろう。初心者のための入門講義である。調査は実証研究を進める上で欠かせない社会科学の道具である。データを収集するだけでなくデータを理解する能力を養っておくことは、修論作成にあたって有用であろう。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	マーケティング・リサーチの歴史 古代にはじまった統計調査が、マーケティングの要請に応じてその後どのように変化してきたかをたどる
〔第 2 講〕	サンプリング調査と尺度の区分 標本調査の理論的な基礎であるサンプリング理論と、測定尺度の基礎を学ぶ
〔第 3 講〕	新製品コンセプト開発のための調査 コンジョイント分析の適用事例と属性水準の設計法を学ぶ
〔第 4 講〕	ハフモデルと M C I モデル 商業立地のモデルを紹介し、日本ではどのように適用されてきたかを検討する
〔第 5 講〕	ホンネを聞き出す調査票 調査票に起因する様々な誤差を学び、調査票の作成実習を行う
〔第 6 講〕	レポートの書き方 特に統計グラフの読み方を通じて、因果推論の誤りについて学ぶ
〔第 7 講〕	ビールの試飲テストを事例にして調査計画について検討する
〔第 8 講〕	プレゼンテーションと講評

■教科書等：教科書 朝野熙彦編著「アンケート調査入門」（東京図書）

参考書 朝野熙彦「マーケティング・リサーチ」（講談社）

■評価について：出席 40%、実習結果の発表 60%。

■その他：履修上の前提知識は不要です。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	首藤 明敏
■講義名（和文）：	ブランド戦略
■サブタイトル：	実践ブランドマネジメント
■講義名（英文）：	Branding Strategy
■講義目的：ブランド戦略に関する理解を図るとともに、実際の企業経営の中でブランドに関する意思決定やマネジメント課題解決の立場に立った時に有効な、実践的な知識や思考方法を学習する。	
■講義要旨：ブランド戦略の実践に必要な思考法・フレームワーク・実践法を、講義及び、さまざまな事例のディスカッションや、演習、シミュレーションを通じて、体得していく。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	企業経営におけるブランドの重要性と役割（イントロダクション） 演習：好きなブランド～相互デプスインタビューとディスカッション
〔第 2 講〕	ブランド戦略とは何か 演習：各自テーマブランドを決めて、ブランド提供価値とパーソナリティを規定し、発表・討議（レポート提出）
〔第 3 講〕	業種・業態に応じたブランド戦略（サービス・B2B・グループ経営・グローバル等） ゲストセッション：企業でブランド戦略に関わった担当者もしくは専門家の講義
〔第 4 講〕	ブランドコミュニケーション戦略 （ブランド顧客接点管理とインターナルブランディング）
〔第 5 講〕	ブランド体系の戦略的管理 ミニケース：マスバーガーとケンタッキー
〔第 6 講〕	ブランド戦略ゲーム① ブランドマーケティングをテーマとしたシミュレーションゲームの実施
〔第 7 講〕	ブランド戦略ゲーム② ブランドマーケティングをテーマとしたシミュレーションゲームの実施（レポート提出）
〔第 8 講〕	ブランド戦略と事業イノベーション（講義まとめ）

■教科書等： 指定図書

①図解ブランドマーケティング(新版)

博報堂ブランドコンサルティング著 日本能率協会マネジメントセンター 2009 年

②ブランド・リーダーシップ『見えない企業資産』の構築

デービッド・A.アーカー、ダイヤモンド社 2000 年

③参考 URL：<http://www.hakuhodo-consulting.co.jp>

■評価について： 評価方法・基準など

出席率、議論参画度、プレゼン&レポート、シミュレーションゲーム結果

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	松本 忠雄
■講義名（和文）：	サプライチェーンマネジメント概論
■サブタイトル：	SCM の基礎知識
■講義名（英文）：	Introduction to Supply Chain Management
■講義目的：サプライチェーンマネジメントに関して、身に付けておくべき基本的な知識と考え方、その評価尺度等について学ぶこと。	
■ ■講義要旨：企業内はもとより企業間、そして消費者に至るサプライチェーンは、極めて多岐にわたるステークホルダーと関わりを持っている。これを最も適切にマネジメントするために求められる広汎な知識を逐次解説し、理解を深める。	
義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	企業経営における SCM の位置づけ。 物資輸送の歴史。
〔第 2 講〕	マテリアルフロー・ネットワーク。日本の取引制度の課題
〔第 3 講〕	SCM 情報システム、①業務処理系、②計画系
〔第 4 講〕	SCM で得られる情報とマーケティングへの利用
〔第 5 講〕	在庫管理とコスト管理
〔第 6 講〕	輸送関係。環境問題への対応
〔第 7 講〕	SCM 体制の構築事例
〔第 8 講〕	SCM 部門に求められる機能

■教科書等： 指定図書

特になし。

■評価について： 評価方法・基準など

出席 60%、授業への参画レベル 40%

■その他： 特に留意する事項など

.

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	松本忠雄
■講義名（和文）：	SCM-IT
■サブタイトル：	デジタルデータによる企業経営の刷新
■講義名（英文）：	IT SCM
■講義目的：現場で発生する日々の詳細データを、IT を駆使して収集解析することにより、SCM を通じて企業経営全般を改革する事例を学び、経営に必須の知識を習得する。	
■講義要旨： メーカー、流通業の実務経験を通じて実践してきた SCM の具体的事例、即ち、生のデータから情報を抽出し、更に知識レベルに高めるプロセスを詳細に解説し、SCM における基本的なノウハウを提供する事を主眼とする。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	ガイダンスとロジスティクスの基礎
〔第 2 講〕	ビジネスモデル
〔第 3 講〕	需要、出荷予測の実例
〔第 4 講〕	生産計画と在庫設計
〔第 5 講〕	コスト管理
〔第 6 講〕	ロジスティクスのネットワーク、 日本の商慣行の実態と問題点
〔第 7 講〕	SCM とマーケティングの関係
〔第 8 講〕	ロジスティクスにおける IT の役割

■教科書等： 指定図書

・原田保、多摩大学ルネッサンスセンター編（2004）、『ロジスティクス経営—新しいビジネスモデルの構築』、中央経済社

・原田保 編著（2005）、『コンテクストイノベーション ロジスティクスによる持続的競争優位』、白桃書房

■評価について： 評価方法・基準など

出席率 50%、口頭試問 50%

■その他： 特に留意する事項など

・質疑応答や議論を通じて授業に積極的に参加して頂きたい。

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	橋本 忠夫
■講義名（和文）：	人間工学とリスクマネジメント
■サブタイトル：	ノーマルアクシデントのメカニズム
■講義名（英文）：	Human Factors and Risk Management
■講義目的：人間の誤解・錯覚・ウツカリミスが経営に致命的影響を及ぼす時代のマネジメントについての認識を深める	
■講義要旨：日常的業務のなかでの悪意のない誤解・錯覚・ウツカリミスが、経営や社会に大きな影響を及ぼす事故/トラブルが頻発している。それらに対し、オペレータと管理者の処分・マニュアル追加という伝統的対応が、大事故の再発を繰り返す大きな要因となっている。トラブル発生とそれが経営全体にまで影響するメカニズム及び真の原因究明や根本的再発防止策が実行されない理由の考察を通じて、大事故未然防止策と同時に経営&経営者の錯覚・誤解についての考察を深める。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	リスクとは何か リスクマネジメントのフレームワーク 悪意のない大事故とは オペレーション（現場業務）に対するマネジメントの誤解
〔第 2 講〕	マンミス/マシンミス/マンマシンシステムミスと人間工学 オペレーションマネジメントの基本的考え方と方法
〔第 3 講〕	人間工学（誤解/錯覚）とは マンミス・マシンミスのメカニズム マンミス防止/マシンミス防止 7 カ条 システムデザインと人間工学
〔第 4 講〕	マンマシンシステム事故事例① スリーマイル島原子力発電所事故
〔第 5 講〕	マンマシンシステム事故事例② 福島第一原子力発電所事故
〔第 6 講〕	経営に対する刑事事件（業務上過失致死傷罪）の影響の大きさ 経営事件・経営責任/刑事事件・刑事責任
〔第 7 講〕	日本社会の文化風土と過失事故 未然防止/再発防止システムデザインとその阻害要因 システム設計の重要性（技術者の仕事と経営者の仕事） BCP（Business Continuity Plan） レジリエンスエンジニアリング
〔第 8 講〕	まとめ 未然防止/危機管理/再発防止 トップのコミットメントと責任

■教科書等： 参考図書

- ・「恐怖の 2 時間 18 分」柳田邦男 文芸春秋
- ・「福島原発事故調」-民間/政府/国会-
- ・NHK ビデオ

■評価について： 評価方法・基準など

出席率、議論参画度、最終レポートのレベル

■その他： 特に留意する事項など

- ・読む・書くに加え、聴く・話すことがビジネス（経営実学）力向上のキーポイント、を実感すること
- ・知識獲得と知識創造 現実の場における当事者意識と自分自身の思考の重要性を認識すること

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	今岡善次郎
■講義名（和文）：	ドラッカーと SCM
■サブタイトル：	人と人の繋がり連鎖
■講義名（英文）：	P.F.Drucker and SCM
■講義目的：ドラッカーは戦略（頭）だけではなく精神（心）や実践（身体）の領域まで人間の本質を捉えたマネジメントを説きました。現場の努力を成果に活かすためのマインドセット（修業）を作することを目的とします。	
■講義要旨：「企業とは資源を顧客満足に変換する経済連鎖の『環』である」と言うドラッカーの企業観は、企業を機械システムとしてではなく人間中心の社会の器官として、社会との繋がりを重視しています。江戸時代の商人道を説いた石田梅岩や明治日本の資本主義の父でドラッカーが称えた「論語と算盤」を書いた渋沢栄一も解説します。東西の人類の英知も最近の脳科学も、ドラッカーの人間観察を裏付けていることを話します。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	仕事は心と頭と身体をつかう 仕事術としての SCM の定義、仕事術を説いたドラッカー
〔第 2 講〕	ドラッカーの社会観と人間の本質
〔第 3 講〕	ドラッカーの社会生態学、マネジメント、マーケティング、イノベーション
〔第 4 講〕	仕事術として精神（心）戦略（頭）実践（身体）の型で理解するドラッカー
〔第 5 講〕	精神（心）の領域：仕事に情熱を持て。顧客、ビジョン、使命 人と人の繋がり、使命、社会
〔第 6 講〕	戦略（頭）の領域：努力を成果に変えよ。現実を受け入れる。学べ。目標を絞れ。 現場現実重視、因果関係、帰納法と演繹法、SECI モデルとの関係
〔第 7 講〕	実践（身体）の領域：最短で成果をあげよ。時間を活用せよ。統合せよ。流れを作れ。 現実としてのロジスティクス
〔第 8 講〕	まとめ

■教科書等： 指定図書

「経営者の条件」「イノベーションと企業家精神」（ピーター・F・ドラッカー、ダイヤモンド社）

■評価について： 評価方法・基準など

出席率、議論参加度、関心度など一枚レポート

■その他： 特に留意する事項など

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	中川 義之
■講義名（和文）：	実践オペレーションズリサーチ
■サブタイトル：	
■講義名（英文）：	Practical Approach on Operations Research
■講義目的： (1) 経営の科学と称されるオペレーションズリサーチ（OR）について、その実践の真髄を知る (2) 経営問題を含む様々な問題を、オペレーションズリサーチ的な視点で捉え、 整理・解決する方法を習得する	
■ ■講義要旨： (1) オペレーションズリサーチについてその発祥と発展の過程・歴史を解説する (2) 事例研究を通じて、「OR」を問題把握・整理から解決に至るまでの問題解決法として 捉えその一連のフレームワークを体得し、各受講生の探索・提起した実問題への適用を試みる	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	オリエンテーション — 講義の狙い、進め方、要望等の確認 オペレーションズリサーチ（OR）とは何か — 発祥の歴史、発展の経緯、現状
〔第 2 講〕	オペレーションズリサーチ問題の事例研究(1) — OR 問題の紹介とその捉え方
〔第 3 講〕	オペレーションズリサーチ問題の探求 — OR 的な視点での問題の整理法（討議主体）
〔第 4 講〕	オペレーションズリサーチ問題の解決法 — 各種手法の紹介 実問題における OR 的な問題解決法 — 事例をもとにした 多角的視点で問題解決法紹介
〔第 5 講〕	OR 実践のためのフレームワーク — OR 的な視点での問題解決推進手順、実践における留意点
〔第 6 講〕	オペレーションズリサーチ問題の事例研究(2) — 実例をもとにしたフレームワークの検証 オペレーションズリサーチ実践へ向けて(1) — OR 問題探索と解決法についての研究（討議主体）
〔第 7 講〕	オペレーションズリサーチ実践へ向けて(2) — OR 問題探索と解決法についての研究（討議主体） 実学としてのオペレーションズリサーチ — OR の『実際の顔』
〔第 8 講〕	総括

■教科書等： 参考図書

- ・「オペレーションズ・リサーチ ～システムマネジメントの科学～」 貝原俊也著、オーム社、2004 年
- ・「問題解決のためのオペレーションズ・リサーチ入門」 高井英造著、日本評論社、2000 年
- ・「OR用語辞典」 日本オペレーションズ・リサーチ学会著、日科技連出版社、2000 年
- ・「離散構造とアルゴリズム（3）」 室田一雄編、近代科学社、1994 年
- ・「変革のリエンジニアリング」 梶原秀之著、中川義之監修、ダイヤモンド社、2011 年

■評価について： 評価方法・基準など

出席状況、レポート、討議への参加度、発表などを総合して評価します

■その他： 特に留意する事項など

講義の目的、レベル、進め方等については第一回目の授業で詳しく説明します

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	宇佐美 洋
■講義名（和文）：	ファイナンスマネジメント概論Ⅰ（CFP 必修）
■サブタイトル：	ファイナンスの入門
■講義名（英文）：	Corporate Finance
■講義目的： 金融・財務・企業評価・リスクマネジメントの基礎習熟と「仕組み」の把握に重点を置きます。 ■講義要旨： 現在価値、ポートフォリオ理論、資本調達、投資、いったファイナンスの基礎知識に習熟する。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	企業とは
	財務諸表
〔第 2 講〕	裁定取引と財務的意思決定
	貨幣の時間的価値
〔第 3 講〕	金利
	投資意思決定
〔第 4 講〕	資本予算の基本
	債券の評価
〔第 5 講〕	株式の評価
	資本市場とリスク評価
〔第 6 講〕	最適ポートフォリオ選択と CAPM
	資本コストの推定
〔第 7 講〕	投資行動と資本市場の効率性
	完全市場での資本構成
〔第 8 講〕	負債および租税

■教科書等： 指定図書、参考図書、参考 URL など

教科書：

“Corporate Finance, 2nd ed.” J. Berk & P. DeMarzo, Pearson, 2009（邦訳あり、原テキストは共同購入を予定します。）

参考図書：

「コーポレート・ファイナンス」岩村充著、中央経済社、2013年

「FP テキスト 金融資産運用設計」日本FP協会

■評価について： 出席率および講義参加の積極性などにより評価する。

■その他： 特に留意する事項など：

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	紀平正幸
■講義名（和文）：	パーソナルファイナンス
■サブタイトル：	今後の厳しい雇用・賃金環境や社会保障制度のもとで自立できるライフプランの構築
■講義名（英文）：	Personal finance
■講義目的： 生活者の約 7 割が将来の生活設計に不安を感じている原因を解明して、従来型の意識・価値観の改善を目指したポジティブなライフプランを目指すパーソナルファイナンスを学ぶ。	
■講義要旨： 少子高齢化やグローバル化など我が国の社会経済の構造変化に伴い、生活者の経済環境が大きく変化している。また、雇用や所得、福祉、医療、年金など社会保障を国や企業だけに依存できなくなったため、生活者は自立型ライフプランの構築が不可欠となった。 授業では、年金、社会保障、金融、保険、住宅、ライフプランなど、テーマとなるパーソナルファイナンスの実践的な知識と課題などの理解を深めながら、今後の厳しい社会環境に向けた新しいライフプランの考え方や、価値観の改善などについて議論する。	
■講義の進め方： 全 8 講	
〔第 1 講〕	生活者を取り巻く社会経済環境の現状と改善すべき家計経済の意識・価値観について ① 少子高齢化による社会保障制度の変化と生涯のライフプランに与える影響
〔第 2 講〕	生活者を取り巻く社会経済環境の現状と改善すべき家計経済の意識・価値観について ②教育資金プランニング
〔第 3 講〕	生活者を取り巻く社会経済環境の現状と改善すべき家計経済の意識・価値観について ③住宅資金プランニング
〔第 4 講〕	生活者を取り巻く社会経済環境の現状と改善すべき家計経済の意識・価値観について ④死亡・医療保険プランニング
〔第 5 講〕	生活者を取り巻く社会経済環境の現状と改善すべき家計経済の意識・価値観について ⑤貯蓄と資金運用プランニング
〔第 6 講〕	生活者を取り巻く社会経済環境の現状と改善すべき家計経済の意識・価値観について ⑥公的年金と社会保険活用プランニング
〔第 7 講〕	生活者を取り巻く社会経済環境の現状と改善すべき家計経済の意識・価値観について ⑦リタイアメントプランニングと生涯キャッシュフローの検証、相続プランニング
〔第 8 講〕	生活者を取り巻く社会経済環境の現状と改善すべき家計経済の意識・価値観について ⑧まとめ「経済成長時代から成熟時代へ意識・価値観を転換するには」

■教科書等： 指定図書

①日本FP協会発行：FPテキスト（平成24年度）「パーソナルファイナンス」「金融資産運用設計」「不動産運用設計」「リスクマネジメント」「タックスプランニング」「相続・事業承継設計」

②紀平正幸著「図解パーソナルファイナンス」（講義時に配布）

■評価について： 評価方法・基準など

出席率および授業での発言や議論参加など積極性等により評価する。

■その他： 特に留意する事項など

・CFP受験資格認定希望者は必須科目です。

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	ハツ井 久嘉
■講義名（和文）：	タックスプランニング
■サブタイトル：	税制の「しくみ」とその「活用」～生活者、起業者のために～
■講義名（英文）：	Tax Planning
■講義目的：本講座は生活者に係る税金、起業を目指す者に役立つ税金の知識を得ることを目的とする。これらの習得により「生活力」向上の一助としたい。 ■講義要旨：一般生活者として所得の種類を問わず係わりのある所得税を体系的に学ぶ。 また、起業を目指す者に必須の法人税の他、消費税、住民税等の概略を学ぶ。 随時、税制改正の動向やその背景についても触れる。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	「タックスプランニング」の意義、租税法律主義 所得税 1 所得税の計算の概要 受取利子や受取配当の税金
〔第 2 講〕	所得税 2 賃貸収入の税金 青色申告と白色申告、減価償却、事業専従者 給与や退職金の税金
〔第 3 講〕	所得税 3 土地建物の譲渡、年金等の税金 所得控除（配偶者控除、扶養控除等）とタックスプランニング
〔第 4 講〕	所得税 4 所得控除（社会保険料控除等）とタックスプランニング 所得税の計算 申告・納税等の手続の概要
〔第 5 講〕	所得税 5 「損失」についての取扱とタックスプランニング 個人住民税・事業税の概要
〔第 6 講〕	法人税 1 「会計上の損益」と法人の所得の関係 主な益金（受取配当等）と損金（役員報酬、交際費等）の取扱
〔第 7 講〕	法人税 2 法人税額の計算 申告・納税 同族会社に係る特別な取扱 法人住民税・事業税の概要 消費税の概要
〔第 8 講〕	会社設立とタックスプランニング ライフプランニングと税金

■教科書等： 指定図書

日本 F P 協会発行 「F P テキスト 5 タックスプランニング 平成 24 年度」

■評価について： 評価方法・基準など

出席率と受講意欲、終了時レポート（1200 字程度）等を総合勘案して評価します

■その他： 特に留意する事項など

C F P 必修科目です

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	中岡 英隆
■講義名（和文）：	金融工学
■サブタイトル：	企業価値創造と M&A 戦略のためのファイナンス
■講義名（英文）：	Financial Engineering
■講義目的：最新のファイナンス理論と企業金融，ガバナンス論，資源ベースの経営戦略論を融合し，最前線の企業活動を読み解きながら，企業の M&A 戦略や価値創造力についての洞察力を深める。	
■講義要旨：企業のグローバル化が進み，日本企業においても国内外での M&A 戦略が経営上の最重要課題になっている。本講義では，コーポレート・ガバナンスや Resource-Based View の経営戦略論などの視点を織り交ぜながら，オプション理論を活用した株主価値，負債価値，資産価値の評価の手法を学び，実際のケース・ワークを通して企業の資金調達や M&A の評価を行なう。また，マネジメントによる企業価値創造力や M&A に対する市場の評価を理論的に分析し，M&A の戦略・経済性について洞察を深める。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	M&A の経済性と事業価値， 資本構成と配当政策
〔第 2 講〕	企業金融とガバナンス論， オプションと企業価値
〔第 3 講〕	M&A と買収防衛策の事例研究， M&A 戦略と経営資源
〔第 4 講〕	離散時間モデルとリスク中立化法， Black-Scholes 方程式とマルチンゲール
〔第 5 講〕	Merton モデルと負債・資産の市場価値， 演習「TBS の買収防衛策と株主価値・負債価値」
〔第 6 講〕	演習「市場データに基づく負債・資産価値の測定」， 事例研究「買収対象企業の財務分析」
〔第 7 講〕	事例研究「買収防衛策と株主価値・負債価値」， 事例研究「マネジメントの経営価値創造力とイベントスタディ」
〔第 8 講〕	ファイナンス理論の現状と課題

■教科書等： 指定図書

教科書： 毎回配布のレジュメによる。

指定図書： [1] 中岡英隆 [2009]，「企業における資源開発事業の統合リスク評価」『ジャフィー・ジャーナル：ベイズ統計学とファイナンス』日本金融・証券計量・工学学会，179-205，朝倉書店。

[2] 中岡英隆 [2011]，「マネジメントの価値創造力と M&A の評価」『ジャフィー・ジャーナル：バリエーション』日本金融・証券計量・工学学会，114-133，朝倉書店。

[3] 木島正明 (2002)，「金融工学」日経文庫。

■評価について： 評価方法・基準など

出席状況および授業への参加姿勢と課題発表・レポートにより評価する。

■その他： 特に留意する事項など

・概ね文系レベルの数学と EXCEL の知見を前提とする。

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	堀内 勉
■講義名（和文）：	金融実務と資本主義
■サブタイトル：	ファイナンスの実務を企業経営と資本主義社会とのつながりの中で考える
■講義名（英文）：	Financial Business Practices and Capitalism
■講義目的：不動産ファイナンスを中心とした最新の金融実務を理解すると同時に、金融が企業経営や資本主義社会の中で果たすべき役割について議論する。	
■講義要旨：企業経営におけるファイナンスの実務と役割について、資金の調達者（企業財務）と仲介者（金融機関）の双方の観点から、実際のトピックを題材にゲストスピーカーを交えて議論すると同時に、現代資本主義社会における金融の果たす役割と課題について幅広く議論することを通じ、ファイナンスについての包括的な理解の醸成を目指す。	
■講義の進め方： 全 8 講	全 8 コマをファイナンスの基礎的知識の習得、実際のケースを用いた演習、ゲストスピーカーによる講演の 3 つに分け、最後に金融と企業統治と資本主義についての総合ディスカッションを行う。
〔第 1 講〕	財務の基礎、経理の基礎、ストラクチャードファイナンスの基礎 ケーススタディ：都市開発のファイナンス（六本木ヒルズ）
〔第 2 講〕	投資の理論と実務 ケーススタディ：リートの組成・上場（森ヒルズリート） 投資事業の実務[ゲストスピーカー]
〔第 3 講〕	不動産と金融との融合 ケーススタディ：海外不動産開発のファイナンス（SWFC 上海環球金融中心） 我が国の不動産ファイナンス市場[ゲストスピーカー] ソブリンウェルスファンドの実態[ゲストスピーカー]
〔第 4 講〕	金融の仕組みと我が国の金融制度 我が国の金融規制の枠組み[ゲストスピーカー]
〔第 5 講〕	我が国の金融制度の変化、リーマンショック後の新たな金融潮流 バブル崩壊後の金融危機と不祥事[ゲストスピーカー]
〔第 6 講〕	新しいコーポレートガバナンスの在り方[ゲストスピーカー] これからの資本主義の在り方[ゲストスピーカー]
〔第 7 講〕	金融機関の業務と職場 外資系金融機関での働き方[ゲストスピーカー] グローバル化の進展と求められる人材の変化 [ゲストスピーカー]
〔第 8 講〕	まとめ：全体のラップアップと修了ペーパーについての議論

■教科書等： 参考図書

「CF0の実務－企業価値向上のための役割と実践」あずさ監査法人、” Roppongi Hills: City Within a City”
Harvard Business Publishing、「不動産証券化ハンドブック」（財）不動産証券化協会

■評価について： 評価方法・基準など

出席率、議論参加度、修了レポートのレベル

■その他： 特に留意する事項など

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	徳岡晃一郎
■講義名（和文）：	ヒューマンリソースマネジメント概論
■サブタイトル：	知識創造型企業の人事戦略
■講義名（英文）：	Human resources strategy of knowledge-creating company
■講義目的：経営戦略を実行に移すための鍵となる人事戦略の基本および知識経営時代の新しい人事戦略について理論と事例を基に考える。	
■講義要旨：変化とスピードの時代を迎えて、企業はイノベーションや戦略の転換、M&A やリストラなどさまざまな変革をおこなっているが、それらはすべて社員によって実行されるものであり、人事戦略が変革の成否を握っている。そのような戦略的な人事のあり方を知識経営の文脈の中で検討し、知識創造型企業への転換にどのように人事が貢献できるのか考えていく。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	人事戦略の基礎 1：人事管理の目的、主な領域と課題、これまでの主な人事戦略のフレームワーク
〔第 2 講〕	人事戦略の基礎 2：経営戦略論と人事戦略の関係、知識創造と人事戦略の関係
〔第 3 講〕	評価制度：これまでの評価制度の概要（年功制と成果主義）と功罪。なぜ知が創造されなくなったのか？
〔第 4 講〕	MB0（目標管理）から MBB（思いのマネジメント）へ
〔第 5 講〕	MBB の実践演習
〔第 6 講〕	MBB を実践するチェンジリーダーとは
〔第 7 講〕	ゲストスピーカーセッション：知識創造を実践している企業の人事部長を招いて
〔第 8 講〕	知識創造型人事部とは

■教科書等： 指定図書

「人事異動」徳岡晃一郎著、新潮社

「シャドーワーク」一條和生、徳岡晃一郎著、東洋経済新報社

「MBB：思いのマネジメント」一條和生、徳岡晃一郎、野中郁次郎著、東洋経済新報社

■評価について： 評価方法・基準など

- ・ クラス出席、参加度合、宿題、発表実施（70%）
- ・ 人事戦略に関する各自の課題論文（30%）

■その他： 特に留意する事項など

- ・ なし

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	徳岡晃一郎
■講義名（和文）：	インナーコミュニケーション
■サブタイトル：	組織変革を進めるチェンジマネジメントコミュニケーション
■講義名（英文）：	Internal communication strategy
■講義目的：経営戦略を実行に移すためには、社員を動かすことが必要であり、その手段の鍵がコミュニケーション。企業変革を進めるコミュニケーション戦略について理論と事例を基に考える。	
■講義要旨：変化とスピードの時代を迎えて、企業はイノベーションや戦略の転換、M&A やリストラなどさまざまな変革をおこなう必要に迫られているが、社員の意識がついてこないために失敗する例は枚挙に暇がない。社員を的確に動機づけ、変革へ向けて意識改革を行い、行動に駆り立てるか。その成否を握る社内コミュニケーションのあり方について事例を基に研究する。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	社内コミュニケーションの基礎：社内コミュニケーションの目的、主な領域と課題、社内コミュニケーションのフレームワーク
〔第 2 講〕	戦略としての社内コミュニケーション
〔第 3 講〕	チェンジマネジメントコミュニケーション
〔第 4 講〕	場づくりのコミュニケーション演習
〔第 5 講〕	コミュニケーションスキルアップ
〔第 6 講〕	リーダーシップコミュニケーション 1：コミュニティ開拓者
〔第 7 講〕	リーダーシップコミュニケーション 2：針路設定者
〔第 8 講〕	リーダーシップコミュニケーション 3：変革の仕掛け人

■教科書等： 指定図書

「リーダーシップ・コミュニケーション」ロバート・メイ、アラン・エイカーソン、徳岡晃一郎訳、ダイヤモンド社

「本気の集団をつくるチーム・コーチングの技術」徳岡晃一郎、ダイヤモンド社

「ミドルの対話型勉強法」徳岡晃一郎、ダイヤモンド社

■評価について： 評価方法・基準など

- ・クラス参加度合（70%）
- ・社内コミュニケーション戦略に関する各自の課題論文（30%）

■その他： 特に留意する事項など

特になし

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	舞田竜宣
■講義名（和文）：	モチベーションとエンゲージメント
■サブタイトル：	働く人の心をマネージする
■講義名（英文）：	Motivating & Engaging People at Work
■講義目的：人が組織において幸福を感じ、かつ組織に対して自発的に貢献しようとする、心理学的マネジメントについて理論と事例を基に考える。	
■講義要旨：現代の経営では、個人の「やる気」としてのモチベーションに加え、組織への「自発的な貢献意欲」であるエンゲージメントを働く人に持たせることが課題となっている。本講では、両者の違いや、その測定と向上のマネジメントなどについて、理論学習、事例研究、実践的な仮説検証などを試み、経営学と心理学（行動分析学）の学際的アプローチにより、人の行動と組織文化を変える力を身につけることを目指す。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	経営における心理学の役割(1)： 経営における人間観の変遷
〔第 2 講〕	経営における心理学の役割(2)： モチベーション理論の整理
〔第 3 講〕	エンゲージメントの本質と測定評価
〔第 4 講〕	モチベーションとエンゲージメントの向上(1) トータル・リワードと非金銭的報酬
〔第 5 講〕	モチベーションとエンゲージメントの向上(2) 組織開発のフレームワーク
〔第 6 講〕	組織を変える心理学(行動分析学)(1) 随伴性理論
〔第 7 講〕	組織を変える心理学(行動分析学)(2) 行動と文化を変えるテクニック
〔第 8 講〕	総合討論

■指定図書

「行動分析学で社員のやる気を引き出す技術」舞田竜宣、日本経済新聞出版社

「行動分析学マネジメント」舞田竜宣・杉山尚子、日本経済新聞出版社

「社員が惚れる会社のつくり方」舞田竜宣、日本実業出版社

■評価について： 評価方法・基準など

・クラス参加度合、宿題実施（70%）

・各自の課題論文（30%）

■その他： 特に留意する事項など

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	寺内 清高
■講義名（和文）：	職場のメンタルヘルスとウェルネス戦略
■サブタイトル：	健康経営の観点からの人事労務管理とリスクマネジメントとしての職場のメンタルヘルス対策
■講義名（英文）：	Occupational Mental Health and Wellness Strategy
■ 講義目的：メンタルヘルス関連の労働訴訟や労働審判事案が増加傾向を示しており、リスクマネジメントの観点からメンタルヘルス対策は経営にとって重要な位置づけとなっています。職場におけるメンタルヘルス対策は個人と組織の活性化のために不可欠であり、更には良い会社として企業の健全な発展のための原動力との認識が高まっています。「社員の健康は重要な経営資源」であり、従業員の健康を守り増進することは経営戦略の一つとして、今日の企業経営においてパワーハラスメント対策と共に職場のメンタルヘルス対策は重要且つ不可避な経営課題となっています。 ■ 本授業では企業におけるリスクマネジメント、労働訴訟リスク、人事労務管理の観点から企業の安全配慮義務、メンタルヘルス対策の必要性、及び職場でのメンタルヘルス不調への対応の大原則を実践的・体系的に理解することを目的とします。また、職場のストレスの実態とストレス関連疾患、多様化・多発化するうつ病などを体系的に学び、更に、メンタルヘルス不全になり易い職場や個人の生活環境・出来事、思考パターンなどを理解した上でメンタルヘルス不調者を早期発見、早期治療に結びつける方略（ストレスチェック）を実践的且つ事例を通じて学びます。 ■ 修士論文の書き方、アンケート調査方法、統計処理について解説・指導を行います。	
■講義要旨：約 60%の企業で“心の病が増加”し、1ヶ月以上の休職者がいる企業も 75%と増加傾向にあります。企業における精神疾患の 86%がうつ病と言われており、うつ病を正しく理解し対処することが、企業経営における労働効率の向上、生産性の向上、企業環境の醸成において重要な位置づけとなっています。うつ病等の精神疾患による長期休職者の存在やストレス不全から来る職務遂行能力の減衰、安全・品質保持の不安、生産性の低下、訴訟リスクなどに対し、如何にポジティブな組織運営を進めるかを心理学の観点を交え講義と討議を交えて学びます。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	グローバル化の中での企業のリスクマネジメントとしてのメンタルヘルス対策、厚生労働省の行政の動向及び欧米のメンタルヘルス対策について
〔第 2 講〕	職場のメンタルヘルス対策は何故必要か、健康経営の観点、労働判例、労働安全衛生法、労働契約法を踏まえて
〔第 3 講〕	職業性ストレスとは、ストレス理論と職場ストレスの実態、自身のストレス状態の把握
〔第 4 講〕	職場で注意すべきメンタルヘルス不調、睡眠障害とその対応
〔第 5 講〕	従来型うつ病、現代型うつ病の基礎知識と早期発見、早期治療の原則を実例を通じて学ぶ
〔第 6 講〕	職場のメンタルヘルス対策としてのストレス解消法、自律訓練法、ストレス解消体操
〔第 7 講〕	ストレス対策としてのコミュニケーションスキル向上のための自己分析（交流分析技法を中心に）
〔第 8 講〕	修士論文の書き方と統計処理について

■教科書等：「メンタルヘルス・マネジメント検定試験公式テキスト〔I 種マスターコース〕」（大阪商工会議所編、中央経済社）

■指定図書

- 1) 「判例から学ぶ従業員健康管理と訴訟対策ハンドブック」（サンヨー会研修実務委員会法令研究グループ編著、法研）
- 2) 「情報化時代のストレスマネジメント」（野村忍著、日本評論社）
- 3) 「DSM-IV-TR 精神疾患の分類と診断の手引き」、訳高橋三郎、大野裕、染矢俊幸、医学書院）
- 4) 「心の健康辞典」町沢静夫、朝日出版社

■評価について： 評価方法・基準など

レポート提出（2回を予定）、授業出席、参加度等による総合評価を行ないます。授業欠席、遅刻はマイナス評価とします。

■その他：特に留意する事項など

授業に積極的に参加し、討議・発表を通じて、自らが所属する事業所において如何にメンタルヘルス対策、ストレス対策を実施するか検討する場としたい。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	富田直美
■講義名（和文）：	ヒューマンリソース・エンパワメント
■サブタイトル：	成功者の必須要件“自分力”は最高のポジティブ思考“YES！Attitude”から
■講義名（英文）：	Human Resources Empowerment
■講義目的：グローバル・プロフェッショナル（GP）の育成。 GPに必要な“自分力”＋プロ能力をインタラクティブ・スタイルの授業の中で共に Empower（能力を授かる）する。	
■講義要旨： あなたには”自分力”と言える存在があるのだろうか？ 標準：基準(Standard)と標準化(Standardization)とは似て非なるもの。 20 世紀は Standardization が勝利を意味していたが、21 世紀の今、Standard（自己基準）が Key。 その為にも、更なるグローバル化の中で、真の成功者となる為には、普遍的な真理を常に求め続ける“自己基準”とそれを基に行動できる“自分力”が全ての成功の前提となる。 ICT、英語等を自由自在に使いこなせる事は当然の事だが。	
■講義の進め方：	全 8 講 熱血授業宣言：Live 感覚, インタラクティブ, プラクティカル、喧々諤々
〔第 1 講〕	自己 Standard のチェック、自分はどれだけ大切か？ Standardization と Standard の等、似て非なる概念の包括的理解
〔第 2 講〕	Global パーソンとは、 これからのプロフェッショナルとは？ 一流の概念？ Data、情報、知識、知恵、そして“知の富田モデル”
〔第 3 講〕	社会インフラ、道具としての ICT の完全理解（概念） Power Point, Mind Map の価値
〔第 4 講〕	YES! Attitude ワークショップ① 自身の内面の Attitude を洞察
〔第 5 講〕	YES ! Attitude ワークショップ② Attitude の自己認識 YES ! Attitude ワークショップ③ Attitude からの行動
〔第 6 講〕	YES ! Attitude ワークショップ④ Attitude の属性 YES ! Attitude ワークショップ⑤ Attitude の達成、その為のゲームプラン
〔第 7 講〕	ビジネス能力と成功者の因果関係 各自のミッション（使命）のチェック、確認
〔第 8 講〕	Empowerment の確認・発表

■教科書等： 指定図書

「全米トップ営業マンに学ぶポジティブ思考」ジェフリー・ギトマー 日経 BP 社

■評価について： 評価方法・基準など

①自己向上への本気度 ②Aggressive さ ③Positive さ ④Engagement, Involve 度

■その他： 特に留意する事項など

- グローバルである必然として英語を多用する場合がある。
- 常識破壊の覚悟

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	橋本 忠夫
■講義名（和文）：	インテグレーションマネジメント概論
■サブタイトル：	超複雑化経営環境下における総合化力向上マネジメントコンセプト
■講義名（英文）：	Integration Management
■講義目的：現代の超複雑化経営環境下における経営スタイルのキーとなるインテグレーションマネジメントについての理解を深める	
■講義要旨：グローバル化・IT 化・政治の影響増大・消費者の価値観やステークホルダーの多様化等により経営環境は超複雑化しており、的確な経営全体観がどれだけ優秀な経営者とそのスタッフにも見えなくなっている。そのため、「部分最適より全体最適を！」は、その実現が益々困難となっている。5 ドメインの経営実学に加え、基幹業務・プロジェクト業務・戦略業務のマネジメントの本質を実例によって学び、トップの役割とミドルの役割の変質について考察する。 それを通じてインテグレーションマネジメントが次世代経営スタイルのキーであることを学ぶ。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	マネジメントの歴史 深刻化するリスクマネジメントと経営者責任 従来型経営思想の問題点 全体最適の重要性とその限界 ピラミッド組織／フラット組織 分業／センター管理
〔第 2 講〕	基幹業務の本質とマネジメントのポイント 基幹業務に対する経営者のコミットメント S D C A サイクル／P D C A サイクル／S W A T サイクル
〔第 3 講〕	プロジェクト業務の本質とマネジメントのポイント P M 重点 5 項目
〔第 4 講〕	戦略業務の本質とマネジメントのポイント 制度設計力のポイント 戦略スタッフの役割と限界
〔第 5 講〕	問題解決力／ビジョン形成力 ロジカルシンキング・分析力／総合・構想力 ブレークダウン思考とインテグレーション思考 専門スキルとその位置付け
〔第 6 講〕	閉塞化 5 大要因 閉塞化状況打破のための経営理念・実学経営・コアネット経営 事業創続ネット E L P A S O 会
〔第 7 講〕	現役経営者講話
〔第 8 講〕	まとめ 人間理解力 グローバルネットワーク時代とインテグレーション風土 グローカリティ；スモールスタート 経営者の人間力と志

■教科書等： 指定図書

「変革型ミドルのための経営実学」橋本忠夫 芙蓉書房出版

「文明論の概略」 福沢諭吉

■評価について： 評価方法・基準など

出席率、議論参画度、最終レポートのレベル

■その他： 特に留意する事項など

- ・読む・書くに加え、聴く・話すことがビジネス（経営実学）力向上のキーポイント、を実感すること
- ・知識獲得と知識創造 現実の場における当事者意識と自分自身の思考の重要性を認識すること

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	本庄 修二
■講義名（和文）：	実践アントレプレナーシップ
■サブタイトル：	事業創造の理論と演習
■講義名（英文）：	Entrepreneurial Management
■講義目的： ベンチャー企業、大企業の新事業（新製品・サービス、事業転換を含む）など事業創造のための基礎としての知識、技術、思考法を学ぶ。対象は、起業家、社内起業家からチーム・メンバー、投資家、支援者まで事業創造に関わる、あるいはそれを志す人。	
■講義要旨： 講義と文献による理論的バックボーン習得とともに、新事業の立案や既存事業への戦略的代替案の策定を試み、受講生による発表とディスカッションなど実践的な演習を行う（ゲスト講義を含む）。併せて、自己の経営スタイルと着眼点、発想の再確認と進化を図る。なお、受講者の特性に応じて講義内容は調整を図る。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	講義・演習概要〔ガイダンス〕 アントレプレナーシップ概論、事業創造〔講義〕
〔第 2 講〕	事業機会特定、リーン・スタートアップ〔講義〕 ゲスト講義 1（経営者・新事業マネジャーによる）
〔第 3 講〕	新事業マーケティングと事業転換〔講義〕 グループ演習準備・議論
〔第 4 講〕	個人テーマ発表 ビジネスモデル、ビジネスプランと事業評価〔講義〕
〔第 5 講〕	グループ演習発表 ベンチャーキャピタルとファイナンス〔講義〕
〔第 6 講〕	研究課題（個人の事業案）中間レビュー 起業シナリオと成長戦略〔講義〕
〔第 7 講〕	研究課題（個人の事業案）の発表
〔第 8 講〕	総括

■指定文献： 『インキュベーションの虚と実』ダイヤモンドオンライン連載

<http://diamond.jp/category/s-incubation> 、その他コピーを配布

■参考図書： 一柳良雄・本庄修二ほか共著『一柳良雄のベンチャー実践塾』日刊工業新聞社 2003 年、大江建著『なぜ、新事業は成功しないのか？』日本経済新聞社 2008 年、スティーブン・G・ブランク ほか共著『スタートアップマニュアル』翔泳社 2012 年、伊藤良二著『成功するビジネスプラン』日経文庫 2005 年

■評価の方法・基準： 出席、クラス参加、発表、レポート（各講義を受講者で分担）。

■その他： メーリングリストで継続的にコミュニケーションを行う。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	柳 孝一
■講義名（和文）：	ベンチャー経営
■サブタイトル：	独立型ベンチャー、社内ベンチャーの経営者と共に学ぶ
■講義名（英文）：	Venture Management
講義目的：自ら起業する独立型ベンチャー、既存企業の中で起こす社内ベンチャーについて、理論体系を学び、加えてゲストスピーカーである経営者とのディスカッションで内容を深める	
講義要旨：日本の社会・経済は大変動期を迎えている。このような時こそ、今までの成功体験、枠組みを創造的破壊によって壊し、新たな発想でのベンチャー経営が必要である。しかし、ベンチャー経営にはリスクもあり、そのため理論と実践的ノウハウが必要である。理論を学んだ上で、経営者とのディスカッションで実践力を学ぶ。なお、ゲストスピーカーは、予定であり変更がありうる。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	ベンチャー経営の歴史 ベンチャー企業の定義 ベンチャー組織の体系 ベンチャー経営論の必要性 ベンチャー経営論の構築過程
〔第 2 講〕	前半 ベンチャー企業の成長過程と理論化のアプローチ 四面体理論の枠組み 後半 多摩大出身経営者による実践的体験論
〔第 3 講〕	前半 四面体理論のうち第一面、第二面のケースによる説明 後半 多摩大出身若手経営者の創業から今日まで
〔第 4 講〕	前半 四面体理論のうち第三面、第四面のケースによる説明 後半 IT 関連の最先端企業経営者の成功体験
〔第 5 講〕	前半 ベンチャーマネジメント変革理論と「創造的破壊」および矛盾のマネジメント 後半 ベンチャー企業と社会貢献型企業の両面を持つ経営者の体験
〔第 6 講〕	前半 非営利型ベンチャーの使命と役割 後半 NPO で活躍する経営者の実践報告
〔第 7 講〕	前半 既存企業の企業革新の必要性和企業革新論の構図 後半 「実践中小企業の新規事業開発」著者堀井朝運氏による実践論
〔第 8 講〕	全体まとめと、本講義を今後の人生にどう生かすかについてのディスカッション

■教科書等： 指定図書

「ベンチャー経営論 柳孝一著 日本経済新聞社」 「実践中小企業の新規事業開発 柳・堀井著 中央経済社」

■評価について： 評価方法・基準など

出席率、議論参画度、レポート及び最終レポートのレベル

■その他： 特に留意する事項など

- ・一度しかない人生をいかに生きるかという考え方によって、ベンチャー経営との出会が決定される。
- ・本当の生きがいと仕事を結び付けて考える人にとっては、この授業からヒントや新しい展望を得る事が出来ることを期待する。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	西沢 和民
■講義名（和文）：	IT プロジェクトマネジメント
■サブタイトル：	様々なプロジェクトをマネージできる力を養う
■講義名（英文）：	IT Project Management
■講義目的：プロジェクトマネジメント手法およびプロジェクトマネジャーとしてプロジェクトを成功させるための行動やスキルを学び、様々なプロジェクトをマネージする力を養うことを目的とする。	
■講義要旨：講義は3部より構成される。「プロジェクトの基礎」では、プロジェクトの定義や特性を理解し、プロジェクトを成功させるための条件を考える。「プロジェクトマネジメント論」では、PMBOK (Project Management Body of Knowledge) をベースにプロジェクトマネジメント体系と手法について学ぶ。「プロジェクトマネジャー論」では、プロジェクトを成功に導くために、プロジェクトマネジャーがとるべき行動と必要なスキルが何かを学ぶ。また、グループ演習をおこない、講義で学んだ内容の理解を深める。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	プロジェクトの基礎① － プロジェクトとは何か プロジェクトの基礎② － プロジェクトの成功条件
〔第 2 講〕	プロジェクトの基礎③ － プロジェクトに取り組むために大切な心構えとスキル プロジェクトの基礎④ － グループ演習①
〔第 3 講〕	プロジェクトマネジメント論① － プロジェクトの立ち上げと計画立案 プロジェクトマネジメント論② － グループ演習②
〔第 4 講〕	プロジェクトマネジメント論③ － 進捗管理、問題管理 プロジェクトマネジメント論④ － グループ演習③
〔第 5 講〕	プロジェクトマネジメント論⑤ － 品質管理、リスク管理、コミュニケーション管理 プロジェクトマネジメント論⑥ － グループ演習④
〔第 6 講〕	プロジェクトマネジャー論① － PMに必要な基本行動と基本スキル プロジェクトマネジャー論② － グループ演習⑤
〔第 7 講〕	プロジェクトマネジャー論③ － プロジェクト現場での基本行動と基本スキル活用例 プロジェクトマネジャー論④ － グループ演習⑥
〔第 8 講〕	最終課題の発表と講義全体の振り返り

■教科書等：『プロジェクトマネジャー・リファレンスブック』プロジェクトマネジメント学会 PM人材育成研究会（日刊工業新聞社）

■参考図書：『プロジェクトマネジメント 知識体系ガイド PMBOK ガイド』第4版（PMI）
『最高のリーダー、マネジャーがいつも考えているたったひとつのこと』マーカス・バックンガム、加賀山 卓訳（日本経済新聞出版社）
『質問会議』清宮 普美代（PHP 研究所）

■評価について： 評価方法・基準など

出席率、グループ演習の活動と成果、最終課題のレベル

■その他： 特に留意する事項など

講義は IT プロジェクトを例として進めますが、IT そのものの知識は前提としません。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	楠田 幸久
■講義名（和文）：	事業プロジェクトマネジメント
■サブタイトル：	グローバル環境下での製品戦略とイノベーション・マネージメント
■講義名（英文）：	Global Business Project Management
■講義目的：グローバル環境下、日本をとりまく事業環境は急激に変化している。その中での企業経営、製品戦略の基礎、イノベーションの考え方、ビジネスモデルの重要性等について学ぶ。	
■講義要旨：近年、グローバル化により市場環境が大きく変化している。また IT、エレクトロニクス製品のデジタル化が進み、各種製品の構造が変わりつつある。日本が得意とした「インテグレーション（すり合わせ）」から「モジュラー（組み合わせ）」技術・製品へシフトし、その結果、日本発のオリジナル製品が次々と韓国、台湾、中国に奪われ、シェアを落としているのである。本講義では、このように急激な市場・技術・ビジネスモデルの変革がなされつつある現状、そして日本の置かれた状況を基本知識から理解する。技術経営論（MOT）およびイノベーション論の観点も踏まえて、この日本の製造業の直面する状況を基本から学び、業界事例を通して、我々はいかに戦うべきかを講義と討論によって学ぶ。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	オリエンテーション。グローバル化、デジタル・モジュラー化、オープン化の概論。 【グローバル】グローバル化の大潮流。オフショアリングから新市場へ。
〔第 2 講〕	【グローバル】グローバル経営論の基礎、「I-R フレームワーク」「トランスナショナル経営論」。産業界の実例紹介。
〔第 3 講〕	【プロダクト】製品のアーキテクチャー論、「モジュラー」と「インテグラル」論。産業界の実例紹介。
〔第 4 講〕	【イノベーション】クリステンセンの「イノベーションのジレンマ」、製品のライフサイクル・イノベーション論。キャズム論。
〔第 5 講〕	【イノベーション】「オープンイノベーション」と「クローズドイノベーション」。産業界の実例紹介。
〔第 6 講〕	【研究開発論】研究開発から事業化までの道のり。「死の谷」、「魔の川」、「ダーウィンの海」。
〔第 7 講〕	【日本が生き残るには】ガラパゴス化する日本市場。中国・アジア市場と産業分担。産業界の実例紹介。
〔第 8 講〕	【日本が生き残るには】日本生き残りの方策とは。本講義のまとめ。学生各位のレポート発表。

■教科書等： 指定図書

「妹尾堅一郎「技術力で勝る日本が、何故事業で負けるのか」（ダイヤモンド社）

■評価について： 評価方法・基準など

討議への参加、出席、レポートで総合的に評価します。

■その他： 特に留意する事項など

・日本の製造業が持つ課題・問題を基本から明らかにします。アーキテクチャー論、イノベーション論等、MOT の要点を簡潔に理解できます。製造業以外の方でも十分理解でき、自分の業務に役立てられる内容です。

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	真野俊樹
■講義名（和文）：	医療介護事業の未来
■サブタイトル：	毎年 2 兆円弱成長する分野とは
■講義名（英文）：	The future of healthcare and long term care
■講義目的：最近の医療/介護の状況を展望し今後を考える	
■ 講義要旨：医療はコアの国民医療費の部分のみで 37 兆円超、周辺を入れればその 2 倍にもなろうかという巨大な産業分野になっている。介護ももはや 8 兆円産業である。 本講座では、医療/介護のコア部分、医療/介護周辺産業について経営学の視点で論じる。その時々々の環境変化・政策変化に応じてトピックスは柔軟に対応する。並行される医療介護オムニパス講座の補完の意味もあり、そちらで議論しきれなかった点を深めることも可能である。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	自己紹介、医療介護制度概要
〔第 2 講〕	医療介護の動向
〔第 3 講〕	外部講師による講義と議論
〔第 4 講〕	海外の医療
〔第 5 講〕	外部講師による講義と議論
〔第 6 講〕	受講生の選択トピックスによる演習
〔第 7 講〕	受講生の選択トピックスによる演習
〔第 8 講〕	まとめ

■教科書等： 指定図書

「入門医療政策」（中公新書）、「比較医療政策」（ミネルバ書房）、「医療経済学で読み解く 医療のモンダイ」（医学書院）、「グローバル化する医療」（岩波書店）、「医療が日本の主力商品になる」（ディスカヴァー携書）、「入門医療経済学-いのちと効率の両立を求めて」（中公新書）

■評価について： 評価方法・基準など

授業での発表（20%）、出席（30%）、プレゼンテーション（50%）からの総合評価

■その他： 特に留意する事項など

・特になし

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	家里 誠一
■講義名（和文）：	医療経営戦略
■サブタイトル：	医療機関経営者・管理者の観点からの事例分析
■講義名（英文）：	Strategy for Medical Management
■講義目的：医療機関における経営戦略事例の分析および検証を通じて医療経営実践能力の涵養と育成を進める	
■講義要旨：先進的な取り組みを推進するわが国の複数の医療機関の「患者・利用者のマネジメント」「スタッフのマネジメント」「物のマネジメント」「資金のマネジメント」「リスクのマネジメント」「組織と戦略」に関する事例ケースを、各受講者が医療機関の経営者および管理者の観点から事前に分析し、その分析結果を授業時に持ち寄り、相互の議論によって戦略分析の精度を磨き合い、効果的な戦略構築の手掛かりと経営者マインドを体得する。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	わが国および諸外国の医療環境
〔第 2 講〕	患者・利用者のマネジメント（医療マーケティング）
〔第 3 講〕	スタッフのマネジメント（医療人的資源管理）
〔第 4 講〕	物のマネジメント（医療物品管理）
〔第 5 講〕	資金のマネジメント（医療財務）
〔第 6 講〕	リスクのマネジメント（医療インシデント・アクシデント管理）
〔第 7 講〕	組織と戦略（医療組織活性化）
〔第 8 講〕	まとめ（医療戦略決定プロセス）

■教科書等： 指定図書

「医療・福祉複合時代のマネジメントと病院組織」家里誠一 産業能率大学出版部

■評価について： 評価方法・基準など

出席率、議論参加度、最終レポートのレベル

■その他： 特に留意する事項など

- ・各事例ケースをすべて臨場感をもってとらえ、自身が経営者または管理者として実際にその場でどのように対処するか、また実践するかという認識のもとに取り組むこと

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	丁野 朗
■講義名（和文）：	地域観光ビジネス
■サブタイトル：	ツーリズム手法を核とした地域再生
■講義名（英文）：	Local management by tourism
■講義目的： 地域交流ビジネスとしてのツーリズム手法と地域再生・産業創造を考える	
■講義要旨： 本格的な人口減少社会を迎えた今日、地域経済はマーケット縮小や国際的な競争環境下で多くの課題に直面しています。こうした地域の再生を図るために、今日のライフスタイルや顧客価値の変化を読み解き、固有の地域資源への着目と新たな編集視点やビジネスモデル化のための事例と手法を学びます。 本講座では、地域再生のための手法として、主にツーリズム手法を取り上げます。しかし地域再生からみたツーリズムの意義は、農林漁業などの一次産業、これらの加工産業や各種製造業など二次産業、地域商業などの三次産業などの基盤がしっかりしていることが不可欠です。言葉を換えれば、一次から三次産業の総合力の上に、六次産業・交流ビジネスが活きると考えます。こうした考え方をもとに、地域交流ビジネスを核とした新たな地域再生と産業創出手法等について学びたいと思います。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	顧客価値と「時間消費」（サービス化・ソフト化社会と時間） マーケティングのキーワードの一つである「時間消費」。今日のツーリズムや対個人サービス業は「時間消費型消費」の典型であり、消費者の時間のあり方が決定的に重要な意味を持ちます。ツーリズムを軸とした地域ビジネスにおいても、この時間マーケティングが極めて重要な意味を持つことを学びます。
〔第 2 講〕	ツーリズム産業とその構造 近年の余暇と市場動向から、時代の価値変化や市場ニーズの変化と動向などについて概観します。「21 世紀のリーディング産業」といわれながら、過渡期にある今日のツーリズム産業の構造やその歴史、抱える問題点や課題等について学びます。
〔第 3 講〕	新たなツーリズム形態（ニューツーリズム）とその手法 近年、注目されている地域主導型のツーリズムや「ニーツーリズム」（着地型旅行）といわれる多様なツーリズム形態とその事例、これらが成功するための条件といった点について学びます。
〔第 4 講〕	「産業観光」（Industrial Tourism）とその手法 近年のニューツーリズムの旗手として注目される近代化遺産（ヘリテージ）や現役の工場・工房などを活かす「産業観光」をテーマに、地域資源を活用した新たなツーリズム手法について学びます。
〔第 5 講〕	地域固有資源の活用とその手法① 第 3 講・第 4 講の総論を踏まえ以下 2 回にわたり地域固有の資源を活用したツーリズムや地域ビジネス創出の事例について学びます。 ～ 鉱山地域、内陸繊維都市～
〔第 6 講〕	地域固有資源の活用とその手法② 同上。電源地域、港湾地域、大都市圏（都市観光）、田園地域（グリーンツーリズム）など
〔第 7 講〕	滞在型ツーリズム（バカンス）の可能性と課題 近代以降の日本の乏しい休暇事情の中で、わが国ではついに滞在型旅行（バカンス）が定着してこなかった。しかし元気なシニア層の増加、田舎暮らしに興味をもつ若者たちが、地域に滞在して暮らすような旅を求める傾向が強まっている。新たな滞在型の旅スタイルの事例やその可能性、これからの課題等について学びます。
〔第 8 講〕	新たな旅・地域交流ビジネスの可能性 “若者が旅に出ない”といった風潮が指摘される中で、日本人にとって「旅」とは何か。本講座のとりまとめにあたって、次代の新しい“旅”概念等についてフリーディスカッションを行います。

■教科書等： 指定図書

特に指定図書はありませんが、『レジャー白書』（（財）社会経済生産性本部刊）、『産業観光への取り組み』（（財）日本交通公社／羽田耕治・丁野朗監修）などを参照してください

■評価について： 評価方法・基準など

期末にレポート試験を実施します。

レポートは本講座に対する自らの考え方や意見などが明確に表現されていることを重視します。

■その他： 特に留意する事項など

本講義では、各地の観光まちづくりや交流ビジネスの事例などを数多く紹介します。それぞれの地域の背景・歴史などについては各自で事前に調査し学んで下さい。また、講座で議論した手法などを、皆さんのゆかりの地に応用するとすれば、どのようなことが可能かなど、身近で活きた素材として学んで下さい。

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	永井孝尚
■講義名（和文）：	ビジネスパーソンの出版戦略
■サブタイトル：	仕事の学びを、社会へ。ビジネスパーソンの出版道場
■講義名（英文）：	Strategy for business person's publishing
■講義目的：現役ビジネスパーソンが本を執筆するための力を養成することを目的とする	
■講義要旨：「仕事で得た学びを出版したい」と考えるビジネスパーソンが増えている。これまで企業のインサイダーだったビジネスパーソンが個人として積極的に社会へ情報発信することは、よりよい社会を実現することに繋がる。そこで当講義では仕事の学びを出版するための戦略・心得・具体的な方法論を、講義とワークショップで学んでいく。当講義の受講生は下記のコミットメントが求められる。	
(1) 事前に「自分が執筆したい、仕事の学び」について A 4 一枚 (800 文字以上、1200 文字以内。文字数厳守) の論文にまとめ、期日までに大学院事務局に提出すること	
(2) 受講期間中はブログを立上げ、執筆テーマに関して週 1 回以上のブログ執筆を継続すること	
(3) 授業で毎回与えられる課題について、次回講義までに必ず提出すること	
当講義はワークショップ形式で実施するため定員は 10 名とする。受講生は上記事前提出論文を「①他人に伝えられる文章力はあるか？②社会に伝える仕事の学びがあるか」という観点で選抜し、決定する。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	ビジネスパーソンの出版戦略・概論...なぜビジネスパーソンの出版なのか？
〔第 2 講〕	ワークショップ# 1 私が伝えたい学びは何か？
〔第 3 講〕	出版企画書の心得...その本の価値は、何か？
〔第 4 講〕	ワークショップ# 2 第一回・出版企画書発表会
〔第 5 講〕	出版の方法論
〔第 6 講〕	ワークショップ# 3 第二回・出版企画書発表会
〔第 7 講〕	プロの編集者に聞く「ビジネスパーソンの出版」（出版社より編集者を招待） （講義時間は 90 分とする）
〔第 8 講〕	ワークショップ# 4 最終出版企画書発表会（出版社より編集者を招待） （講義時間は 180 分とする）

■教科書等： 指定図書

田坂広志著「プロフェッショナル進化論 『個人シンクタンク』の時代が始まる」（PHP ビジネス新書）

■評価について： 評価方法・基準など

毎回の出席、毎回の課題提出、毎週のブログ執筆、及び最終企画書をもって評価

■その他： 特に留意する事項など

本講義は、ビジネスパーソンが仕事で得た学びを社会と共有し、よりよい社会を創りたいと考えている方を対象とする。下記の方々には受講はお勧めしない。

・小説、エッセイ、個人的なことを本にしたい方

・編集者を紹介して欲しいという方

また、下記の方々には参加をお断り致します。

・仕事の学びの蓄積を持っていない方、基礎的な文章力がない方→事前論文で審査します

・週 1 回のブログ執筆と、毎回の課題提出ができない方

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	中村 大作
■講義名（和文）：	社会起業家演習
■サブタイトル：	社会起業家としての生き方・働き方を実践する
■講義名（英文）：	Practice of Social Entrepreneur
■講義目的：社会起業家をゲストに迎えて、生き方・働き方とその社会貢献事業を学ぶ。受講生自らの志や活動計画（含む事業計画）を語り、他受講生とのフィードバックセッションを通じて、各々が実践できるようになる。	
■講義要旨：人々のライフスタイルや意識の変化、少子高齢の進展、格差拡大による経済環境変化等に伴い、「高齢者や障がい者の福祉」「雇用不安」「地域活性」「一次産業支援」など、私たちは新たな社会的課題への対応が求められている。そこで、ビジネスの手法を活用して事業性を確保し、効果的かつ持続的に社会的課題を解決すべく、社内外を問わず、社会価値と経済価値を両立した新しい生き方・働き方を実践する。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	社会起業家の生き方・働き方 社会価値と経済価値を両立させる事業システム
〔第 2 講〕	ソーシャルビジネスプラン演習（1）原体験ワーク
〔第 3 講〕	社会価値と経済価値を両立する方法とは ―事例研究①ゲスト講師― 社会起業家（ゲスト講師）を交えたディスカッション
〔第 4 講〕	社会価値と経済価値を両立する方法とは ―事例研究②ゲスト講師― 社会起業家（ゲスト講師）を交えたディスカッション
〔第 5 講〕	ソーシャルビジネスプラン演習（2）原体験 ソーシャルビジネスプラン演習（3）社会性
〔第 6 講〕	社会価値と経済価値を両立する方法とは ―事例研究③ゲスト講師― 社会起業家（ゲスト講師）を交えたディスカッション
〔第 7 講〕	ソーシャルビジネスプラン演習（4）独自性 ソーシャルビジネスプラン演習（5）経済性
〔第 8 講〕	ソーシャルビジネスプラン発表

■教科書等： 指定図書

『これから働き方はどう変わるか ―すべての人々が「社会起業家となる時代―』（ダイヤモンド社）著者：田坂広志

『ソーシャル・ビジネスの経営学 ―社会を救う戦略と組織―』（中央経済社）

共著者：福嶋路、平田光子、李美順、中村大作、長田貴仁、横山恵子

■評価について： 評価方法・基準など

出席回数、講義中の発言回数および内容、最終講義のプレゼン内容等を総合的に評価する。

2013 年度授業計画書

(社会的企業論との分割履修不可)

■担当教員名：	田坂 広志
■講義名（和文）：	ソーシャル・アントレプレナー論
■サブタイトル：	社会起業家としての生き方と働き方
■講義名（英文）：	Social Entrepreneur
■講義目的： いま、世界的な潮流となっている「社会起業家」（Social Entrepreneur）の概念を理解し、その実践のためのビジョンと戦略を学び、さらには、社会起業家としての生き方と働き方を学ぶ。 ■講義要旨： 利益の獲得を目的とするのではなく、社会への貢献を目的として事業創造や事業革新に取り組む「社会起業家」（Social Entrepreneur）は、これからの時代、多くの人々にとって魅力的な生き方と働き方となっていく。そして、「働く」（はたらく）ことを「傍」（はた）を「楽」（らく）にすることと理解する文化を持つこの日本においては、独自の思想と精神を持った「日本型社会起業家」が生まれてくる。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	社会起業家とは何か
	英国における社会起業家
〔第 2 講〕	小さな政府と社会起業家
	米国における社会起業家
〔第 3 講〕	寄付者の進化と社会起業家
	寄付から社会的投資へ
〔第 4 講〕	日本における社会起業家
	日本における労働と報酬の文化
〔第 5 講〕	社会起業家の労働観
	社会起業家の報酬観
〔第 6 講〕	社会起業家の組織観
	社会起業家とボランティア経済
〔第 7 講〕	社会起業家とウェブ革命
	社会起業家と資本主義の進化
〔第 8 講〕	社会起業家という生き方と働き方

■教科書等： 『これから働き方はどう変わるのか』（ダイヤモンド社） 『プロフェッショナル進化論』（PHPビジネス新書）

■評価について： 出席回数、聴講態度、メールでの所感内容、メーリングリストでの討議内容等を総合的に評価する。

■その他： 「社会的企業論」と同時に履修することを求める。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	紺野 登
■講義名（和文）：	ビジネスモデルジェネレーション
■サブタイトル：	ビジネスモデルの現在とデザインについて知るワークショップ
■講義名（英文）：	Understanding and Designing Business Models in the Knowledge Era
■講義目的：ビジネスモデルはいま日本企業に最も欠けている知識のひとつである。表層的なビジネストレンドに流されることなく、本質的な顧客価値をいかに具現化するかという視点から戦略の実践ツールとしてビジネスモデルを学ぶ。	
■講義要旨：「ビジネスモデル」は、かつて電子商業のカネの流れを示す表層的図式として紹介されたために、大きく広がらなかった。しかし、企業が供給者論理から脱して需要論理でビジネスを考えるべき時代となり再び世界的に注目されている。その本質は顧客価値提供のロジックである。本講では集中ワークショップ形式で、世界標準のツール（BM キャンバス）を用いて、ビジネスモデルの意味合い、デザインの方法論、事例、評価手法を実践的に学ぶことを狙いとする。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	ビジネスモデルとは、ビジネスモデルが求められる背景
〔第 2 講〕	ビジネスモデル・デザインの方法論
〔第 3 講〕	ビジネスモデル事例研究 事例及び対話
〔第 4 講〕	演習 1 顧客の設定と理解 演習 2 顧客価値とは
〔第 5 講〕	演習 3 顧客価値提供の仕組み 演習 4 顧客価値提供のためのリソース
〔第 6 講〕	演習 5 ビジネスモデルのために必要な組織能力 演習 6 パートナiership戦略
〔第 7 講〕	演習 7 持続的ビジネスモデル実現のための組織活動 演習 8 ビジネスモデルの評価
〔第 8 講〕	ビジネスモデルの展開の実践

■教科書等：

- ✓ オスターワルダー, A., Y. ピグニール(2012)『ビジネスモデル・ジェネレーション ビジネスモデル設計書』（小山龍介訳）翔泳社 （巻末解説 紺野）。（指定図書）
- ✓ 紺野登（2010）『ビジネスのためのデザイン思考』東洋経済新報社 （参考図書）

■ 評価方法・基準など

ワークショップにおける寄与、生み出されたビジネスモデルのピア評価および事後レポート（自身の文脈でのまとめ、事例研究）の提出をもって評価します。

■ 特に留意する事項など

ワークショップ形式ゆえ継続出席を重視。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	沈 才彬
■講義名（和文）：	現代中国のビジネスと経営
■サブタイトル：	中国ビジネス入門講座
■講義名（英文）：	Modern China Business and Management
■講義目的：現代中国の経済とビジネスの変化を読める力、その環境変化に対応できる力を育てる	
■講義要旨：なぜベルリン壁崩壊後、旧ソ連・東欧社会主義諸国が相次いで崩壊したが、中国だけは崩壊するどころか、急速な台頭を遂げたのか？ビジネスと経営の視点から、中国を「株式会社」を見た場合、経営者である中国共産党はどのように会社マネジメントをし、組織運営、危機管理、長期戦略作成及び人材確保を行うか？その強みと弱みは何か？どんな課題を抱えているか？日本は中国の急速な台頭から何を学び、今後どう向き合うべきか？独自の情報と的確な分析に基づく本格的な現代中国ビジネスと経営論を展開する。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	なぜアメリカ大手企業の CEO は中国共産党を評価するか
〔第 2 講〕	なぜ旧ソ連・東欧は崩壊したが、中国だけは崩壊せず急速に台頭するか
〔第 3 講〕	トップはどのように選出されるか
〔第 4 講〕	日本人の知らない中国の国家マネジメント
〔第 5 講〕	中国の危機管理の成功例と失敗例
〔第 6 講〕	中国の強みと弱み、そして抱える課題
〔第 7 講〕	日本企業が中国市場で生き残るための戦略とは
〔第 8 講〕	中国の経済成長はどこまで続くか

■教科書等： 指定図書

沈才彬著「大研究！中国共産党」（角川 SSC 新書、2013 年）

沈才彬著「中国黒洞（ブラックホール）が世界にのみ込む」（時事通信社、2010 年）

沈才彬著「中国経済の真実」（アートディズ社、2009 年）

沈才彬著「今の中国がわかる本」（三笠書房、2006 年）

野中郁次郎著「戦略の本質」（日経ビジネス人文庫、2008 年）

■評価について： 評価方法・基準など

出席：60%、発言：20%、期末レポート：20%

■その他： 特に留意する事項など

・

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	下井 直毅
■講義名（和文）：	日本を取り巻く経済の動き
■サブタイトル：	
■講義名（英文）：	Business Economics surrounding Japan
■講義目的： 経済の動きは日々変化している。経済全体のマクロの動きのほか、「経営経済学」や「ビジネス経済学」の考え方に精通することにより、経営戦略・競争戦略を検討・策定する際に不可欠となる戦略構築力の基礎の養成をめざす。	
■講義要旨： 最初に日本を取り巻くマクロ経済の動きを概観する。今日、日本経済は多くの課題に直面している。ここでは、そのうち為替レートや貿易などいくつかのテーマを取り上げて、これまでの推移や議論の方向性を概観する。その後、マーケティングや流通といったビジネス現象の経済学的な解説を行う。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	マクロ経済の動き（Ⅰ）
〔第 2 講〕	マクロ経済の動き（Ⅱ）
〔第 3 講〕	市場構造の分析枠組について（「経営の経済学」第 1 章） 需要の特性について（「経営の経済学」第 2 章）
〔第 4 講〕	費用の規定要因について（「経営の経済学」第 3 章） 市場支配力について（「経営の経済学」第 4 章）
〔第 5 講〕	ゲームと戦略について（「経営の経済学」第 5 章） 寡占と競争について（「経営の経済学」第 6 章）
〔第 6 講〕	競争戦略の分類について（「経営の経済学」第 7 章） 価格戦略について（「経営の経済学」第 8 章）
〔第 7 講〕	製品戦略について（「経営の経済学」第 9 章） 流通と販売促進について（「経営の経済学」第 10 章）
〔第 8 講〕	情報とインセンティブについて（「経営の経済学」第 11 章） 企業の境界と組織について（「経営の経済学」第 12 章）

■教科書等： 指定図書

「経営の経済学 新版- Business Economics-」丸山雅祥 有斐閣 2011 年

■評価について： 評価方法・基準など

出席率、議論参画度、課題レポートのレベル

■その他： 特に留意する事項など

- ・積極的に学び、議論に参加すること
- ・自分の頭で考える癖をつけること

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	濱田 隆道
■講義名（和文）：	行動ファイナンス
■サブタイトル：	現代ファイナンス理論の限界と、認知心理学による新たな展望
■講義名（英文）：	Behavioral Finance
■講義目的：リーマン・ショックで明らかとなった現代ファイナンス理論の限界を認識し、認知心理学を活用した行動ファイナンス理論の概要を学ぶことを目的とします。	
■講義要旨：リーマン・ショックあるいはヨーロッパ危機で見られるように、金融市場は現代ファイナンス理論では説明できないような動きをする。市場参加者がみな合理的な行動をするのであれば、バブルは発生しない。なぜ人は不合理な意思決定をしてしまうのか、その謎に迫るべく行動経済学、行動ファイナンス理論を学びます。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	行動経済学、行動ファイナンスとは何か
〔第 2 講〕	限定合理性の経済学、ホモ・エコノミカス像の限界、効率的市場仮説とアノマリー
〔第 3 講〕	意思決定の単純化をもたらす「ヒューリスティック」と「バイアス」
〔第 4 講〕	プロスペクト理論の概要、リファレンス・ポイントと非対称な価値関数
〔第 5 講〕	フレーミング効果と選好の形成
〔第 6 講〕	近視眼的な心、時間選好の不思議
〔第 7 講〕	他者を顧みる心、社会的選好
〔第 8 講〕	まとめ

■教科書等： 指定図書

「行動経済学」友野典男 光文社新書

「行動経済学入門」真壁昭夫 ダイヤモンド社

■評価について： 評価方法・基準など

出席率、議論参画度、最終レポートのレベル

■その他： 特に留意する事項など

講義はそれぞれのテーマに沿った講義、及び全員参加型ディスカッションによる議論が中心です。
みなさんの理解の定着と、新たなアイデアの創造を図っていきます。

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	紺野 登
■講義名（和文）：	知識創造経営
■サブタイトル：	知識経済社会の企業・経営・戦略・組織
■講義名（英文）：	Principles of Knowledge Creating Management
■講義目的：知識社会・経済の経営を理解する基本的な考え方、実践の枠組みをもとに論じながら、自分なりの経営の考え方を考察する。	
■講義要旨：知識社会・経済の 21 世紀、企業価値の主要な源泉は物的な有形資源から人々の無形の知識（ビジョン、アイデア、コンセプト、ノウハウ、それらを支える社会的関係性）に移行している。「知識経営」とは従来の戦略論、組織論、リーダーシップ論を「知識」という視点から総合する新たな知識創造／活用の経営学である。本講では知識創造理論を軸に知識経営の背景や意義、理論の概要、事例研究をつうじて考え方、実践の枠組みを論ずる。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	知識経営とその背景：知識社会、知識経済、分析から創造への経営の転換 知識ベース理論に向けて：知識とは何か
〔第 2 講〕	知識創造理論――「SECI（知識創造）モデル」、知識イノベーション
〔第 3 講〕	知識経営企業事例研究（1）：知識創造企業事例及び対話
〔第 4 講〕	戦略論と知識経営：戦略論の系譜と知識経営 知識経営の「ルート・メタファー」とは
〔第 5 講〕	知識資産の戦略：知識資産とは、知識で富を生み出す 知識資産のダイナミック・モデルと評価
〔第 6 講〕	「場」：「場」とは何か――暗黙知、文脈、言語 「場」の経営
〔第 7 講〕	知識経営実践事例研究（2）：知識リーダーシップ 現場の「暗黙知に火を点ける」とは――対話
〔第 8 講〕	総括の対話

■教科書等：

- ✓ 野中郁次郎、紺野登（2012）『知識創造経営のプリンシプル』東洋経済新報社（指定図書）
- ✓ 紺野登（1999）『知識経営のすすめ』ちくま新書（参考図書）

■ 評価について： 評価方法・基準など

出席状況と適宜の対話への参画及び、企業事例研究を通じて知識経営を自身の文脈に照らしてまとめるレポートの提出をもって評価します。

■ その他： 特に留意する事項など

ナレッジマネジメント」という用語も使用しますが、所謂 IT をベースにしたナレッジマネジメントシステムが主テーマではありません。

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	宇佐美 洋
■講義名（和文）：	企業法務
■サブタイトル：	企業の法と経済学
■講義名（英文）：	Corporate Law and Economics
■講義目的：経済学では「企業」というものをどう捉えるかを学び、その視点から会社法や金融商品取引法等の企業法務を学ぶ。 ■講義要旨：本講義では、企業の法と経済学的視点を学び、ビジネスマンとして知っておくべき会社法の基礎知識とともに、上場会社の資金調達や内部統制などに関連して金融商品取引法等についてもふれる。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	総論
	会社法総則
〔第 2 講〕	株式会社
	持分会社
〔第 3 講〕	社債
	組織再編
〔第 4 講〕	国際会社および外国会社
	計算規定 1
〔第 5 講〕	計算規定 2
	金融商品取引法とは
〔第 6 講〕	開示制度
	金融商品取引業者等の規制
〔第 7 講〕	金融商品取引所等
	エンフォースメント
〔第 8 講〕	今後の展望

■教科書等： 指定図書、参考図書、参考 URL など

教科書：

「会社法第 2 版」伊藤・大杉・田中・松井著、有斐閣、2011 年

参考図書：

「金融商品取引法」松尾直彦著、商事法務、2011 年

“The Anatomy of Corporate Law” R. Kraakman et al., Oxford Univ. Press, 2004

“The Theory of the Firm” D. Spulber, Cambridge, 2009

■評価について： 出席率および講義参加の積極性などにより評価する。

■その他： 特に留意する事項など

2013 年度授業計画書

(ソーシャル・アントレプレナー論との分割履修不可)

■担当教員名：	田坂 広志
■講義名（和文）：	社会的企業論
■サブタイトル：	社会的企業と社会起業家
■講義名（英文）：	Social Enterprise
■講義目的： いま、世界的な潮流となっている「社会的企業」（Social Enterprise）の概念を理解し、その企業を実現するためのビジョンと戦略を学び、さらには、社会起業家としての生き方と働き方を学ぶ。 ■講義要旨： これから世界中の営利企業と非営利組織は、弁証法的な相互浸透を遂げ、互いに「社会的企業」（Social Enterprise）と呼ばれるものへと進化していく。そして、その進化は、資本主義そのものの進化を牽引していく動きとなっていく。しかし、日本における、この社会的企業への進化は、弁証法の螺旋的発展でもあり、それは、古く懐かしい「日本型経営」への回帰ともなっていく。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	資本主義の進化
	経済原理の螺旋的発展
〔第 2 講〕	マネタリー経済とボランタリー経済
	営利企業の社会貢献
〔第 3 講〕	非営利組織の収益基盤
	社会的企業とは何か
〔第 4 講〕	日本型資本主義とは何か
	日本型経営とは何か
〔第 5 講〕	日本型経営における労働観
	日本型経営における報酬観
〔第 6 講〕	日本型経営における企業観
	日本型経営における利益観
〔第 7 講〕	日本型経営における組織観
	日本型経営における人材観
〔第 8 講〕	社会的企業と社会起業家としての生き方と働き方

■教科書等： 『未来を予見する「五つの法則」』（光文社） 『仕事の思想』（PHP文庫）

■評価について： 出席回数、聴講態度、メールでの所感内容、メーリングリストでの討議内容等を総合的に評価する。

■その他： 「ソーシャル・アントレプレナー論」と同時に履修することを求める。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	小野里 光博
■講義名（和文）：	経営基礎数学
■サブタイトル：	
■講義名（英文）：	Introductory Mathematics for Managerial Science
■講義目的： 大学受験以来、数学を使う機会がなかった文系出身者をはじめとする数学に苦手意識を持つ受講者を対象に、経営学やファイナンス理論等を学ぶために最低限必要な数学の基礎知識と手法を習得させる。	
■講義要旨： 理論的な厳密さや網羅性は必ずしも追求せず、高校数学の復習から初めて、解析・代数・統計の基本的分野を中心に、基本概念の直感的な理解と必要最小限の数学的手法の習得を目標とする。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	基本事項の確認と数学の活用例
〔第 2 講〕	指数関数・対数関数
〔第 3 講〕	三角関数
〔第 4 講〕	微分法
〔第 5 講〕	積分法
〔第 6 講〕	ベクトル
〔第 7 講〕	行列と一次変換
〔第 8 講〕	統計の基礎概念

■教科書等：

レジュメを用いて講義を行うが参考書は下記の通り。

「モノグラフ公式集」矢野健太郎監修・春日正文編 科学新興新社

「すぐわかる微分積分」石村園子 東京図書

「すぐわかる線形代数」石村園子 東京図書

「すぐわかる確率・統計」石村園子 東京図書

「初歩からの経済数学」三土修平 日本評論社

「完全独習統計学入門」小島寛之 ダイヤモンド社

■評価について： 評価方法・基準など

出席及びレポート

■その他： 特に留意する事項など

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名 :	歌川 令三
■講義名 (和文) :	比較文化論
■サブタイトル :	宗教社会学講義
■講義名 (英文) :	understanding ; sociology of religion (comparative cultural study)
■講義目的 : グローバリゼーションが進行する中でなぜ、異文化間の紛争が激化するのか。その根源を人間の信念の体系である宗教にまで遡って考える。	
■講義要旨 : 宗教社会学の見地から、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の一神教三兄弟、ヒンドウ教、仏教、そして儒教、道教など世界の主な宗教の特質を論じ、それぞれがどのように社会や人々の行動原理に影響をあたえているか、について学ぶ。さらに最先端の物理学が到達した複雑系の““非線形の宇宙観”と東洋の宗教哲学の類似性を考える。	
■講義の進め方 :	全 8 講
{第 1 講}	比較文化論とはなんぞや? 宗教とはなんぞや? を論ずる。合理性、限界合理性、非合理の違いを学ぶ。一神教の発生とユダヤ教の起源を概観する。
{第 2 講}	旧約聖書の宇宙観とユダヤ人、そして新約聖書とキリスト教について概観し、さらに両者の共通点と相違点を把握する。
{第 3 講}	イエスの布教モデルとパウロ神学、そしてなぜキリスト教がローマの国教となったかを考える。宗教改革で誕生したプロテスタントの倫理が、なぜ資本主義をもたらしたか? を習得する。
{第 4 講}	規範の宗教、イスラム教とコーランの概要をつかむ。そしてなぜそれが、キリスト教文化の創った近代とミスマッチするのかを考える。“アラブの春”とはなんだったのか?
{第 5 講}	第 4 講の続きとして、なぜ一神教の三兄弟は、争いを続けるのか、その確執の本質の学習。
{第 6 講}	仏教の哲学的母胎としてのヒンドウ教を概観した後、釈迦の原始仏教を学習する。
{第 7 講}	お釈迦産も“びっくり”の大乗仏教を実感する。仏教と中国の古代宗教である儒教・道教との融合を概観した後、「日本教」とはなんぞや、を考える。
{第 8 講}	古代東洋哲学と、今、流行のニューサイエンス『あの世の科学』との類似性に目を向ける。

■教科書等 :

指定図書 アートバイブル 日本聖書教会刊。 講義の都度、一読すれば内容がわかる詳細なレジュメを配布する。それぞれに講義の内容を書き込めば、自分用の handy な「宗教社会学入門」の冊子ができるだろう。参考図書は折に触れて紹介する。

■評価について : 評価方法・基準など

出席率、討論参加度、小論文の内容などで判断する。

■その他 : 特に留意する事項など

質問歓迎。知識習得もさることながら“考え方”を鍛錬する講座です。

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	真野俊樹ほか
■講義名（和文）：	地域社会とヘルスケア
■サブタイトル：	超高齢社会の処方箋を考える
■講義名（英文）：	Healthcare for regional community
■講義目的：超高齢社会の処方箋を考える	
■講義要旨：超高齢社会を迎え、我々を取り巻く環境も大きく変化している。その中で医療や介護、健康といった分野の重要性が著しく増した。本講座では、医療、介護を社会保障としてとらえる視点から始まり、産業としての視点、国際的な視点にまで広がっている点も網羅し統合的に状況を把握することを目的とした。 もちろん、国際化の時代でも医療や介護の中心は地域にあるので、地域での医療と介護がどうなるのかという点に最重要ポイントを置いた構成になっている。大学院の授業であるので、議論の時間も十分とっており、皆様の参加を期待したい。	
■講義の進め方：	全 8 講 オムニバス形式で行う
〔第 1 講〕	「今後の医療介護、社会保障の在り方」元厚生労働省事務次官 辻哲夫
〔第 2 講〕	「税と社会保障の一体改革の方向」内閣府 税と社会保障一体改革室長 中村秀一
〔第 3 講〕	「勤労者と社会保障の在り方」連合 総合政策局長(中医協委員) 花井圭子
〔第 4 講〕	「医療と介護の接点と連携」厚生労働省 老健局老健課長 迫井正深
〔第 5 講〕	「日本医師会の考える今後の医療」日本医師会 副会長 今村聡
〔第 6 講〕	「医薬品産業の今後」医薬産業政策研究所 所長 奥田齊
〔第 7 講〕	「医療介護を巡るマクロの視点と保険者機能」経済産業省 産業構造課課長 角野然生
〔第 8 講〕	「国際保健と日本のリーダーシップ」厚生労働省 大臣官房審議官（がん対策、国際保健担当）麦谷真里

■教科書等： 指定図書

なし

■評価について： 評価方法・基準など

授業への参加、最終レポート

■その他： 特に留意する事項など

なし

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	村山貞幸
■講義名（和文）：	マーケティング・マネジメント概論
■サブタイトル：	マーケティングの基本的な理論と思考法
■講義名（英文）：	Marketing Management
■講義目的： マーケティングの基本的な理論、フレームワークと思考法を学習する。	
■講義要旨： ディスカッション+講義の形式で学習する。マーケティング実務に不可欠な理論、フレームワーク、思考法の理解を、さまざまなビジネス事例を題材にディスカッションしながら深めていく。	
■講義の進め方： 全 8 講	
〔第 1 講〕	イントロダクション マーケティング戦略 環境分析
〔第 2 講〕	マーケティング戦略 セグメンテーション・ターゲティング
〔第 3 講〕	マーケティング戦略 ポジショニング、マーケティングミックス
〔第 4 講〕	マーケティング戦略 競争戦略、戦略立案
〔第 5 講〕	研究発表
〔第 6 講〕	研究発表
〔第 7 講〕	マーケティング戦略 顧客リレーション
〔第 8 講〕	まとめ

■教科書等： 指定図書

グロービス・マネジメント・インスティテュート編著『MBAマーケティング』（改訂 3 版あるいは新版）（ダイヤモンド社）

■評価について： 評価方法・基準など

発言の量&質 50%、レポート 50%

■その他： 特に留意する事項など

初回クラスには、少なくとも教科書の第 1～4 章を読んでもくること。

受講生のバックグラウンドや数により内容を変更することがある。

受講人数の下限を設定します。オリエンテーション時に連絡。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	橋本大也
■講義名（和文）：	Web マーケティングイノベーション
■サブタイトル：	ソーシャル時代のデジタルマーケティングの新機軸を創造する
■講義名（英文）：	Web Marketing Innovation
■講義目的：情報技術とネットワークをフル活用したマーケティング手法の研究および必要能力の開発	
■講義要旨： ネットワークの普及と情報技術の高度化によって私たちは膨大な情報にアクセス可能になった。ソーシャルネットワークの急速な拡大とコミュニケーションツールの革新は情報流通のしくみを大きく変えた。デジタルビジネスを取り巻く新しい時代状況に対応した新発想のマーケティングが必要となる。この授業では前半で情報技術とネットワークを徹底活用して個人の情報処理の能力（収集、整理、分析、発信）を飛躍的に高める方法、創造的なチームの作り方を解説する。後半ではワーキンググループ実習を含む Web マーケティングの新機軸の探究がテーマである。キーワードは“ソーシャル”、“スマートフォン”、“クラウド”、“イノベーションマネジメント”、“検索技術”、“ベンチャー”、“情報力”。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	Web マーケティング・イノベーション 総論とオリエンテーション
〔第 2 講〕	高感度アンテナをつくる情報収集と分析の技術と道具
〔第 3 講〕	アイデア発想の理論と技術 個人とチームの知力を高める
〔第 4 講〕	ネット集合知とクラウドソーシングが拓く近未来市場
〔第 5 講〕	ソーシャルメディアと SNS によるサービス革新
〔第 6 講〕	ベンチャー精神と創造性と発想を鍛える読書術
〔第 7 講〕	変貌するマスメディアと Web イノベーション
〔第 8 講〕	総合演習 発表と講評

■教科書等： 指定図書

『情報力』（翔泳社、橋本大也著）（事前購入の必要はなし）

■評価について： 評価方法・基準など

出席 70%、授業内の課題 30%

■その他： 特に留意する事項など

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	原田保
■講義名（和文）：	マーケティング・コンテキストデザイン
■サブタイトル：	知行合一の重要性を体得する
■講義名（英文）：	Marketing Strategy Context Design
■講義目的：コンテキストデザイナーになるための技術と感性の獲得に向けたパーソナルな指導によってマーケティング戦略やビジネスモデルの構築方法を習得させる。	
■ 講義要旨： 毎回設定されるテーマに依拠した提案をパワーポイントを使用してプレゼンし、それにもとずいた議論を行う。最後に全体としての共通認識を共有する。優れた研究については、広く社会に対して常用発信すると同時に、外部組織とのネットワーク形成を指向する。インプットよりはアウトプットを重視する。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	オリエンテーション
〔第 2 講〕	コンテキストデザインの全体像を理解する。（イントロ、プレゼン、ディスカス、インプリ）
〔第 3 講〕	コンテキストデザインの発想を理解する。（イントロ、プレゼン、ディスカス、インプリ）
〔第 4 講〕	場と関係のコンテキストを理解する。（イントロ、プレゼン、ディスカス、インプリ）
〔第 5 講〕	都市部族のコンテキストを理解する。（イントロ、プレゼン、ディスカス、インプリ）
〔第 6 講〕	小豆島のコンテキストを理解する。（イントロ、プレゼン、ディスカス、インプリ）
〔第 7 講〕	境界融合のコンテキストを理解する。（イントロ、プレゼン、ディスカス、インプリ）
〔第 8 講〕	異端と正統のコンテキストを理解する。（イントロ、プレゼン、ディスカス、インプリ）

■ 教科書等： 指定図書

①コンテキストデザイン戦略（原田・三浦・古賀編著）、②無形化する経営（原田、萩原）、③場と関係の経営学（原田）、④顧客が部族解化するじだいのブランディング〔原田、片岡〕、⑤小豆島のヴランデリング（仮、予定）（原田・岡田編著）、⑥境界融合（原田・古賀編著）、⑦知の異端と正統（原田編著）

■ 評価について： 評価方法・基準など

プレゼン、ディスカスの質と回数を重視する。

■ その他： 特に留意する事項など

学会活動や執筆活動を希望する人は歓迎です。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	久保山路子
■講義名（和文）：	パブリシティマーケティング
■サブタイトル：	効くコミュニケーション
■講義名（英文）：	Publicity Marketing
■講義目的：ブランドコミュニケーションの理解と実践力強化	
■講義要旨：ブランドのキーメッセージを抽出し、効率よくターゲットへ届けるための実践的アプローチを学ぶ。マーケティングの基本概念を踏まえつつ、強いコミュニケーション、効くコミュニケーションの戦略立案のレベルアップを支援していく。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	イントロダクション ブランドメッセージの伝達、広告の力・PR の力
〔第 2 講〕	メディアの理解、メディア環境およびメディア接触態度の変化
〔第 3 講〕	ブランド育成
〔第 4 講〕	事例研究・グループワークと発表
〔第 5 講〕	メディア活用
〔第 6 講〕	事例研究・グループワークと発表
〔第 7 講〕	コミュニケーションプランニング
〔第 8 講〕	総括

■教科書等： 指定図書

特になし

■評価について： 評価方法・基準など

出席 30%、発言 30%、グループワーク・発表・レポート 40%

■その他： 特に留意する事項など

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	東 英弥
■講義名（和文）：	マーケティングコミュニケーション
■サブタイトル：	
■講義名（英文）：	Marketing Communications
■講義目的：マーケティング目標に基づいたマーケティングコミュニケーションを、実務家のゲスト講演とケーススタディ分析を通じて学び、院生が自らの仕事に活かす新たな手法を探る機会とする。	
■講義要旨：当マーケティングコミュニケーションは、マーケティング目標に基づいたコミュニケーション戦略と位置づける。これを宣伝広告、広報、販売促進、クリエイティブに分け、ケーススタディをもとに分析する。代表的な産業、業界から実務の専門家をゲスト講師として招き、基本的な考え方と実際の活動を紹介するとともに、数々の課題について院生とともに話し合う。 後半では、院生が各自の環境下での仕事におけるマーケティングコミュニケーションの課題と解決方法について発表し、討論を踏まえ、新たな手法を探る。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	オリエンテーションとマーケティングコミュニケーション概論
〔第 2 講〕	経営とマーケティングコミュニケーション
〔第 3 講〕	メディア発想のマーコムの考え方と実践
〔第 4 講〕	販促を軸としたマーコムの考え方と実践
〔第 5 講〕	広告、販促、広報の連動
〔第 6 講〕	Web を軸としたマーコムの考え方と実践
〔第 7 講〕	統合型マーケティングコミュニケーション
〔第 8 講〕	まとめ 院生発表とディスカッション

※各講義の後半は、院生からの研究発表とする。

■教科書等：

特になし。講義内容に関する資料を必要に応じて配布する。

■指定図書：

特になし。マーケティング理論に関する市販の書籍を事前に読んでいることが望ましい。

■評価について：評価方法・評価基準など

毎回授業に出席すること。その日の授業を聞いての意見、感想を提出。

期末に論文を提出してもらう（70%）、これに授業の平常点を考慮して総合評価する（30%）

■その他：特に留意する事項など

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	松本 忠雄
■講義名（和文）：	サプライチェーンマネジメント概論
■サブタイトル：	SCM の基礎知識
■講義名（英文）：	Introduction to Supply Chain Management
■講義目的：サプライチェーンマネジメントに関して、身に付けておくべき基本的な知識と考え方、その評価尺度等について学ぶこと。	
■ ■講義要旨：企業内はもとより企業間、そして消費者に至るサプライチェーンは、極めて多岐にわたるステークホルダーと関わりを持っている。これを最も適切にマネジメントするために求められる広汎な知識を逐次解説し、理解を深める。	
義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	企業経営における SCM の位置づけ。 物資輸送の歴史。
〔第 2 講〕	マテリアルフロー・ネットワーク。日本の取引制度の課題
〔第 3 講〕	SCM 情報システム、①業務処理系、②計画系
〔第 4 講〕	SCM で得られる情報とマーケティングへの利用
〔第 5 講〕	在庫管理とコスト管理
〔第 6 講〕	輸送関係。環境問題への対応
〔第 7 講〕	SCM 体制の構築事例
〔第 8 講〕	SCM 部門に求められる機能

■教科書等： 指定図書

特になし。

■評価について： 評価方法・基準など

出席 60%、授業への参画レベル 40%

■その他： 特に留意する事項など

.

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	矢野 俊一
■講義名（和文）：	グローバル・ロジスティクス
■サブタイトル：	企業のグローバル活動におけるロジスティクス設計のための知識
■講義名（英文）：	Global Logistics
■講義目的：物流事業の経営者の視点から国際物流の本質と最前線における諸相や将来像を考察し、効率的な物流の設計、運営、管理の要諦を考えてゆく	
■講義要旨：企業の生産拠点は世界に拡がり、消費地もまた世界に拡散する現代において、多様で複雑なグローバルロジスティクスのありかたが企業の競争力に直結する。国際物流を数々の事例を通して学び、企業の経営戦略に不可欠なグローバルロジスティクスの知識と考え方を習得する。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	オリエンテーション ロジスティクス概論 経営におけるロジスティクス グローバルロジスティクスの環境と課題
〔第 2 講〕	海運と航空 歴史、産業特性、荷動き
〔第 3 講〕	港湾と空港 ― 世界の流れ、日本の課題 諸外国の物流事情
〔第 4 講〕	世界と日本の国際物流事業者 ― 特色、動向、課題 荷主の世界
〔第 5 講〕	物流技術最前線 RFID 実証実験施設見学（予定）
〔第 6 講〕	グローバルロジスティクス企業の経営戦略 最適グローバルロジスティクス設計のポイント
〔第 7 講〕	グローバルロジスティクスの課題 サードパーティロジスティクス 環境問題への対応
〔第 8 講〕	まとめ グローバルロジスティクスの近未来

■教科書等： ~~指定図書~~ 参考図書

「基本ロジスティクス用語辞典」白桃書房

「ビジュアルでわかる国際物流」汪正仁著、成山堂書店

「数字でみる物流 2012 年度版」日本物流団体連合会

■評価について： 評価方法・基準など

出席（70％）、レポート（15％）、ディスカッション（15％）

■その他： 特に留意する事項など

・国際的に広い視野を持つよう、世界の政治、経済、企業の動きを常に注視しておいてください。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	西田邦生
■講義名（和文）：	日本・アジアの流通構造と SCM
■サブタイトル：	コモディティ商品を中心とした SCM の実践的な論説
■講義名（英文）：	The distribution structure and Supply chain management in Japan and East Asia
■講義目的：日本流通の新たな課題を踏まえ、SCM の実践的な基本知識と新しい発想を養成する。	
■講義要旨：日用品販売に携わる多くの企業が、総人口が減少する「市場喪失の時代」ともいうべき未体験の環境に危機意識を募らせている。またネット通販や SNS は、日本の流通にパラダイムの転換を迫りながら急成長している。本講では日本流通の基本構造を歴史、制度、商慣行、業界別の現状、並びにアジア諸国との比較の中で捉え、SCM の基本的なテーマを解説するとともに、新しいトレンドと IT 革新が及ぼす影響を洞察して、新しい発想の企業間連携の仮説を提示し「大転換期」の SCM のテーマを提起する。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	日本の流通の基本構造：制度と商慣行と消費性向を諸外国と比較し、基本構造を論説する。
〔第 2 講〕	日本流通の歴史：欧米との比較を交え生・配・販の変遷と展望を解説する。
〔第 3 講〕	業界別の現状と課題：業種・業態別の小売業、卸売業の最新動向と課題の本質を考察する
〔第 4 講〕	ネット通販の流通インパクト並びにクラウドコンピューティングによる SCM の課題：リアル物流と結合したネット通販の威力と IT 活用の知恵が生み出すビジネスチャンス
〔第 5 講〕	ロジスティクスの改革：EOS の効率性と業務改善の壁を踏まえ新たな SCM を考える。
〔第 6 講〕	マーチャンダイジングと販促企画：IT を基盤にした新しい生・配・販連携の企画について
〔第 7 講〕	流通システムの標準化の社会的な動向と SCM における BCP のあり方
〔第 8 講〕	中国、ベトナムの流通の解説と日本流通における SCM の課題についての総括

■参考図書

「流通業のサプライチェーンマネジメントを実現する IT インフラ活用経営」(浅野恭平 著 幻冬メディアコンサルティング発行)

「ロジスティクス・イノベーション」(高橋輝男＋ネオ・ロジスティクス共同研究会著 白桃書房)

■評価について： 評価方法・基準など

出席率 70% レポートもしくは口頭試問 30%

■その他： 質疑応答や議論を通じて積極的な講義への参画を重視する。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	柿内幸夫
■講義名（和文）：	日本のものづくり経営
■サブタイトル：	改善実行を通じて行う経営力向上の具体的解説
■講義名（英文）：	Production Management in Japan
■講義目的：製造業の経営では、経営者が進むべき戦略、方針、方策を適切に示すことは重要だが、それだけでは不十分でそれらを監督者・作業者が現場で現場改善力を駆使して実行できなければならない。本講座では、その両方を対象にするが、後者の現場管理面により重点を置き製造業の経営を解説する。	
■講義要旨：メーカーにおいて、モノのつくり方によって利益が増減する事実を実例とその分析を通じて解説する。ビジネスを進めるにあたって、現場からの情報収集と改善実行がどのように経営を支えるかの理解を深めることを主眼とする。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	オリエンテーション 日本のモノづくり モノづくりの基本 5 S
〔第 2 講〕	5 S を経営に生かす：K Z 法解説 K Z 法 経営者としての評価と今後の活用（外部講師）
〔第 3 講〕	モノづくり経営の基本 ムダとは何か？ ムダ改善実習（動作経済の 4 原則）
〔第 4 講〕	品質向上活動（Q C サークル活動） 日本における Q C サークル活動（外部講師）
〔第 5 講〕	これからの日本のモノづくり改善の切り（流れの追求） 流れ生産実習（最強のモノづくり）（外部講師）
〔第 6 講〕	流れ生産のための改善要素（段取り替え） 流れ生産のための改善要素（設備の内製化）
〔第 7 講〕	流れ生産のための改善要素（作業訓練） まとめ
〔第 8 講〕	口頭試問を兼ねた自由討論

■教科書等： 指定図書

「改善の急所 101 項」（日本経営合理化協会出版局）、毎回のテキストは講師より当日プリント配布

■評価について： 評価方法・基準など

出席率 50%、授業への参加・貢献およびレポート 50%

■その他： 特に留意する事項など

・講義中における質疑応答や議論を通じた積極的な参画による理解の深化を重視する。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	今岡善次郎
■講義名（和文）：	ジャストインタイムと SCM
■サブタイトル：	流れを作るメカニズム
■講義名（英文）：	Just in time and SCM
■講義目的：どんな仕事でも材料や資料が必要な時必要なものだけ用意されるとムダ時間が無くなり仕事の成果が最短で得られます。ジャストインタイムのトヨタ式生産システムやそこから理論化された TOC(制約理論)を一般化することで時間の効果的活用のコツがわかり最短で成果を上げる仕事術を身につけます。	
■講義要旨：TOC（制約理論）やトヨタ式生産システム、ザックマンの EA(エンタープライズ・アーキテクチャー)の本質を講義します。モノやサービス供給において、業務と業務の滞留時間である在庫に焦点を当て時間短縮する秘訣を話します。現場現実から必要なメカニズムを処方する帰納的な方法も学びます。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	ジャストインタイムのメカニズムと S C M
〔第 2 講〕	在庫とは業務と業務の繋がりにおける滞留時間。収益との関係。
〔第 3 講〕	トヨタ式生産システム：システムメカニズムと組織論
〔第 4 講〕	ゴールドラットの TOC（制約理論）のハイキング・ダイゲームモデル・在庫モデル 在庫という時間バッファとプロジェクトマネジメントモデル
〔第 5 講〕	5 回のなぜで根本問題、現場現実から帰納法、現場データの抽出演繹法。梅棹忠夫、川喜多二郎、野中郁次郎 SECI モデル等
〔第 6 講〕	IT(情報技術)とビジネスモデル進化（バーチャル化・モジュール化・グローバル化） EA のリバースエンジニアリング
〔第 7 講〕	時間・統合・流れ
〔第 8 講〕	まとめ

■教科書等： 指定図書

「トヨタ式生産方式」（大野耐一、ダイヤモンド社）「ザ・ゴール」（ゴールドラット、ダイヤモンド）

「サプライチェーンマネジメント」（今岡善次郎、工業調査会）

■評価について： 評価方法・基準など

出席率、議論参加度、関心度など一枚レポート

■その他： 特に留意する事項など

自分の仕事に当てはめて聴講して欲しい。

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	宇佐美 洋
■講義名（和文）：	ファイナンスマネジメント概論Ⅱ（CFP 必修）
■サブタイトル：	ファイナンス・経済学の応用
■講義名（英文）：	Corporate Finance
■講義目的： 経営戦略上きわめて重要な諸課題について、ファイナンス理論および新しい経済学からみた考え方を学びます。 ■講義要旨： 資本構成、資産・企業価値評価、デリバティブ、リスク管理などのファイナンスの応用の他に、財務的な困窮・倒産・事業再編、合併・買収、あるいはガバナンスなど、現代の企業戦略の中核的課題に対処するために必須となる経済学的な考え方も学びます。なお必要になる基礎知識（ファイナンスマネジメント概論Ⅰのレベル）については、講義開講日に要点を学習するので、概論Ⅰは取らずに、この講義だけを履修することも可能です。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	ファイナンスの基礎知識 1
	ファイナンスの基礎知識 2
〔第 2 講〕	財務困窮、管理者のインセンティブ、および情報
	配当政策
〔第 3 講〕	資本計画及びレバレッジ付の価値評価
	企業価値評価及びファイナンス・モデル：ケーススタディ
〔第 4 講〕	金融オプション
	オプション価格評価
〔第 5 講〕	リアルオプション
	資本調達
〔第 6 講〕	運転資本管理
	合併及び買収
〔第 7 講〕	企業ガバナンス
	リスクマネジメント
〔第 8 講〕	国際企業財務

■教科書等： 指定図書、参考図書、参考 URL など

教科書：

“Corporate Finance, 2nd ed.” J. Berk & P. DeMarzo, Pearson, 2009（邦訳が出版予定）

参考図書：

「コーポレート・ファイナンス」岩村充著、中央経済社、2013年

「FP テキスト 不動産運用設計」日本 FP 協会

■評価について： 出席率および講義参加の積極性などにより評価する。

■その他： 特に留意する事項など：

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	金子 智朗
■講義名（和文）：	管理会計論
■サブタイトル：	なし
■講義名（英文）：	Managerial Accounting
■講義目的：会計数値を使った正しい意思決定ができるようになることを目標とする。	
■講義要旨：マネジメントに資する管理会計について、講義と演習を行う。 前半は、計数管理の基本となる各種財務指標を扱う。 後半は、意思決定に役立つ会計数値の使い方を扱い、組織マネジメントとの関係も扱う。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	財務諸表の基礎、収益性
〔第 2 講〕	安全性、キャッシュ・フロー
〔第 3 講〕	生産性、成長性、株主関連指標
〔第 4 講〕	グループワーク
〔第 5 講〕	意思決定(1)
〔第 6 講〕	意思決定(2)
〔第 7 講〕	業績評価
〔第 8 講〕	バランスト・スコアカード

■教科書等：

レジュメを配布します。

■指定図書：

なし

■参考図書：

『財務分析の超入門講座』金子智朗（秀和システム）

『「管理会計の基本」がすべてわかる本』金子智朗（秀和システム）

■評価の方法・基準など：

講義への出席率 30%、講義への貢献 30%、レポート 40%

遅刻についてもマイナス評価とします。

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	宇佐美 洋
■講義名（和文）：	法の経済分析（CFP 必修）
■サブタイトル：	法律の仕組みを経済学で理解する
■講義名（英文）：	Law & Economics
■ 講義目的： 経済学の視点から法律の構造を読み解く手法で、「法の経済分析」あるいは「法と経済学」と称される分野を学ぶ。 ■講義要旨： 経済環境の急激な変貌にともない、企業をとりまく法律などのルールもめまぐるしく変化している。法律に不案内のビジネスマンがこのような環境を読み解きくための方法として、法律等の制度を経済学の視点で理解し、その視点を習得しておくことがきわめて有効である。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	所有権法 1
	所有権法 2
〔第 2 講〕	所有権法 3
	所有権法 4
〔第 3 講〕	不法行為法 1
	不法行為法 2
〔第 4 講〕	不法行為法 3
	不法行為法 4
〔第 5 講〕	契約法 1
	契約法 2
〔第 6 講〕	契約法 3
	訴訟及び手続法
〔第 7 講〕	刑法
	法の一般構造
〔第 8 講〕	厚生経済学・道徳・法

■教科書等： 指定図書、参考図書、参考 URL など

教科書：

「法と経済学」S. シャベル著、日本経済新聞社、2010 年

参考図書：

「法と経済学入門」神田・小林著、弘文堂、1986 年

「法と経済学で読み解く雇用の世界：働くことの不安と楽しみ」大内・川口著、有斐閣、2012 年

“Economic Foundation of Law and Organization” D.Wittman, Cambridge, 2006

「FP テキスト：相続事業承継設計」日本 FP 協会

■評価について： 出席率および講義参加の積極性などにより評価する。

■その他： 特に留意する事項など

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	中岡 英隆
■講義名（和文）：	リアルオプション
■サブタイトル：	経営戦略と投資の意思決定
■講義名（英文）：	Real Options
■講義目的： 企業の経営は、不確実性下における投資や企業価値創造に関わる様々なオプションに対する戦略的意思決定である。本講義では、企業の戦略的意思決定をサポートする新しい経営手法であるリアルオプションの理論的基礎と実践的な解法を修得する。	
■講義要旨： 本講義では、まずケースを通じて優れた企業の経営戦略のデザインとリアルオプションの実戦的かつ直観的な理解を深める。その上で、二項モデルを用いてオプション理論の基本であるリスク中立化法を修得し、Excel のオプション評価モデルを使って事例演習を行う。次いで、連続時間モデルにおいて、オプション理論の基本とリアルオプションの基本モデルを修得し、さらに参入オプションの拡張、撤退オプション、スイッチング・オプションなど応用問題の解法について事例演習を交えながら修得する。	
■講義の進め方： 全 8 講	
〔第 1 講〕	不確実性下の経営戦略と投資の意思決定、 戦略のデザインとリアルオプション
〔第 2 講〕	NPV 法とリアルオプション、 離散時間モデルとリスク中立化法
〔第 3 講〕	Excel を使った二項モデル演習、 リアルオプション事例演習
〔第 4 講〕	確率積分と伊藤の公式、 リアルオプションの基本モデル
〔第 5 講〕	拡張モデル（ブラウン運動）、 キャッシュフローと企業価値
〔第 6 講〕	撤退オプション、 停止・再開オプション
〔第 7 講〕	スイッチング・オプション、 拡張モデル（ジャンプ拡散過程）
〔第 8 講〕	数値解法

■教科書等： 指定図書

教科書： 毎回配布のレジュメによる。

指定図書： 木島正明，中岡英隆，芝田隆志（2008），『リアルオプションと投資戦略』朝倉書店。

参考図書： マーサ・アムラム他（2001），『リアル・オプション』東洋経済新報社。

トム・コーブランド他（2002），『決定版リアル・オプション』東洋経済新報社。

■評価について： 評価方法・基準など

出席状況および授業への参加姿勢と課題発表・レポートにより評価する。

■その他： 特に留意する事項など

・概ね文系レベルの数学と EXCEL の知見を前提とする。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	樋渡 淳二
■講義名（和文）：	統合リスクマネジメント
■サブタイトル：	夢をかなえるリスクマネジメント
■講義名（英文）：	Enterprise Risk Management
■講義目的：「金融危機はなぜ起きたのか」「今後どう対処するか」「なぜ、企業の明暗が分かれるのか」。こうした課題について、事例研究をもとに議論します。議論を深めるために、リスクマネジメントのフレームワークを正しく理解するとともに、企業の経営理念・個人の夢を実現するためのリスクマネジメント力を各自が身につけることを目指します。	
■講義要旨：講師は、国際機関、バーゼル委員会、SWIFT、日本・海外の中央銀行、大学院等で、リスクマネジメントの研究・実践を行ってきました。予備知識や事前準備はいりません。講義で、わかりやすく説明します。「明るく、楽しく、為になる」講義を行います。この講義を通じて、①恵まれ過ぎていると先延ばしにして失敗しうることを、②「環境変化に適応できるものが生き残る」（ダーウィン）として挑戦すると、道は開けうることを、③それを実現するフレームワークを学び、実践すること、を学んでいきます。仕事、プライベートでも、自分で考え、問題を解決できる能力が養われます。	
■講義の進め方：	全 8 講 パワーポイントで概要を説明し、本質について議論を深めて行きます。
〔第 1 講〕	リスクとは勇氣を持って試みるもの
〔第 2 講〕	リスクリスクマネジメント総論（リスク管理フレームワーク）
〔第 3 講〕	金融危機はなぜ繰り返すのか 1
〔第 4 講〕	金融危機はなぜ繰り返すのか 2
〔第 5 講〕	日本銀行の金融緩和策と将来の金融危機への対応
〔第 6 講〕	企業・金融機関のリスクマネジメント 1（成功例と失敗例）
〔第 7 講〕	企業・金融機関のリスクマネジメント 1（成功例と失敗例）
〔第 8 講〕	あなたの夢をかなえる個人のリスクマネジメント

■教科書等： 指定図書

樋渡淳二・足田浩[2005]『リスクマネジメントの術理』

■評価について： 評価方法・基準など

レポートによる評価。

■その他： 特に留意する事項など

・是非、講義でお会いしましょう。

CFP 必修科目です。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	徳岡晃一郎
■講義名（和文）：	ヒューマンリソースマネジメント概論
■サブタイトル：	知識創造型企業の人事戦略
■講義名（英文）：	Human resources strategy of knowledge-creating company
■講義目的：経営戦略を実行に移すための鍵となる人事戦略の基本および知識経営時代の新しい人事戦略について理論と事例を基に考える。	
■講義要旨：変化とスピードの時代を迎えて、企業はイノベーションや戦略の転換、M&A やリストラなどさまざまな変革をおこなっているが、それらはすべて社員によって実行されるものであり、人事戦略が変革の成否を握っている。そのような戦略的な人事のあり方を知識経営の文脈の中で検討し、知識創造型企業への転換にどのように人事が貢献できるのか考えていく。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	人事戦略の基礎 1：人事管理の目的、主な領域と課題、これまでの主な人事戦略のフレームワーク
〔第 2 講〕	人事戦略の基礎 2：経営戦略論と人事戦略の関係、知識創造と人事戦略の関係
〔第 3 講〕	評価制度：これまでの評価制度の概要（年功制と成果主義）と功罪。なぜ知が創造されなくなったのか？
〔第 4 講〕	MB0（目標管理）から MBB（思いのマネジメント）へ
〔第 5 講〕	MBB の実践演習
〔第 6 講〕	MBB を実践するチェンジリーダーとは
〔第 7 講〕	ゲストスピーカーセッション：知識創造を実践している企業の人事部長を招いて
〔第 8 講〕	知識創造型人事部とは

■教科書等： 指定図書

「人事異動」徳岡晃一郎著、新潮社

「シャドーワーク」一條和生、徳岡晃一郎著、東洋経済新報社

「MBB：思いのマネジメント」一條和生、徳岡晃一郎、野中郁次郎著、東洋経済新報社

■評価について： 評価方法・基準など

- ・ クラス出席、参加度合、宿題、発表実施（70%）
- ・ 人事戦略に関する各自の課題論文（30%）

■その他： 特に留意する事項など

- ・ なし

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	橋本 忠夫
■講義名（和文）：	組織コンセプトと組織デザイン
■サブタイトル：	超複雑化経営環境下における総合化力向上マネジメントコンセプト
■講義名（英文）：	Organization Concept & Organization Design
■講義目的：組織に関するコンセプトを整理し、組織・人・仕事の有効なフレームワークを明確化する	
■講義要旨：ビジネス組織は競争を超える成果を出しながら、簡単には実現できない組織目標達成の手を打ち続けなければならない。ところが実際は、目標に向かう高いモラル集団にまとめきれず、常にマイナスエネルギーを自らが抱えている。組織とはそもそも何なのか、どう捉えるべきなのか、根本的な錯覚はないか等について実例の考察を通じて、組織内エネルギーがマイナス方向に向かうメカニズムの解明を図る。組織は典型的な実践的学問対象である。組織・仕事・人の相互関係のミスマッチを見抜き、活性化された組織への道を探る。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	コンセプト&コンセプトチュアルアプローチの重要性 組織問題のフレームワーク
〔第 2 講〕	機能体組織とは？ 共同体組織とは？
〔第 3 講〕	機能体組織（日本陸軍）の機能不全①
〔第 4 講〕	機能体組織（日本陸軍）の機能不全② 組織と責任
〔第 5 講〕	ビジネス組織の歴史 ウェーバーとテイラー 組織管理の 5 原則と経営環境変化 機能別組織／事業別組織／プロジェクト別組織
〔第 6 講〕	官僚主義・大企業病の原因 組織体質・風土のルーツと対応
〔第 7 講〕	組織設計と組織運営（理念・組織・人事）人事異動
〔第 8 講〕	まとめ 組織をシステムとして捉える 個人と組織

■参考文献：「変革型ミドルのための経営実学」 ・ 「雪印の落日」 藤原邦達 緑風出版

・ 「東海村臨界事故」 七沢 潔 ・ 「NHK ビデオ」

■評価方法・基準：出席率、議論参加度、最終レポートの総合評価

■留意事項：現実の場における当事者意識と自ら考えることの重要性の認識

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 1 講は 90 分

■担当教員名：	浜田 正幸
■講義名（和文）：	実践組織変革
■サブタイトル：	
■講義名（英文）：	Organizational Change
■講義目的： ① 組織変革の方法を知る ② 組織を変革させるための戦略が立案できるようにする	
■講義要旨： 「何も変えないことが一番わるい」とトヨタ自動車当時会長の奥田碩氏は言っている。ダーウィンの進化論にも例えられるように、企業（組織）は変革し続けなければならない。その変革は自ら引き起こすこともあるし、合併のように強制的に発生することもある。組織に対してどのように変革を引き起こしていくのか、またそれをどのようにマネジしていくのか、事例研究をとおしてその方法と戦略を習得する。	
■講義の進め方： 全 8 講	
〔第 1 講〕	オリエンテーション 講義の内容と進め方について説明する。また、事例の取り扱いや議論についてのルールを確認する。以降の事例発表の順番を決める。
〔第 2 講〕	事例研究 自動車販売チャネル改革の事例を紹介し、同時にどのようにディスカッションを進めていくのか確認する。
〔第 3 講〕	組織の融合と組織の凝集性に関する実証実験の紹介。 事例研究① ②
〔第 4 講〕	個人の内発的動機づけと外発的誘因に関する実証実験の紹介。 事例研究③ ④
〔第 5 講〕	協調に関する国際比較の実証実験の紹介。 事例研究⑤ ⑥
〔第 6 講〕	人事異動の根拠となる仕事習熟モデルの紹介。 事例研究⑦ ⑧
〔第 7 講〕	キャリアアンカーと組織変革リーダーのツール紹介。 事例研究⑨ ⑩
〔第 8 講〕	認知的不協和に関する実証研究の紹介。 事例研究⑪ まとめレポート

■教科書等： 参考図書

『組織論再入門』 野田稔 ダイアモンド社

『組織デザイン』 沼上幹 『経営組織』 金井壽宏

■評価について： 評価方法・基準など

講義中のディスカッションへの積極的な参加、事例発表かあるいは事例レポートの提出

■その他： 特に留意する事項など

- ・ 組織変革には、いわゆる「正解」がないので、講義内でとりあげた事例について、さまざまな角度から積極的にディスカッションすることが求められる。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	佐藤 勝彦
■講義名（和文）：	実践人事戦略
■サブタイトル：	グローバル経営の現場から人事戦略を考える
■講義名（英文）：	Human Resource Management in Practice
■講義目的：グローバル経営環境下での人事戦略の立案、実行について内外の具体的ケースをもとに論議を行い、人事戦略の本質に迫る。	
■講義要旨： いわゆる日本的経営を成立させていた条件が崩れて久しいが、日本の経営、とりわけその核である人事戦略はグローバル化の波の中で今後どうあるべきか、またその実行に当たっては何を考えなくてはいいかを過去の事例、あるいは現在の実例を取り上げ、受講生間で議論をしながら自分なりの人事戦略の全体像を掴む。講義内での受講生の研究テーマ発表を奨励しています。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	経営と人事機能
〔第 2 講〕	スタッフィングとキャリア形成
〔第 3 講〕	評価と報酬
〔第 4 講〕	コーポレートフィロソフィー、ダイバーシティ、インテグリティ
〔第 5 講〕	組織コミュニケーション（含む労使関係）
〔第 6 講〕	人事育成
〔第 7 講〕	グローバル人材育成
〔第 8 講〕	まとめ

■教科書等： 参考図書

『日本産業社会の「神話」』 小池和男著	日本経済新聞出版社
『世界の知で創る』 野中郁次郎・徳岡晃一郎著	東洋経済新報社
『あなたが歴史に出会うとき』 堺 憲一著	名古屋大学出版会

■評価について： 評価方法・基準など

出席 50%、ディスカッションへの参画・貢献 25%、期末レポートもしくは
テーマ発表 25%

■その他： 特に留意する事項など

・

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	須東朋広
■講義名（和文）：	組織行動とリーダーシップ
■サブタイトル：	これから求められるビジネスリーダーのとるべき組織行動の在り方
■講義名（英文）：	Organizational Behavior for exercising Leadership
■講義目的： 組織としてイノベーションや生産性を高めるためにはどのようにすればいいのか？企業の最大の資源は「人」であり、その「人」の働き甲斐や職務満足感を高めるためにビジネスリーダーは何をどう考えなければならないのか理論と事例を基に考える。	
■講義要旨： 知識社会化、グローバル化といった時代背景を元に、ビジネスパーソン意識・行動も変化してきている。よって優れたビジネスリーダーは未来を洞察した上で組織・職場・個人へ対処していくことが求められる。本講座ではこれからの日本においてビジネスリーダーがリーダーシップを発揮するためにどう組織・職場・働く人に対処していくべきかなどについて議論を中心に進めていく。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	イントロダクション：知識社会化とグローバル化時代における働き方とは これからの未来におけるの雇用・働き方・人事の在り方について
〔第 2 講〕	日本的雇用システムの現状と課題～働き方と HRM の在り方～
〔第 3 講〕	パフォーマンスとエンプロイアビリティ ～働く人は雇用されうる能力をどう身に付けるか～
〔第 4 講〕	個人・人事管理・雇用という観点からキャリアについて考える
〔第 5 講〕	学習とモチベーション～行動から認知へ～ キャリアと学習～状況主義的学習理論（ワークプレイスラーニングなど）を中心に～
〔第 6 講〕	行動主義とリーダーシップ～歴史的変遷と未来型リーダーシップの在り方～
〔第 7 講〕	組織文化と組織変革、学習する組織の在り方について
〔第 8 講〕	人材管理とタレントマネジメント

■教科書等： 指定図書

■教科書等： 参考図書「組織行動のマネジメント」（スティブン P ロビンズ）、
「21 世紀のキャリア論」（高橋俊介）
「知識労働者のキャリア発達」（三輪卓巳）

■評価について： 評価方法・基準など

- ・クラス参加度合（60%）
- ・各自の課題論文（40%）

■その他： 特に留意する事項など

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	橋本 忠夫
■講義名（和文）：	インテグレーションマネジメント概論
■サブタイトル：	超複雑化経営環境下における総合化力向上マネジメントコンセプト
■講義名（英文）：	Integration Management
■講義目的：現代の超複雑化経営環境下における経営スタイルのキーとなるインテグレーションマネジメントについての理解を深める	
■講義要旨：グローバル化・IT 化・政治の影響力増大・消費者の価値観やステークホルダーの多様化等により経営環境は超複雑化しており、的確な経営全体観がどれだけ優秀な経営者とそのスタッフにも見えなくなっている。そのため、「部分最適より全体最適を！」は、その実現が益々困難となっている。5 ドメインの経営実学に加え、基幹業務・プロジェクト業務・戦略業務のマネジメントの本質を実例によって学び、トップの役割とミドルの役割の変質について考察する。 それを通じてインテグレーションマネジメントが次世代経営スタイルのキーであることを学ぶ。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	マネジメントの歴史 深刻化するリスクマネジメントと経営者責任 従来型経営思想の問題点 全体最適の重要性とその限界 ピラミッド組織／フラット組織 分業／センター管理
〔第 2 講〕	基幹業務の本質とマネジメントのポイント 基幹業務に対する経営者のコミットメント S D C A サイクル／P D C A サイクル／S W A T サイクル
〔第 3 講〕	プロジェクト業務の本質とマネジメントのポイント P M 重点 5 項目
〔第 4 講〕	戦略業務の本質とマネジメントのポイント 制度設計力のポイント 戦略スタッフの役割と限界
〔第 5 講〕	問題解決力／ビジョン形成力 ロジカルシンキング・分析力／総合・構想力 ブレークダウン思考とインテグレーション思考 専門スキルとその位置付け
〔第 6 講〕	閉塞化 5 大要因 閉塞化状況打破のための経営理念・実学経営・コアネット経営 事業創続ネット E L P A S O 会
〔第 7 講〕	現役経営者講話
〔第 8 講〕	まとめ 人間理解力 グローバルネットワーク時代とインテグレーション風土 グローカリティ；スモールスタート 経営者の人間力と志

■教科書等： 指定図書

「変革型ミドルのための経営実学」橋本忠夫 芙蓉書房出版

「文明論の概略」 福沢諭吉

■評価について： 評価方法・基準など

出席率、議論参画度、最終レポートのレベル

■その他： 特に留意する事項など

- ・読む・書くに加え、聴く・話すことがビジネス（経営実学）力向上のキーポイント、を実感すること
- ・知識獲得と知識創造 現実の場における当事者意識と自分自身の思考の重要性を認識すること

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第 8 項は 90 分

■担当教員名：	紺野 登
■講義名（和文）：	実践経営実学
■サブタイトル：	賢慮・実践知のリーダーシップ
■講義名（英文）：	Phronetic Leadership in Practice
■講義目的：本講は、組織の知識生態学（ナレッジ・エコロジー）の観点からリーダーにとっての経営実践をトピックとしてとりあげる。経営判断、場の創出、ビジョンの概念化、実践のための説得など、「フロネシス（賢慮、phronesis）」のモデル（6 要素）に沿って、個（われわれ）の賢慮を育成することを狙いとする。	
■ 講義要旨：ジャーナリングを軸に、文献を読み、対話し、フィードバックする。以上のプロセスを展開する。リベラル・アーツの分野のゲスト講話、文献（一部ビデオ）などをもとに、対話、ジャーナリングを続けて「創造的な（イノベーション）リーダー」としての自己を見る場として頂きたい。本講は根本的に、先人のリーダーも行なって来た自己修練（自己啓発ではない）のプログラムである。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	賢慮のリーダーシップ～ドラッカーも実践した自己修練の観点 ガイダンス、実践的智慧（アリストテレス）とは、ジャーナリング演習
〔第 2 講〕	① 判断する、善を創る、とは 快、美、善の判断力（カント）、目利きの知とは
〔第 3 講〕	②「場」を創る、とは 場と身体（西田幾多郎）、武道・能・禅、脳科学、間主観性
〔第 4 講〕	② 洞察・本質直観、とは 観察～人類学・現象学的還元（フッサール）、アートワーク：デッサン実習
〔第 5 講〕	③ 言語化する、とは コンセプト（理念型、ウェーバー）の創出、リーダーのコピーライティング実習
〔第 6 講〕	④ 概念に基づき実践を行なう・促す、とは 実践に向けて奮い立たせる説得術、弁論術（アリストテレス）、孫子
〔第 7 講〕	⑤ 賢慮を組織化する、とは 政治学（政治的知性、マキアヴェッリ）と経営
〔第 8 講〕	総括・振り返り

■教科書等：

- ✓ 『君主論』（佐々木毅訳、講談社学術文庫）、『孫子』（浅野祐一、講談社学術文庫）等適宜参考文献を提示
- ✓ 野中郁次郎、紺野登（2012）『知識創造経営のプリンシプル』東洋経済新報社（参考図書）

■ 評価について： 評価方法・基準など

出席状況と適宜の対話への参画及び、企業事例研究を通じて知識経営を自身の文脈に照らしてまとめるレポートの提出をもって評価します。

■ その他： 特に留意する事項など

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	諏訪 良武
■講義名（和文）：	サービスイノベーション
■サブタイトル：	サービスの本質を理解し、論理的に企業変革を実現しよう
■講義名（英文）：	Service innovation
■講義目的：サービスを分類・分解・モデル化し、サービスの本質を理解する。自分がやっているサービスをモデル化し、実践することにより、サービス経営に応用できる知識と知恵を身につける。	
■講義要旨：日本の GDP の 75%はサービス業であり、残りの大半を占める製造業もサービスの良否が競争優位を決める時代になっている。このことは、企業経営にサービス知識が必須であることを示している。われわれは、サービスの本質を理解し、論理的に顧客満足・従業員満足を高め、企業変革を実現しなければならない。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	サービスを分類・分解し、サービスの本質に近づく。
〔第 2 講〕	サービスをモデル化し、サービスを論理的に改善する。
〔第 3 講〕	お客様の事前期待を理解し、その期待をマネジメントする。
〔第 4 講〕	お客様を明確化するため、事前期待による顧客セグメンテーションを実践する。
〔第 5 講〕	サービスバリューを高め、サービスで利益を上げる。
〔第 6 講〕	現実のサービス問題を分析し、解決策を作り上げる。
〔第 7 講〕	自社のサービスモデルを作り上げ、サービス変革の注力点を具体化する。
〔第 8 講〕	上記の具体的なサービスモデルを全員でレビューする。

■教科書等： 指定図書

「お客様はサービスを買っている」諏訪良武 ダイアモンド社

■評価について： 評価方法・基準など

出席率、議論への参加度、発表回数、レポートなど

■その他： 特に留意する事項など

・ワークショップスタイルが中心になるため、出席率を高めてほしい。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	明賀義輝
■講義名（和文）：	ビジネスシミュレーション
■サブタイトル：	マネジメント・ゲーム上の起業体験で企業経営の本質に迫る
■講義名（英文）：	Business Simulation
■講義目的： 経営シミュレーションを通して企業経営の本質を理解し、4つの視点から企業経営を理論的に学ぶ。まず、マネジメント・ゲーム上に会社を起業して、ヒト、モノ、カネ、情報四つの経営資源のミニチュアを動かしながら、一人一社、社長としての経営体験をします。その経営体験を通して、「経営の目的」「企業会計の構造」「経営計画立案の基本」「顧客満足経営の本質」を習得することを目的とする。	
■講義要旨： 経営シミュレーションを通して常に、企業経営の全体像を押さえながら、企業経営に必要な損益計算書、貸借対照表の構造、キャッシュフロー循環の構造を学び、経営数値改善のポイントを掴む。経営者の想い、経営理念の重要性、それを具体化した経営計画が企業の未来の姿を創っていく。経営とは変化への対応である。	
■講義の進め方： 全 8 講	
〔第 1 講〕	講義 なぜシミュレーション（経営体験）なのか・「経営の目的」とは？ 講義 マネジメント・ゲームの経営環境（基礎）の情報提供
〔第 2 講〕	経営体験（基礎）（第一期）創業期の体験&決算（損益計算書・貸借対照表作成） 経営体験（基礎）（第二期）成長前期の体験&決算、第三期利益計画作成
〔第 3 講〕	講義 損益分岐点活用自在（損益計算書の見方、収益構造改善のポイント、経営羅針盤） 経営体験（基礎）（第三期）成長後期の体験&決算、第四期利益計画、貸借対照表計画作成
〔第 4 講〕	経営体験（基礎）（第四期）成熟期の体験&決算（損益計算書、貸借対照表作成） 講義 貸借対照表の構造（意思決定と財務数値）
〔第 5 講〕	講義 マネジメント・ゲームの経営環境（中級）の情報提供 新五ヵ年中期経営計画立案
〔第 6 講〕	経営体験（中級）（第一期、第二期）&決算（1）（損益計算書、貸借対照表作成） 決算（2）（キャッシュフロー計算書）&短期経営計画（第三期）立案
〔第 7 講〕	経営体験（中級）（第四期）&決算（1）（損益計算書、貸借対照表作成） 決算（2）（キャッシュフロー計算書）&講義 キャッシュフローは血液の循環
〔第 8 講〕	講義「企業経営と意思決定」&閉講 質疑応答、まとめ

■教科書等： 指定図書：①藤沢武夫著『経営に終わりはない』②前川正夫著「マエカワは何故『跳ぶ』のか」
③P・Fドラッカー著『現代の経営上・下』

■参考図書：梅棹忠夫著『情報の文明学』、今西錦司著『進化とはなにか』、西田幾多郎著『善の研究』

■評価について： 評価方法・基準など

出席 30%、マネジメント・ゲーム上の経営体験業績 30%、レポート 40%（二回）

■その他： 特に留意する事項など

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	徳岡晃一郎
■講義名（和文）：	カルチャーベースマネジメント
■サブタイトル：	知識創造企業の企業文化戦略
■講義名（英文）：	Management by Corporate culture
■講義目的： 企業文化が戦略の成功や企業の成長にもたらす効果について検討し、どのように企業文化を育てるのかを実例を通じて学ぶ。	
■講義要旨： 不透明で創造性が要求されるなか、これまでの論理分析の左脳経営の時代は終わりを告げ、イノベーションの時代には人間のインタラクションや組織的知識創造をベースにすることが重要になっている。そのカギは豊かで濃密な企業文化。共通善に向けたよりよい成長を志向する価値観を共有する企業文化がないところにはよい戦略も描けない。イノベーションの時代の企業文化の価値とマネジメント手法について考える。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	企業文化とは何か。企業文化と経営戦略
〔第 2 講〕	企業文化のマネジメント
〔第 3 講〕	スターバックスの企業文化戦略 1：スターバックスからのゲストとの共同セッション
〔第 4 講〕	スターバックスの企業文化戦略 2：スターバックスからのゲストとの共同セッション
〔第 5 講〕	ウォルマートの企業文化戦略 1：ウォルマートからのゲストとの共同セッション
〔第 6 講〕	ウォルマートの企業文化戦略 1：ウォルマートからのゲストとの共同セッション
〔第 7 講〕	賢慮の戦略論。共通善とビジネス成果の両立
〔第 8 講〕	企業文化とグローバル化。日本の企業文化はどう変わるべきか

■教科書等： 指定図書

「ウォルマートの成功哲学」ドン・ソーダクイスト著、徳岡晃一郎・金山亮訳、ダイヤモンド社

「スターバックス成功物語」ハワード・シュルツ著、大川修二他訳、日経 BP 社

「スターバックス再生物語」ハワード・シュルツ著、月沢李歌子、徳間書店

■評価について： 評価方法・基準など

・クラス参加度合（70%）

・社内コミュニケーション戦略に関する各自の課題論文（30%）

■その他： 特に留意する事項など

・とくになし

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	真野俊樹
■講義名（和文）：	ヘルスケアと関連事業マネジメント
■サブタイトル：	新しいチャンスを探る
■講義名（英文）：	Healthcare and management
■講義目的：医療介護業界を解きほぐして現業や新たなチャンスを探る機会とする。	
■講義要旨：年々の医療介護費用の増加は 2 兆円を超す。これをコストとみればマイナスであるが、市場の広がりともれば大きなチャンスともいえる。一方、倫理的な部分や規制が多い業種であるがゆえに、その中で生きていくにはかなりの修練が必要になる。当該講座では、医療や介護事業者あるいはその分野に外部から関心を持つ者を対象にし、複雑な業界を解きほぐして現業や新たなチャンスを探る機会とする。議論を多く行い、また外部講師も以前とは異なるために、前期後期の連続履修が理解を深めることになると思う。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	自己紹介、医療介護制度概要
〔第 2 講〕	医療介護の動向
〔第 3 講〕	外部講師による講義と議論
〔第 4 講〕	海外の医療
〔第 5 講〕	外部講師による講義と議論
〔第 6 講〕	受講生の選択トピックスによる演習
〔第 7 講〕	受講生の選択トピックスによる演習
〔第 8 講〕	まとめ

■教科書等： 指定図書

「健康マーケティング」（日本評論社）、「介護マーケティング」（日本評論社）、「世界標準のトヨタ流病院経営」 真野 俊樹（薬事日報社）「経営学の視点から考える患者さんの満足度 UP—患者満足度追求のわな」 真野 俊樹（南山堂）

■評価について： 評価方法・基準など

授業での発表（20%）、出席（30%）、プレゼンテーション（50%）からの総合評価

■その他： 特に留意する事項など

特になし

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 項は 90 分

■担当教員名：	川井 真
■講義名（和文）：	医療保険とソーシャルビジネス
■サブタイトル：	21 世紀の地域経営と内発的発展の構造
■講義名（英文）：	Medical insurance and Social business
■講義目的：少子高齢人口減少社会における産業構造と働き方について考察し、新たな産業連関と地域経済の内発的発展を支える今日的な社会起業家の育成を目指す。	
■講義要旨：高齢社会は不幸なのか？わたしたちは「満たされざる長寿国」という未来を受け入れるのか？この問いに答えるために、ソーシャル・アントレプレナーの労働観と社会サービスへの住民ニーズを交響させ、人間の生存に必要な不可欠な産業に多様な労働スタイルを組み込むことで実現される、新しい地域経営と産業連関のモデルを提案する。また本講座においては、歴史に埋もれた斬新かつ革新的な思想を掘り起し、各地（各国）で展開される先進事例を分析しながら、新時代における経営哲学の確立を目指す。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	近代医療史／社会保険と医療政策
〔第 2 講〕	後期近代の経済思想～資本主義と労働について
〔第 3 講〕	近代科学と人間の学／論理的思考とプラグマティズム
〔第 4 講〕	死生学の展開～社会的リスクマネジメントと公共性について
〔第 5 講〕	自己アイデンティティと善の意識／主我と客我～リーダーの条件
〔第 6 講〕	オートポイエーティック・システム～コミュニティと社会的想像
〔第 7 講〕	地域デザイン～食・エネルギー・ケアを基盤とする自立経済圏の構築
〔第 8 講〕	まとめ インテグレートド・ソーシャルビジネス・ネットワークの概念とデザイン

■教科書等：必要な資料を毎回（テーマごとに）作成し配布する

■指定図書：なし

■参考資料：講義の進捗に合わせ、理解を深めるために役立つ参考図書を紹介する

■評価について：評価方法・基準など

授業への参加と取り組み姿勢 50%、レポート 50%

■その他：特に留意する事項など

本講座では思考の柔軟性を求めています。したがって、経営学・経済学・政治学のような社会科学に属する学問のみならず、人文科学や自然科学、あるいは死生学や認知科学などの新しい学問領域から発信される情報にも耳を傾け、常識にとらわれず、思考を飛躍させることを心がけてください。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	原田保
■講義名（和文）：	地域デザイン戦略
■サブタイトル：	知行合一の重要性を体得する
■講義名（英文）：	Marketing Strategy Context Design
■講義目的： 地域の再生や振興をコンテキストデザインによって計画し実践する能力の獲得を指向する。事例を読み解きながらの実践能に結びつけるアプローチを展開する。	
■ 講義要旨： 毎回設定されるテーマに依拠した提案をパワーポイントを使用してプレゼンし、それにもとずいた議論を行う。最後に全体としての共通認識を共有する。優れた研究については、広く社会に対して常用発信すると同時に、外部組織とのネットワーク形成を指向する。インプットよりはアウトプットを重視する。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	オリエンテーション
〔第 2 講〕	地域デザインの全体像を理解する。（イントロ、プレゼン、ディスカス、インプリ）
〔第 3 講〕	地域ブランディングの手法を理解する。（イントロ、プレゼン、ディスカス、インプリ）
〔第 4 講〕	地域ブランディングの応用を理解する。（イントロ、プレゼン、ディスカス、インプリ）
〔第 5 講〕	世界遺産尾のビジネス活用を理解する。（イントロ、プレゼン、ディスカス、インプリ）
〔第 6 講〕	飛鳥のブランディングを理解する。（イントロ、プレゼン、ディスカス、インプリ）
〔第 7 講〕	海と島のブランディングを理解する。（イントロ、プレゼン、ディスカス、インプリ）
〔第 8 講〕	淡路島のブランド戦略を理解する。（イントロ、プレゼン、ディスカス、インプリ）

■ 教科書等： 指定図書

- ① 地域デザイン戦略総論（原田編著）、②地域ブランドのコンテキストデザイン（原田三浦編著）、③地域デザイン②地域デザイン第 1 巻・・・地域とブランド（仮、予定（地域デザイン学会編著）、④世界遺産のビジネスモデル（仮、予定）（原田・浅野・庄司編著）、⑤飛鳥のブランド戦略（仮、予定）（原田・森川編著）、⑥海と島のブランド戦略（仮、予定）（原田・古賀・西田編著）、⑦淡路島のブランド戦略（仮、予定）（原田・金澤編著）

■ 評価について： 評価方法・基準など

プレゼン、ディスカスの質と回数を重視する。

■ その他： 特に留意する事項など

学会活動や執筆活動を希望する人は歓迎です。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	角井亮一
■講義名（和文）：	ロジスティクスビジネス
■サブタイトル：	実践的なビジネスモデル構築と、生の起業方法について
■講義名（英文）：	Practical Strategic Logistics Management
■講義目的：ビジネスモデルをレベルアップさせる物流事例を研究すると同時に、通販物流 No1 企業「イー・ロジット」を経営する起業家から、起業手法について学ぶ	
■講義要旨：Amazon 対楽天は、物流インフラの戦いになり、アリババは 1400 億円かけて中国で物流インフラを作ると発表した。ライオンは花王に物流で負けたとアスクル岩田社長は語り、ソニーやシャープは、SCM プロジェクトで失敗し今に至る。物流における競争力とは？というテーマで、講師からの講義、外部ゲストからのトーク、受講者の発表やディスカッションと話し合う。また、MBA を持つ講師が語る、会社経営に使える MBA 手法と使えない MBA 手法を、自身の起業経験から語る。	
■講義の進め方：	全 8 講 ※参加者と時流に合わせて、講義内容は臨機応変に変更します
〔第 1 講〕	戦略物流の基本を学ぶ 自己紹介および交流タイム
〔第 2 講〕	ファーストフードなどから学ぶ物流効率化 ディスカッションタイム
〔第 3 講〕	新しい流通（O2O、ネットスーパーなど）とロジスティクス（1） Amazon 対楽天、Yahoo! & アスクル、米国最新事例 ディスカッションタイム
〔第 4 講〕	新しい流通（O2O、ネットスーパーなど）とロジスティクス（2） 宅配ビジネス、セブン&アイグループ、カクヤス、B2B 企業のロジスティクス、メーカー直販 受講者からのショートプレゼン（各自 10 分）
〔第 5 講〕	外部講師 ※受講者に合わせて選定 ディスカッションタイム
〔第 6 講〕	物流業界のジレンマ（苦悩）と、新しいビジネスチャンス 受講者からのショートプレゼン（各自 10 分）
〔第 7 講〕	外部講師 ※受講者に合わせて選定 受講者からのショートプレゼン（各自 10 分）
〔第 8 講〕	起業における MBA 手法について 受講者からのショートプレゼン（各自 10 分）

■教科書等： 指定図書 「物流がわかる（日経文庫）」「実践 MBA 戦略物流（総合法令）」

■評価について： 評価方法・基準など

出席率、議論参画度、ショートプレゼンの準備（内容は問いません）

■その他： 特に留意する事項など

- ・講義から学ぶだけでなく、受講者同士の交流や議論を重視して、講義を進めます。
- ・発言内容は重視しません。発言することを重視します。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	田中 勇一
■講義名（和文）：	社会的企業家演習
■サブタイトル：	日本型経営と社会起業家的な生き方働き方の実践
■講義名（英文）：	Practice of Japanese Social Enterprise and Social Entrepreneur
■講義目的： かつてより社会性と経済性を両立してきた日本型経営。その日本型経営の原点を、経済界で活躍する経営者より直接学び、そして、自らの志や活動計画（含む事業計画）を語り、講師や仲間よりのフィードバックも得ながら、各々が社会起業家的な生き方を実践できるようになる。	
■講義要旨： 「三方よし」「本業を通じて社会貢献する」という理念を持ち、かつてより社会性と経済性の両立を実現してきた日本型経営。「水道哲学」のパナソニック創始者松下幸之助を始めとする創業経営者は、皆、何とか社会を良くしたいという志を持って事業を始めている。その日本型経営手法を学ぶことで、志の立て方、見えない資本の積み上げ方を理解し、自らの志を形にする生き方・働き方の実践につなげていく。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	社会性と経済性を両立させる日本型経営と社会的企業家としての生き方働き方
〔第 2 講〕	ソーシャルアクションプラン演習（1）「原体験ワーク」
〔第 3 講〕	社会性と経済性を両立する日本型経営とは ―事例研究（1）ゲスト講師ー ゲスト講師を交えたディスカッション
〔第 4 講〕	社会性と経済性を両立する日本型経営とは ―事例研究（2）ゲスト講師ー ゲスト講師を交えたディスカッション
〔第 5 講〕	ソーシャルアクションプラン演習（2）「志を立てる」&「ニーズの検証」
〔第 6 講〕	社会性と経済性を両立する日本型経営とは ―事例研究（3）ゲスト講師ー ゲスト講師を交えたディスカッション
〔第 7 講〕	ソーシャルアクションプラン演習（3）「差別化戦略」&「持続可能性」
〔第 8 講〕	ソーシャルアクションプラン発表

■教科書等： 指定図書

「Invisible Capitalism 目に見えない資本主義」（東洋経済） 著者：田坂広志

「ソーシャル・ビジネスの経営学 ―社会を救う戦略と組織―」（中央経済社）

共著者：福嶋路、平田光子、李美順、中村大作、長田貴仁、横山恵子

■評価について： 評価方法・基準など

出席回数、講義中の発言回数および内容、最終講義のプレゼン内容等を総合的に評価する。

■その他： 特に留意する事項など

2013 年度授業計画書

(日本型CSR論との分割履修不可)

■担当教員名：	田坂 広志
■講義名（和文）：	ソーシャル・イノベーション論
■サブタイトル：	社会イノベーションと社会起業家
■講義名（英文）：	Social Innovation
■講義目的：いま、世界的な潮流となっている「社会イノベーション」（Social Innovation）の概念を理解し、その実践のためのビジョンと戦略を学び、さらには、社会起業家としての生き方と働き方を学ぶ。 ■講義要旨：21世紀においては、ウェブ2.0革命を追い風として、イノベーションそのものが大きな進化を遂げていく。その結果、従来の技術、商品、サービス、ビジネスプロセスのイノベーションにとどまらず、社会システムのパラダイムそのものを根本から変えていく「社会イノベーション」（Social Innovation）が大きな潮流となっていく。	
■講義の進め方：	全8講
〔第1講〕	社会イノベーションとは何か
	イノベーションの進化
〔第2講〕	ウェブ革命とイノベーション
	イノベーションの民主化
〔第3講〕	享受型イノベーション
	参加型イノベーション
〔第4講〕	経済と文化の直接民主主義
	知識資本主義とイノベーション
〔第5講〕	五つの知識資本
	知識資本と社会資本
〔第6講〕	知識資本の収穫逡増の戦略
	社会イノベーションと社会起業家
〔第7講〕	社会システムのパラダイム転換と社会イノベーション
	社会イノベーションと社会の進化
〔第8講〕	社会イノベーションと社会起業家としての生き方と働き方

■教科書等：『これから何が起こるのか』（PHP研究所）『未来を予見する「五つの法則」』（光文社）

■評価について：出席回数、聴講態度、メールでの所感内容、メーリングリストでの討議内容等を総合的に評価する。

■その他：「日本型CSR論」と同時に履修することを求める。

2013 年度授業計画書

(ソーシャル・イノベーション論との分割履修不可)

■担当教員名：	田坂 広志
■講義名（和文）：	日本型CSR論
■サブタイトル：	CSRと社会起業家
■講義名（英文）：	Corporate Social Responsibility, Japanese Style
■講義目的： いま、世界的な潮流となっている「CSR」（Corporate Social Responsibility）の概念を理解し、その実践のためのビジョンと戦略を学び、さらには、社会起業家としての生き方と働き方を学ぶ。 ■講義要旨： 営利企業にも「社会的責任」（Corporate Social Responsibility）を求める「CSR」の動きは、さらに企業に「社会貢献」（Social Contribution）を求める動きへと深化してきている。この世界的な「CSR」の動きは、さらに深化していくが、そのとき、日本型経営の中から生まれてくる「日本型CSR」は、世界の多くの企業にとって、学ぶべき先進的な模範となっていく。	
■講義の進め方：	全8講
〔第1講〕	CSRとは何か
	CSRの深化
〔第2講〕	企業の社会的責任とは何か
	企業の社会貢献とは何か
〔第3講〕	日本型CSRとは何か
	利益を使った社会貢献
〔第4講〕	本業を通じての社会貢献
	人材育成による社会貢献
〔第5講〕	企業の社会貢献と社員の働き甲斐
	仕事の報酬とは何か
〔第6講〕	企業の目的とは何か
	CSRと社会的企業
〔第7講〕	CSRと社会起業家
	社会的提携（ソーシャル・アライアンス）の時代
〔第8講〕	CSRと社会起業家としての生き方と働き方

■教科書等： 『なぜ、我々はマネジメントの道を歩むのか』（PHP研究所）『「働きがい」を束ねる経営』（日本経済新聞社）

■評価について： 出席回数、聴講態度、メールでの所感内容、メーリングリストでの討議内容等を総合的に評価する。

■その他： 「ソーシャル・イノベーション論」と同時に履修することを求める。

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	沈 才彬
■講義名（和文）：	現代中国に於ける企業経営
■サブタイトル：	中国ビジネス実践講座
■講義名（英文）：	Real China Business Study
■講義目的：中国ビジネスのチャンスとリスク、外国企業の成功例と失敗例。現地調査を通じた中国ビジネスの最新情報と企業対策を伝授する	
■講義要旨：日本の最大の輸出先である中国。もはやこの巨大市場抜きには日本の経済も産業も成り立たない。一方、中国経済の真の姿は分かりにくく、中国ビジネスの難しい側面があることも事実だ。中国ビジネスのチャンスは一体どこにあるか？そのリスクは何か？日本企業と欧米企業の中国ビジネス戦略の相違は何か？外国企業の中国進出の成功例と失敗例。 現地調査及び実体験を交えたケース・スタディを通じて、中国ビジネス実学教育を行う。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	なぜいま中国なのか？
〔第 2 講〕	中国ビジネス概論—日本企業と欧米企業の対中戦略の相違
〔第 3 講〕	先発組の優位性—独 VW、米 GM、マイクロソフト、モトローラの実例研究—
〔第 4 講〕	日本企業の中国進出の成功例—ホンダ、J U K I、平和堂を実例に—
〔第 5 講〕	中国ビジネスの失敗例研究—仏プジョーを中心に—
〔第 6 講〕	中国の産学連携ビジネスモデル—レノボを実例に—
〔第 7 講〕	知的財産権をどう守るか？—中国の家電メーカー最大手・海爾（ハイアール）の事例研究
〔第 8 講〕	中国ビジネスの展望—そのチャンスとリスク

■教科書等： 指定図書

沈才彬著「中国スーパー企業の研究」（アートディズ、2011 年）

沈才彬著「中国黒洞（ブラックホール）が世界をのみ込む」（時事通信社、2010 年）

野中郁次郎著「失敗の本質—日本軍の組織理論的研究」（ダイヤモンド社、1984 年）

■評価について： 評価方法・基準など

出席：60%、発言：20%、期末レポート：20%

■その他： 特に留意する事項など

.

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名 :	金 美德
■講義名 (和文) :	東アジアのビジネスと経済
■サブタイトル :	アジア情報戦略
■講義名 (英文) :	Business and Economy of east Asia
■講義目的 :	アジア発の国際情報を収集・分析し、アジア戦略やアジアビジネスモデルを考える。
■講義要旨 :	21 世紀の東アジアは、巨大な市場規模や豊富な天然資源など高い経済的潜在性を背景に世界経済を牽引する。アジア開発銀行(ADB)によると、アジア GDP が世界に占める割合は、2010 年の 27%から 2050 年には 52%になると予測されている。早ければ 2030 年代には 50%を超えるとの見方もある。また、域内経済連携が拡大するだけでなく、欧米諸国のアジアシフトにより域外経済連携も強まる。まさしく「アジア経済＝世界経済」、「経営学のお手本が米国からアジアへ」、「リバース・イノベーション(先進国でなく、アジア新興国の製品やビジネスモデルが国際ビジネスを牽引)」の時代となる。この新潮流は、東アジアの地殻変動であり、ユーラシアダイナミズムの鳴動と言える。今後、今や日本企業は、アジア市場に進出するか、アジアのヒト・モノ・カネ・情報を取り込まずに、生き残れない。換言すれば「ビジネス＝アジア」、「人生＝アジア」の時代だと言っても過言でない。躍動する韓国と北東アジアを切り口にアジア情報戦略論を展開し、日本企業の課題を考察する。 本講義のキーワードは、アジア・ユーラシアダイナミズム、アジア戦略、アジア情報、アジア企業、アジア市場、アジア消費者、アジアマーケティング、中小・ベンチャー企業のアジアへの販路拡大、アジア企業やアジア観光客の日本誘致、新興国ビジネスモデル、アジアの知恵と日本の知恵の融合、地政学的知と地政学的戦略、アジアマインド、アジアセンス。
講義の進め方 :	全 8 講
〔第 1 講〕	東アジアの地理概念と地政学的立地
〔第 2 講〕	東アジアの域内経済連携(1) 日本・中国・韓国・台湾・ロシア・モンゴル・北朝鮮
〔第 3 講〕	東アジアの域内経済連携(2) 日中韓と中韓口朝の経済連携
〔第 4 講〕	東アジアの域内経済連携(3) アジア・ユーラシアダイナミズム
〔第 5 講〕	東アジアの域外経済連携-北東アジアと欧州・中東アフリカ・中央アジア・東南アジア・大洋州・中南米・米州-
〔第 6 講〕	韓国企業と日本企業(1) 韓国企業の強みと弱み
〔第 7 講〕	韓国企業と日本企業(2) 日本企業の課題
〔第 8 講〕	アジア戦略・アジアビジネスモデルの発表

■教科書等 : ①『韓国企業だけが知っている日本企業没落の真実-日本再浮上 27 核心-』(金美德、中経出版、2013 年)

②『図解 韓国四大財閥早わかり』(金美德、中経出版、2012 年)

③『なぜ韓国企業は世界で勝てるのか-新興国ビジネス最前線-』(金美德、PHP 新書、2012 年)

■指定図書 : ①『大中華圏-ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る-』(寺島実郎、NHK 出版、2012 年)

②『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP 新書、2011 年)

③『世界を知る力』(寺島実郎、PHP 新書、2010 年)

■参考図書 : 随時指定する。

■参考 URL など :

①ロイター <http://jp.reuters.com>

②ブルームバーグ <http://www.bloomberg.co.jp/?JPIntro=jpintro>

③日本貿易振興機構(ジェトロ) <http://www.jetro.go.jp>

④共同通信 <http://www.kyodo.co.jp>

⑤中国・新華通信 <http://www.xinhua.jp>

⑥韓国・聯合ニュース <http://japanese.yonhapnews.co.kr>

⑦ザ・ボイス・オブ・ロシア <http://japanese.ruvr.ru/>

⑧在モンゴル日本大使館 http://www.mn.emb-japan.go.jp/index_j.htm

⑨環日本海経済研究所 <http://www.erina.or.jp/index.html.ja>

■評価の方法・基準 : 出席 70%、戦略レポート 30%。

戦略レポートのテーマは、自社もしくは関心企業のアジア戦略や、独自のアジアビジネスモデルなどとする。

最終発表は、相互評価を行う。

尚、戦略レポートの発表と提出がない場合は、不合格とする。

■ その他留意事項 :

①パソコンと携帯電話は、使用を禁止する。

② 講義内容は、筆記すること。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	福島 純夫
■講義名（和文）：	金融市場の変化と企業経営
■サブタイトル：	
■講義名（英文）：	Dynamics of Financial Market and Corporate Finance
■講義目的：巨大化した金融市場、複雑化した金融技術を理解するのに必要な基礎知識を学びます、そこから、今後の世界経済の方向性、企業戦略の方向性を一緒に考えていきましょう	
■講義要旨：40年にわたりグローバル金融市場で働いて得た知見をもとにし、今、実際におきている金融事象、金融問題を題材につかって金融の基礎知識や基礎的仕組みを学んでいきます、	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	オリエンテーションと「金融序論」
〔第 2 講〕	世界経済の現状認識と金融危機の原因分析
〔第 3 講〕	銀行とは（日本の金融システムは銀行を中心とした典型的間接金融システム）
〔第 4 講〕	国債とは（日本政府の借金はどこまで膨らませるか）
〔第 5 講〕	中央銀行とは（日本銀行はどこまでお札を刷れるか）
〔第 6 講〕	デリバティブズ & シャドウバンキング（銀行規制のありかたについて）
〔第 7 講〕	巨大金融機関の暴走を許さないための制度作り
〔第 8 講〕	小論文提出と「まとめ」

■教科書等： 指定図書

「入門 金融論」 池尾 和人著 ダイアモンド社

■評価について： 評価方法・基準など

金融、経済の基礎知識は求めませんが、ゼミへの積極参加を求めます

■その他： 特に留意する事項など

・参考図書

「大暴落 1929」	J K ガルブレイス	日経 B P 社
「市場の変相」	モハメド エラリアン	プレジデント社
「世界国債暴落」	高田 創	東洋経済新報社
「バーゼル敗戦」	太田 康夫	日本経済新聞社
「巨大金融機関はなぜ破綻したのか」	D ダフィー	N T T 出版

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	紺野 登
■講義名（和文）：	イノベーションのためのデザイン思考
■サブタイトル：	知識創造、質的研究方法論のワークショップ
■講義名（英文）：	Design Thinking for Innovation
■講義目的：業種・職種を問わず、これからのリーダーにとって不可欠なデザイン思考の理論と実践を学ぶ。	
■講義要旨：近年世界中の経営大学院でデザイン思考のプログラムの採用が広がっている。背景にはイノベーション経済の台頭とともに、個と組織の領域横断的な「コンセプト構想力」が要請されていることがある。ただしそれは机上の学習では得られない。本講では「知識創造」プロセスを参照しながら、エスノグラフィーや GTA などの質的研究方法論、およびプロトタイピング、パターンランゲージなど、コンセプトを構築するためのデザイン思考の基本を集中ワークショップで総合的に身につけることを狙いとする。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	コンセプトとそのデザインの方法論 質的研究方法論概論
〔第 2 講〕	フィールドワーク演習(1)
〔第 3 講〕	コンセプトの社会的理解 エスノグラフィー、GTA (Grounded Theory Approach)
〔第 4 講〕	フィールドワーク演習(2)
〔第 5 講〕	GTA 演習
〔第 6 講〕	パターンランゲージを用いたプロトタイピング演習
〔第 7 講〕	ストーリーテリング
〔第 8 講〕	総括の対話

■教科書等： 指定図書

- ✓ 紺野登（2010）『ビジネスのためのデザイン思考』東洋経済新報社（指定図書）
- ✓ フリック, U.（2002）『質的研究入門-「人間の科学」のための方法論』春秋社（指定図書）
- ✓ グレイザー, B. G. , A. L. シュトラウス（1996）『データ対話型理論の発見』新曜社（指定図書）
- ✓ 野中郁次郎、紺野登（2003）『知識創造の方法論』東洋経済新報社（参考図書）
- ✓ アレグザンダー、C.（1984）『パターン・ランゲージ—環境設計の手引』鹿島出版会（参考図書）

■ 評価方法・基準など

ワークショップにおける寄与、生み出されたビジネスモデルのピア評価および事後レポート（自身の文脈でのまとめ、事例研究）の提出をもって評価します。

■ 特に留意する事項など

ワークショップ形式ゆえ継続出席を重視。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	瀧澤 弘和
■講義名（和文）：	経営者のための経済学
■サブタイトル：	最先端の経済学から現代経済を見る観点を学ぶ
■講義名（英文）：	Economics for Managers
■講義目的：現代経済を成り立たせている経済的仕組み——市場と市場を支える諸制度——について、その本質と働きを理解する	
■講義要旨：市場に関しては、歴史的に、反市場の立場と市場万能論に立つ見方とが交互に現われては論争を繰り返してきた。しかし、市場は人間にとって不可欠であり、それが他の仕方では実現できないことをわれわれにもたらせてくれていることの認識が必要である。かといって、市場は政府の助力なしに自動的にうまく機能するようなものでもない。こうした見方は、一見して折衷的に思われるかもしれないが、その背後にある思想や分析を知っていれば、それは「大人」の物の見方となるはずである。また、最近では、経済学でも人間や企業を単に効用や利潤を最大化する主体と見なさないようになってきている。実験経済学や行動経済学の研究を紹介しつつ、今日登場しつつある見方についても話をする予定である。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	イントロダクション、全体の見取り図。さらに、市場、市場取引、非市場取引の定義、唯一の自然な経済としての市場、市場をめぐる意見の相違について
〔第 2 講〕	自生的秩序としての市場：その意義と限界、市場のもっとも醜い側面と市場設計の必要性
〔第 3 講〕	情報の非対称性と市場、社会規範と市場の関係
〔第 4 講〕	オークションとその設計、所有権・財産権とその他のインセンティブ・メカニズム
〔第 5 講〕	市場と外部性、政府腐敗のさまざまな類型化
〔第 6 講〕	社会主義はなぜ失敗したのか、巨大企業はなぜ効率的に運営可能なのか
〔第 7 講〕	公共政策に役立つ市場の設計の例、経済改革とはどのようなものか
〔第 8 講〕	グローバリズムは善か悪か、まとめ

■教科書等： 指定図書

ジョン・マクミラン(2007)『市場を創る』, NTT 出版.

ミルグロム＝ロバーツ(1997)『組織の経済学』, NTT 出版.

■評価について： 評価方法・基準など

出席と授業への貢献による.

■その他： 特に留意する事項など

・ 特にない.

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	久恒啓一
■講義名（和文）：	図解コミュニケーション
■サブタイトル：	
■講義名（英文）：	Zukai-communication
■講義目的：文章と箇条書きを中心とするコミュニケーションの欠陥と混乱を克服する「図解コミュニケーション」の考え方と技術を学び、ビジネスの現場で生起する様々の問題を解決する論理的思考力を身につける。	
■講義要旨：コミュニケーション活動によって企業は商品やサービスを創り出し、外部に販売し、顧客の声を取り入れ商品やサービスを改善していく。ビジネスの本質はコミュニケーション活動にあるが、文章と箇条書きを中心とするコミュニケーションには本質的な欠陥があり現場は混乱している。この講義では全体の構造と部分同士の関係を表現できる「図解コミュニケーション」の考え方と技術を実践的に学ぶことによって、高い問題解決能力を身につける。	
■講義の進め方：	全 8 講 下記の久恒の一連の著作のエッセンスを講義し、図解演習を行う。
〔第 1 講〕	理論「図で考える人は仕事ができる」（日本経済新聞社） 「図で考える人は仕事ができる（実践編）」（日本経済新聞社）
〔第 2 講〕	技術「図で考える人の図解表現の技術」（日本経済新聞社） 「図で考える技術が身につくトレーニング 30」（自由国民社）
〔第 3 講〕	応用 1「仕事力を高める方法は『図』がすべて教えてくれる！」（PHP 研究所） 「問題がすっきり解決！図解思考の本」（PHP 研究所）
〔第 4 講〕	応用 2「図で考えれば文章がうまくなる」（PHP 文庫） 「一枚の図で読む！世界の名著がわかる本」（三笠書房）
〔第 5 講〕	応用 3「図解・資本論」（イースト・プレス） 「図解で身につく！ドラッカーの理論」（中経出版）
〔第 6 講〕	応用 4「図解・日本史」（PHP 研究所） ライフデザイン・キャリアデザイン 1「人生がうまくいく人は図で考える」（三笠書房）
〔第 7 講〕	応用 5 ライフデザイン・キャリアデザイン 2「図解で考える 40 歳からのライフデザイン」（講談社+α 新書） ライフデザイン・キャリアデザイン 3「図解・働く女性の成功ノート」（成美堂出版）
〔第 8 講〕	応用 6 ライフデザイン・キャリアデザイン 4「30 代からの人生戦略は『図』で考える！」（PHP 研究所） まとめ「合意術『深掘り型』問題解決のすすめ」（日本経済新聞社）

■教科書等： 指定図書

指定図書：「図で考える人は仕事ができる」（日経ビジネス人文庫）（久恒啓一）

参考図書：「図で読み解く！ドラッカー理論」（かんき出版）（久恒啓一）

参考図書：「図で考える技術が身につくトレーニング 30」（自由国民社）（久恒啓一）

■評価について： 評価方法・基準など

①出席：50 点 ②毎回のレポート：25 点 ③提出物：25 点

■その他： 特に留意する事項など

・毎回実習を行うなかで力をつけていくので、毎回の出席が望ましい。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	岡太 彬訓
■講義名（和文）：	統計モデルの基礎
■サブタイトル：	
■講義名（英文）：	Statistics for data analysis: Concept, Model, theory, and applications
■講義目的：データ分析において必要な統計学について，入門的な段階から，記述統計および推測統計について，それらの概念，考え方，背景にある原理やその意味，分析の手順，利用上の留意点などをひと通り学習する．	
■講義要旨：データ分析のために必要不可欠な統計学を学習し，さまざまな領域における今後の学習で使われている統計的な手法を理解し，データ分析の方法を応用し，分析から得られた結果を的確に理解し，読み取るための基礎的な知識を習得する．	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	ガイダンス：授業の内容と構成，および，授業の予定の説明
〔第 2 講〕	統計分析のデータの問題，統計分析の目的，母集団と標本，無作為標本，質的データ，量的データ，データの記述方法，表現方法，統計量，統計的グラフ，基準化，統計量，統計量の幾何学的意味
〔第 3 講〕	確率，確率変数，確率分布，二項分布，正規分布，誤差のモデル，標本分布，標準正規分布，統計的推定，推定量
〔第 4 講〕	標本平均の分布，平均の推定，点推定，区間推定，信頼係数，信頼度，統計的検定の考え方，対立仮説と帰無仮説，検定のモデル，平均の検定
〔第 5 講〕	1 標本の平均の検定，棄却域と採択域，有意水準，正規分布表，臨界値
〔第 6 講〕	第 1 種の誤り，第 2 種の誤り，検出力，片側検定と両側検定，検出力と標本の大きさ，2 標本以上の平均の検定，多重比較，カイ 2 乗適合度検定
〔第 7 講〕	相関係数，共分散，相関係数の解釈（因果関係，曲線相関，複数の集団など），相関係数の検定，相関係数の幾何学的な解釈，相関と内積，ベクトルのなす角，多変量データでの相関係数の幾何学的な意味，内積にもとづくモデル
〔第 8 講〕	散布図と回帰モデル，予測の誤差，決定係数，カイ 2 乗独立性検定（クロス表），属性相関

■教科書等： 指定図書

岡太彬訓・中井美樹・元治恵子．データ分析入門-基礎統計-．共立出版．

岡太彬訓・都築誉史・山口和範．データ分析のための統計入門．共立出版．

岡太彬訓．データ分析のための線形代数．共立出版

■評価について： 評価方法・基準など

発表と出席

■その他： 特に留意する事項など

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	辻 毅
■講義名（和文）：	人間力向上と日本文化
■サブタイトル：	企業経営に重要な経営者の人間力をいかに向上させるか
■講義名（英文）：	Humanity & Japanese Culture
■講義目的： 企業経営において経営理念が不可欠であることはいまでもないが、その経営理念は経営者自身の人生観、社会観、世界観、人間観に由来する。経営力ともいべきこの人間力をいかに涵養し向上させるかについて、日本の伝統・文化・宗教と関連させつつ学ぶ。	
■講義要旨： 経営における人間力の重要性について実例をまじえ学んだ後、その「人間とは？」どのようなものか、どう対応すべきものか、自らの生き方をふりかえりながら、日本の伝統的ものの考え方を学び、自身のこれからの処し方に活用する。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	経営と人間力 信念と経営理念 国際性 自身の人間力認識 人間力向上の必要性
〔第 2 講〕	産土神 日本の神話 神と人 畏れ 神道 幼児の好奇心と目 笑顔 日本の伝統行事 (読書研究①)
〔第 3 講〕	教育と教養 礼 敬 広目・多聞 情熱と志 内省 儒教の影響 (読書研究②)
〔第 4 講〕	直心 慈悲行 キリスト教の神 知行合一 生老病死 人の悩み 釈迦の教え (読書研究③)
〔第 5 講〕	密教 末法思想 浄土教 脚実地 我欲 死生観 忍 下坐行 不惑 禅 (読書研究④)
〔第 6 講〕	文明開化と欧米化 功利主義的個人主義 道義の手段化 正義 天命 感謝 謙虚 甘受 生かされる (読書研究⑤)
〔第 7 講〕	耳順 信頼 任せる 直心（再） 無私 日本の花鳥風月と諸道 気品 仁 敬愛 忖度 人情の機微
〔第 8 講〕	まとめ 自己観照 人間の価値 人間力向上のために

■教科書等： 指定図書

「教科書は特になし、読書研究の図書及び参考図書については別途授業で指定。」

■評価について： 評価方法・基準など

出席率、受講態度、議論参画度、レポート等総合的に判断して評価。

■その他： 特に留意する事項など

- ・ 知識の習得のみでなく、日常生活における行動への反映を期待。

2013 年度授業計画書

1 講 : 180 分 第 8 講は 90 分

■担当教員名：	橋本 忠夫（和田昌親・長田貴仁）
■講義名（和文）：	グローバルビジネスのマネジメントスタイル
■サブタイトル：	グローバルビジネスの新たな動向
■講義名（英文）：	Global Business Management Style
■講義目的：本質を見抜くには、いろいろな見解を聴き、柔軟で多面的に思考することの重要性を学ぶ。	
■講義要旨：21 世紀は、超優秀トップによる強いリーダーシップがキー／中国・アジアビジネスが中心、等々、誰も異論のない考え方が、いつの時代にも当然存在する。それが正しいときも、また正しくないときもあることは、歴史を振り返れば明らかである。中国・アジアパワーの前に日本では影が薄くなっているラテンアメリカや財政危機・経済危機にゆれる南欧のポジションを錯覚していないか、また日本の武士道や歴史をもう一度振り返る必要があるのでは等を通じて、グローバルリーダーやグローバルビジネスマネジメントの意味を掘り下げる。	
■講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕 和田	「ブラジルとメキシコの両ラテン大国の攻略法」 中国パワーに圧倒され過ぎていないか？ ラテンビジネスの重要性に注目しよう！
〔第 2 講〕 和田	「ラテンビジネスの源流を知る」 アングロサクソンとは異なるラテンカルチャー
〔第 3 講〕 和田	「ラテンビジネスのリスクに備えを」 ブラジル・メキシコ以外の中南米諸国のカントリーリスク
〔第 4 講〕 和田	「欧州ラテンの底力を知る」 21 世紀の南欧の未来と可能性を探る
〔第 5 講〕 長田	「グローバル・ビジネス・リーダー」① 世界の変化と経営改革；「日本的経営」の活用？
〔第 6 講〕 長田	「グローバル・ビジネス・リーダー」② ケーススタディ（現代編）：「世界で戦った強者たち」に学ぶ
〔第 7 講〕 長田	「グローバル・ビジネス・リーダー」③ ケーススタディ（歴史編）：幕末・明治期に見られた武士道と基督教の融合
〔第 8 講〕 長田	「グローバル・ビジネス・リーダー」まとめ 日本で働き学ぶ我々にとって「グローバル考」とは

■参考文献：

■評価方法・基準：出席率、議論参画度、レポート等の総合評価

■留意事項：現実の場における当事者意識と自ら考えることの重要性の認識

社会工学研究会（インターゼミ）・春／秋 通年 [Seminar-social engineering]
創造的問題解決力要請講座

担当者名：久恒啓一、金美德、中庭光彦、巴特尔、奥山雅之・菅野光公、志賀敏弘、
木村知義、荻野博司、安田震一、中澤弥、長田貴仁

■講義目的

現代社会の抱える課題について、学部・大学院・学年などをまたいで塾形式で切磋琢磨しながら、多様な要素や手法を組み合わせた柔軟な発想で、体系的・総合的な答を志向する総合設計力を身に付ける。

（講義要旨）受講生自身による問題発掘・発見から仮説の提示、そして多様な要素の組み合わせによる問題解決へいたるプロセスの中で、寺島学長以下、学内の教員や社会で活躍する学外の賢人による付加価値を高め、創造的問題解決策を志向する。

■到達目標

選択したテーマについて、文献調査・フィールドワーク・考察・執筆を行わせ、1 年後に論文をまとめさせる。産業社会の持つ課題を発見し、解決へのアプローチを目指す論文内容へと指導する。

■ 講義形態

☒講義 + GD・GW・PR

■学外学習

☒学外学習有

■教科書

「世界を知る力」「世界を知る力2」

■指定図書

「脳力のレッスンⅠ」「脳力のレッスンⅡ」「脳力のレッスンⅢ」「大中華圏」

■参考文献

「二十世紀から何を学ぶか 上」「二十世紀から何を学ぶか 下」

■参考 URL

<http://www.tama.ac.jp/terashima/>

■評価方法

出席：25 点 日常点：25 点 発表：50 点

■評価基準と評価方法

☐絶対評価

上記「評価方法」に基づく総合評価

P：一年間を通じて課題解決に努力し、研究論文に貢献した。出席率が高い。

F：課題解決と論文執筆への貢献度が低い。出席率が低い。

事前履修科目等

「問題解決学」分野の科目を多く履修することが望ましい。

■留意点

毎回出席すること。特別講座受講が必須。夏季合宿に参加すること。教科書、指定図書、参考文献、及び、ゼミ中に指定された図書を読むこと。

2013 年度授業計画書

■担当教員名：	金 美德
■講義名（和文）：	国際情報戦略
■サブタイトル：	ビジネス・インテリジェンス
■講義名（英文）：	International intelligence strategy
■講義目的：	国際ビジネスやグローバル戦略上の課題を自ら発掘し、ICTを活用して解決する。
■講義要旨：	日本では、産業の効率化や高付加価値化を実現し、経済の成長を牽引する ICT 産業の国際競争力の強化が急がれている。そのため高度 ICT 人材には、IT 技術、マネジメント、コミュニケーションの能力に加え、国際共生力も求められる。国際共生力とは、グローバル市場における多様なニーズを共有し、連携して解決する能力である。 本講義では、国際情報が果たす役割とその戦略的意義を考察する。また、今や国際ビジネスの最先端となったアジアや新興国の課題を発掘し、ICT を活用した解決策やグローバル戦略の立案を図る。
講義の進め方：	全 8 講
〔第 1 講〕	国際情報の収集・分析・発信の方法
〔第 2 講〕	アジア新興国情報の収集・分析・発信 (1)
〔第 3 講〕	アジア新興国情報の収集・分析・発信 (2)
〔第 4 講〕	アジア新興国情報の収集・分析・発信 (3)
〔第 5 講〕	アジア新興国情報の収集・分析・発信 (4)
〔第 6 講〕	アジア新興国の課題発掘
〔第 7 講〕	ICT を活用した解決策とグローバル戦略
〔第 8 講〕	戦略レポートの発表

■教科書等：①『韓国企業だけが知っている日本企業没落の真実-日本再浮上 27 核心-』（金美德、中経出版、2013 年）

②『図解 韓国四大財閥早わかり』（金美德、中経出版、2012 年）

③『なぜ韓国企業は世界で勝てるのか-新興国ビジネス最前線-』（金美德、PHP 新書、2012 年）

■指定図書：①『大中華圏-ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る-』（寺島実郎、NHK 出版、2012 年）

②『世界を知る力 日本創生編』（寺島実郎、PHP 新書、2011 年）

③『世界を知る力』（寺島実郎、PHP 新書、2010 年）

■参考図書：随時指定する。

■参考 URL など：

①ロイター<http://jp.reuters.com>

②ブルームバーグ <http://www.bloomberg.co.jp/?JPIntro=jpintro>

③日本貿易振興機構（ジェトロ）<http://www.jetro.go.jp>

④共同通信 <http://www.kyodo.co.jp>

⑤中国・新華通信 <http://www.xinhua.jp>

⑥韓国・聯合ニュース <http://japanese.yonhapnews.co.kr>

⑦ザ・ボイス・オブ・ロシア <http://japanese.ruvr.ru/>

⑧在モンゴル日本大使館 http://www.mn.emb-japan.go.jp/index_j.htm

⑨環日本海経済研究所 <http://www.erina.or.jp/index.html.ja>

■評価の方法・基準：出席 70%、戦略レポート 30%。

戦略レポートのテーマは、アジアや新興国の課題を発掘し、ICT を活用した解決策などとする。

最終発表は、相互評価を行う。

尚、戦略レポートの発表と提出がない場合は、不合格とする。

■ その他留意事項：

①パソコンと携帯電話は、使用を禁止する。

②講義内容は、筆記すること。

2013 年度授業計画書

- 担当教員名： 出原至道 中村有一
- 講義名（和文）： ICT イノベーション 1
- サブタイトル： ICT 基礎 90 講（イノベーション）
- 講義名（英文）： ICT innovation I

講義目的：

本講義の目的は、データ収集のための基礎技術として、ウェブとデータベースを中心とした情報処理技術を学ぶことである。

近年、コンピュータの情報処理能力が向上する一方で、情報量の急激な増大により有用な情報入手することは却って困難になっている。この現状をふまえ、本講義では次の2つの技術スキルを学び、それを通して独自の情報収集・分析システムを開発する能力を身につける。

一つ目は、テキストからの情報抽出スキルである。これは、ログファイルなどの整形されたテキスト情報の分析と、整形されていないウェブデータそのものからの情報の抽出を含む。

二つ目は、システムのインタフェースとなるプログラミング技術である。これは、PHP と JavaScript を中心として、jQuery などのライブラリや AJAX の利用など、サーバサイド・クライアントサイドの双方の実装を含む。

講義要旨：

本講義は、ICT 基礎 90 講中の「ICT イノベーション」に該当する。基本的なプログラミング能力を前提として、それらを実用的な実装にどのように生かすかという点に重点を置いて学習する。演習形式を採用する。

■講義の進め方： 全 15 講

第1ブロック第1-3 講 インタラクティブ Web（1） 担当：中村

★サーバサイドプログラミング

PHP を中心に、サーバサイドプログラミングについて学ぶ。WEB ベースのアンケートサイトの構築とその処理がスムーズに出来るように理解を深める。

第2ブロック第4-6 講 インタラクティブ Web（2） 担当：中村

★クライアントサイドプログラミング

JavaScript のライブラリである jQuery を利用して、AJAX など、クライアントサイドプログラミングを理解し、使いこなす。さらに php-R につながる入力パートを理解する。

また、UML を利用して簡単な情報システムを構築する。

第3ブロック第7-9 講 テキストロギング（1） 担当：出原

★整形テキストデータからのデータ抽出と分析

Perl を用いて、整形されたテキストデータからのデータ抽出と分析を行う。整形されたテキストデータは、さまざまなシステムのログファイルとして出力される。このようなファイルでは、必要な情報が散在しているため、このようなデータから、処理に適する情報を抽出する技術を学ぶ。

第4ブロック第10-12 講 テキストロギング（2） 担当：出原

★ウェブテキストデータからのデータ抽出と分析

ウェブ上に公開されているデータは、その場で人間に提示することを目的としており、整形されていないものが多い。しかし、このようなデータを継続的・機械的に収集することで、有用な情報入手できる可能性がある。このため、プログラムから直接ウェブ上のデータを取得・整形し、そこから情報を抽出する手法を学ぶ。

第5ブロック第13-15 講

★研究アイデアプレゼンテーション

これまでの講義を通じて得られたスキルに基づいて、各自、独自の分析対象や分析手法についてプレゼンテーションを行い、議論する。

■教科書等： 指定図書、参考図書、参考 URL など

○テキストロギング

教科書：

指定図書：

参考図書：

Randal L. Schwartz, brian d foy, Tom Phoenix「初めてのPerl」オライリー(2012)

ISBN978-4-87311-567-2

Larry Wall, Tom Christiansen, Jon Orwant「プログラミング Perl 第3版 VOLUME 2」オライリー(2002)

ISBN4-87311-097-1

Jeffrey E.F. Friedl「詳説 正規表現 第3版」オライリー(2008) ISBN978-4-87311-359-3

○インタラクティブウェブ

教科書：

指定図書：

参考図書：

■評価について： 評価方法、基準など

講義科目ではあるが、演習が中心となるため、単位取得には出席が前提となる。評価については、講義内の演習への取り組みやレポートなどを総合して行うこととする。

■その他： 特に留意する事項など

★重要

本講義は、土曜の3、4、5限目で1ブロックとして、5つのブロックからなっている。第1-4ブロックは、それぞれ独立したテーマではあるが、ICT イノベーション1・2で総合的なスキルが完成するため、すべてを受講することが望ましい。

2013 年度授業計画書

■担当教員名：	豊田裕貴、今泉忠
■講義名（和文）：	ICT マーケティング I
■サブタイトル：	ICT 基礎 90 講（マーケティング）
■講義名（英文）：	ICT marketing I
■講義目的：	本講義には、主に二つの目的がある。 一つ目の目的は、ICT 技術をマーケティング的な思考から考える視座を学習することである。ビジネスでは、良い技術を開発しても必ずしも成功するとは限らず、その技術をいかに「よい商品」と知覚させるかが重要な視点と考えられるためである。 もう一つの目的は、ICT によるデータの解析からビジネス知見を得る方法を学習することである。ICT の発展によって大量に蓄積されたデータ（BIG データ）を活用することでビジネス（マーケティング）に資する知見を得られるかが重要なポイントになってきているためである。
■講義要旨：	本講義は、ICT 基礎 90 講中の「ICT マーケティング」に該当する。なお、マーケティングではあるが、ICT でのマーケティングということをお勧めし、積極的に統計学や多変量解析の知識を関連づけてマーケティングを学習していく。また、本講は講義スタイルではなく、演習形式を採用し、実際に使える知識としてのマーケティング知識の習得を目指す。
■講義の進め方：	全 15 講
第 1 ブロック第 1-3 講	オリエンテーション ・ ICT マーケティング I の全体像について ・ マーケティングモデリング（豊田：第 4-9 講）の内容と事前に必要な知識について ・ マーケティングデータ解析（今泉：第 10-15 講）の内容と事前に必要な知識について
第 2 ブロック第 4-6 講	マーケティングモデリング①（豊田） ★コンセプトモデリングによる仮説思考マーケティング マーケティングは目的科学であり、達成すべきゴールを決めなければ適切なマーケティング戦略は立て得ない。そのためには、適切なゴールのセッティングとそのゴールに関係する要因との関係を考え、検証、解釈しなければならない。そこでこの講義では、モデルを図として表し、そのモデルをデータから検証する方法として、コンセプトモデリングを学習する。なお、必ずしも数学や統計の知識は前提としないが、不安な場合には、オリエンテーション（1-3 講）を受けておくこと。
第 3 ブロック第 7-9 講	マーケティングモデリング②（豊田） ★ポジショニング分析によるブランドマネジメント マーケティングを考える際、ブランドマネジメントの視点は欠かせない。この講義では、ブランドマネジメントに必要な視点は何かを、ブランドポジショニングマップの分析を通じて解説する。なお、各自がポジショニングマップを作成できるようになるために、PC 演習を合わせて実習する。受講に際して、必ずしも数学や統計の知識は前提としないが、不安な場合には、オリエンテーション（1-3 講）を受けておくこと。
第 4 ブロック第 10-12 講	マーケティングデータ解析①（今泉） ★ビッグデータ解析入門（1） 多次元データ解析の基礎理論と手法について講義する。 線形モデル・特異値分解・多群データの分析という 3 種類の基礎的な理論と手法について修得する。 初めに、基礎的な手法の復習としての線形モデルについて講義するとともに、PDCA サイクルでの演習を行う。 データ分析の古典的な手法としての特異値分解についても講義し、その分解結果の図的表現についても講義する。 定性的な外的基準がある場合の判別分析について講義する。
第 5 ブロック第 13-15 講	マーケティングデータ解析②（今泉） ★ビッグデータ解析入門（2） 多次元データ解析の基礎理論と手法について講義する。 特に、DB からのデータ抽出、テキストデータの扱い、クラスター分析、ロジスティック回帰などを活用して、外的な基準がない場合のアプローチについて講義する。

■教科書等： 指定図書、参考図書、参考 URL など

教科書：

- ・ 中村永友、金明哲『多次元データ解析法（R で学ぶデータサイエンス 2）』共立出版
- ・ 豊田裕貴『ブランドポジショニングの理論と実践』講談社サイエンティフィック（2013）

指定図書：

- ・ 朝野照彦 『入門多変量解析の実践 第二版』講談社サイエンティフィック（2000）
- ・ 片平秀貴 『マーケティング・サイエンス』東京大学出版会（1987）
- ・ 守口剛 『プロモーション効果分析』朝倉書店（2002）

参考図書：

- ・ 朝野照彦 『最新マーケティング・サイエンスの基礎』講談社サイエンティフィック（2010）
- ・ 朝野照彦 『R によるマーケティング・シミュレーション』同友館（2008）

■評価について： 評価方法、基準など

講義科目ではあるが、演習が中心となるため、単位取得には出席が前提となる。評価については、講義内の演習への取り組みやレポートなどを総合して行うこととする。

■その他： 特に留意する事項など

★重要 本講義は、土曜の 3、4、5 限目で一ブロックとして、5 つのブロックからなっている。第 1 ブロックは ICT におけるマーケティング思考とは何かの解説と、第 2-5 ブロックの解説ならびに事前に必要な知識の説明になる。第 2-5 ブロックは、それぞれ独立したテーマではあるが、ICT マーケティングを理解する上でそれぞれ重要な内容になるため、すべてを受講すること。

2013 年度授業計画書

■担当教員名：	諸橋正幸、彩藤ひろみ
■講義名（和文）：	ICT メトリクス I
■サブタイトル：	ICT 基礎 90 講（メトリクス）
■講義名（英文）：	ICT metrics I
■ 講義目的：	本講義は、メトリクス（計測）の理解と実践を目的にしている。 I では、テキストメトリクスと空間メトリクスを学ぶ。II でビジネスメトリクスとして、心理測定データ分析を学び、最後に課題を解決する演習を実施する。 テキストメトリクスでは、ICT 基礎（イノベーション）にてテキストロギングを学んだことを前提に、集めたログをどのように分析するかに注力する。 空間メトリクスでは、身体の動きを計測し、空間情報を扱うアプリ研究などを行う。
■ 講義要旨：	本講義は、ICT 基礎 90 講中の「ICT メトリクス」に該当する。
■講義の進め方：	全 15 講
第 1 ブロック 第 1-3 講	オリエンテーション ・ ICT メトリクス I の全体像について ・ テキストメトリクス（諸橋：第 4-9 講）の内容と事前に必要な知識について ・ 空間メトリクス（彩藤：第 10-15 講）の内容と事前に必要な知識について
第 2 ブロック 第 4-6 講	テキストメトリクス①（諸橋） ・ 形態素解析などを利用し、集めたテキストデータを分析する方法を理解する。
第 3 ブロック 第 7-9 講	テキストメトリクス②（諸橋） ・ テキストメトリクス実践に向けて必要な内容の講義と実践（予定）。
第 4 ブロック 第 10-12 講	空間メトリクス①（彩藤） ・ キネクト、リープモーションなど、身体計測のデバイスを利用したビジネスモデルを考える。 ・ AR（仮想現実感）を体験し、応用を考える。
第 5 ブロック 第 13-15 講	空間メトリクス②（彩藤） ・ 3次元空間と連動した技術を探し、開発できる環境を整える。 ・ Unity を利用予定。

■教科書等： 指定図書、参考図書、参考 URL など
 教科書： 必要に応じて指定する
 指定図書：
 参考図書：

■評価について： 評価方法、基準など
 講義科目ではあるが、演習が中心となるため、単位取得には出席が前提となる。評価については、講義内の演習への取り組みやレポートなどを総合して行うこととする。

■その他： 特に留意する事項など

★重要

本講義は、土曜の 3、4、5 限目で一ブロックとして、5つのブロックからなっている。第 1 ブロックは ICT におけるメトリクスとは何かの解説と、第 2-5 ブロックの解説ならびに事前に必要な知識の説明になる。第 2-5 ブロックは、それぞれ独立したテーマではあるが、ICT メトリクスを理解する上でそれぞれ重要な内容になるため、すべてを受講すること。

2013 年度授業計画書

■担当教員名：	今泉 忠、出原至道
■講義名（和文）：	ICT 基礎技術入門 I
■サブタイトル：	サーバ構築と R 入門
■講義名（英文）：	ICT Basic 1
■ 講義目的： データにもとづく課題解決が必須の社会である。本講義ではデータ解析を行うための基礎ツールとして、履修者がDBからデータを抽出して、それをもとに統計ソフト R の利活用について、基礎から学ぶ。 この講義では、データ分析のストーリーをもとに、分析し、結果を評価できるようになることを目標とする。 ■ 講義要旨： データ分析は、さまざまな目標を適切なデータの分析を通じて行い、他に表現し、それを実現することである。そのために、（１）データの収集、（２）データの整備、（３）データ解析、（４）結果の整理と表現について、修得する。 特に、コマンドを用いて統計分析で行い、分析応用力をつける。	
■講義の進め方：	全 15 講
〔第 1 講～4 講〕	サーバ構築 各自のコンピュータがサーバとして動作するよう、環境を整備する。これを通して、サーバ運用に関する基礎的な技術を学ぶ。動作目標は、ウェブサーバ、データベースサーバ、PHP、R、XWindow Server である。各自のコンピュータの本来のオペレーティングシステムにできるだけ影響が出ないように配慮したシステム構成とする。
〔第 5 講～第 8 講〕	PDCA サイクル修得と Rstudio 入門 データ解析の基本的なことについて PDCA サイクルでの枠組み作成と、それをもとに R を用いて解析の基礎を修得する。特に多次元データの扱いに関して、その要約と可視化に関して活用できるようにする。 データの整理についても演習を通じて学ぶ。 分析目標を達成するための分析フレームワークと R を用いて分析結果の表現について学ぶ。 そのために、多次元データや時系列データを整備や管理や DB の扱いを通じてデータ行列の操作について学ぶ。 分析は、モデル化を通じて一般化線型モデルを用いたデータ解析について演習を通じて学ぶ。
〔第 9 講～第 12 講〕	大規模データを扱う場合には、情報圧縮やデータ要約が必須になる。その場合重要になるとなる相関行列の分解や古典的な特異値分解について演習を通じて学ぶ。 特に、疎なデータ行列や構造が隠れている行列の分析への適用を学ぶ。
〔第 13 講～第 15 講〕	WorkShop: 設定した課題について、インターネットなどからデータを収集し、分析し、その結果を明確にすることについて修得する。

■教科書等： 指定図書、参考図書、参考 URL など

多次元データ解析法（R で学ぶデータサイエンス）中村 永友（著）、金 明哲（編集）

■ 評価について： 評価方法、基準など

講義での修得度、

PDCA (25%), R の利活用 (25%), モデル化能力 (25%), 分析説明力 (25%) をもとに評価する。

■ その他： 特に留意する事項など

履修者の PC を用いるので、用意すること

2013 年度授業計画書

1 講：180 分 第8講は90 分

■担当教員名：	西沢 和民
■講義名（和文）：	プロジェクトマネジメント入門
■サブタイトル：	プロジェクトを成功させるために必要なスキルと行動
■講義名（英文）：	Project Management Preliminary
■講義目的：プロジェクトとは何かを理解し、プロジェクトマネジャーとしてプロジェクトを成功させるために必要なスキルや心構え、取るべき行動について学ぶ	
■講義要旨：講義は3部より構成される。「プロジェクトの基礎」では、プロジェクトの定義や特性を理解し、プロジェクトを成功させるための条件を考える。「プロジェクトの進め方」では、プロジェクトの立上げから実行までの進め方を学ぶ。「プロジェクトマネジャー論」では、プロジェクトを成功に導くために、プロジェクトマネジャーがとるべき行動と必要なスキルが何かを学ぶ。また、演習をおこない、講義で学んだ内容の理解を深める。	
■講義の進め方：	全8講
〔第1講〕	プロジェクトの基礎① － プロジェクトとは何か？ プロジェクトの基礎② － プロジェクトの成功条件
〔第2講〕	プロジェクトの基礎③ － プロジェクトに取り組むために大切な心構えとスキル プロジェクトの基礎④ － 演習①
〔第3講〕	プロジェクトの進め方① － プロジェクトの立ち上げ プロジェクトの進め方② － 演習②
〔第4講〕	プロジェクトの進め方③ － プロジェクトの計画策定 プロジェクトの進め方④ － 演習③
〔第5講〕	プロジェクトの進め方⑤ － プロジェクトの実行 プロジェクトの進め方⑥ － 演習④
〔第6講〕	プロジェクトマネジャー論① － PMに必要な基本行動と基本スキル プロジェクトマネジャー論② － 演習⑤
〔第7講〕	プロジェクトマネジャー論③ － プロジェクト現場での基本行動と基本スキル活用例 プロジェクトマネジャー論④ － 演習⑥
〔第8講〕	最終課題の発表と講義全体の振り返り

■教科書等：『プロジェクトマネジャー・リファレンスブック』プロジェクトマネジメント学会 P
M人材育成研究会（日刊工業新聞社）

■参考図書：『世界一わかりやすいプロジェクトマネジメント』サニー ベーカー、キム ベーカー、
中嶋 秀隆 訳、香月 秀文 訳（総合法令出版）

『マネジメント[エッセンシャル版]』P・F. ドラッカー、上田 惇生（ダイヤモンド社）
出版）

『通勤大学文庫 図解 PM コース2 プロジェクトマネジメント 実践編』中 憲治（総合法
令出版）

『質問会議』清宮 普美代（PHP 研究所）

■評価について： 評価方法・基準など

出席率、グループ演習の活動と成果、最終課題のレベル

■その他： 特になし

2013 年度授業計画書

- 担当教員名： 出原至道 中村有一
- 講義名(和文)： ICT イノベーション 2
- サブタイトル： ICT 基礎 90 講 (イノベーション)
- 講義名(英文)： ICT innovation II

講義目的：

本講義の目的は、データ収集のための基礎技術として、ウェブとデータベースを中心とした情報処理技術を学ぶことである。

近年、コンピュータの情報処理能力が向上する一方で、情報量の急激な増大により有用な情報入手することは却って困難になっている。この現状をふまえ、本講義では次の2つの技術スキルを学び、それを通して独自の情報収集・分析システムを開発する能力を身につける。

一つ目は、より大きなシステムの開発を行うことを可能にする Java と、それを共有可能な形で支える UML である。データベースと連携するシステムを UML レベルから設計・構築する。

二つ目は、抽出した情報の再利用を可能とするデータベース技術である。これによって、自動的に収集・分析した大量のデータを、再利用可能な形の情報として蓄積することを可能にする。

講義要旨：

本講義は、ICT 基礎 90 講中の「ICT イノベーション」に該当する。基本的なプログラミング能力を前提として、それらを実用的な実装にどのように生かすかという点に重点を置いて学習する。演習形式を採用する。

■講義の進め方： 全 15 講

第1ブロック第1-3 講 JAVA+UML (1) 担当：中村

★object 指向と JAVA

オブジェクト指向言語 (JAVA) を使って簡単な情報システムを構築する。そのための設計手法や JAVA プログラミング言語を学ぶ。

第2ブロック第4-6 講 JAVA+UML (2) 担当：中村

★JAVA と UML

設計の図的表現手法としての UML を学び、大規模開発環境のシミュレーションを行う。

第3ブロック第7-9 講 データベース (1) 担当：出原

★リレーショナルデータベースの設計と実装

リレーショナルデータベースの設計理論を学び、テキスト分析結果やユーザの入力などを再利用可能な形で保存することを可能にする。また、SQL データベースサーバの運用技術を学ぶ。

第4ブロック第10-12 講 データベース (2) 担当：出原

★NoSQL データベースの試験的実装

巨大データを効率的に扱うための分散データベース技術について、JAVA を用いた試験的な実装を行う。また、効率化についても取り扱う。使用するデータベースは Apache Cassandra を予定するが、受講生の状況によって変更する可能性がある。

第5ブロック第13-15 講

★研究アイデアプレゼンテーション

これまでの講義を通じて得られたスキルに基いて、各自、独自の分析対象や分析手法についてプレゼンテーションを行い、議論する。

■教科書等： 指定図書、参考図書、参考 URL など

○データベース

教科書：

Michele E. Davis, Jon A. Phillips 「初めての PHP & MySQL 第2版」(2008) ISBN978-4-87311-365-4

指定図書：

参考図書：

Eben Hewitt 「Cassandra」(2011) ISBN978-4-87311-529-0

○インタラクティブウェブ

教科書：

指定図書：

参考図書：

■評価について： 評価方法、基準など

講義科目ではあるが、演習が中心となるため、単位取得には出席が前提となる。評価については、講義内の演習への取り組みやレポートなどを総合して行うこととする。

■その他： 特に留意する事項など

★重要 本講義は、土曜の3、4、5限目で1ブロックとして、5つのブロックからなっている。第1-4ブロックは、それぞれ独立したテーマではあるが、ICT イノベーション1・2で総合的なスキルが完成するため、すべてを受講することが望ましい。

2013 年度授業計画書

■担当教員名：	今泉忠、豊田裕貴、増田浩通
■講義名（和文）：	ICT マーケティングⅡ
■サブタイトル：	ICT 基礎 90 講（マーケティングⅡ）
■講義名（英文）：	ICT marketing Ⅱ
■講義目的：	本講義には、主に二つの目的がある。 一つ目の目的は、シミュレーションの知識を学ぶことである。マーケティングでは、自らの仮説をモデルととらえ、そのモデルが正しいければ、どのような結果が得られるかについて、シミュレートしなければならないことが少なくない。本講義によって、このシミュレーションの方法を学ぶ。 もう一つの目的は、ICT マーケティングⅠから学んだ知識を統合することである。マーケティングデータ解析、マーケティングモデリング、そして、マーケティングシミュレーションの3つの内容を統合し多演習を行うことで、ICT マーケティングの理解を深める演習を行う。
■講義要旨：	本講義は、ICT 基礎 90 講中の「ICT マーケティング」に該当する。なお、マーケティングではあるが、ICT でのマーケティングということを勘案し、積極的に統計学や多変量解析の知識を関連づけてマーケティングを学習していく。また、本講義は講義スタイルではなく、演習形式を採用し、実際に使える知識としてのマーケティング知識の習得を目指す。
■講義の進め方：	全 15 講
第 1 ブロック第 1-3 講	オリエンテーション ・マーケティングシミュレーション（増田：4-9 講）の内容と事前に必要な知識について ・ICT マーケティング演習（今泉、豊田、増田：10-15 講）の内容と事前に必要な知識について
第 2 ブロック第 4-6 講	マーケティングシミュレーション①（一週目 3-5 時間目：増田） システムダイナミクス（system dynamics, SD）とは、マサチューセッツ工科大学のジェイ・フォレスト（Jay Forrester）教授が、産業プロセスの構造と挙動の関係を調べる手段として開発したシミュレーション手法である。企業組織やサプライチェーンおよび市場といった産業システムや社会システムなど人間の集団意思決定と多重フィードバックループを備えた複雑なシステムを認識するのに用いられる。このシステムダイナミクスの考え方を習得するために、演習と文献購読を基に講義を進める。
第 3 ブロック第 7-9 講	マーケティングシミュレーション②（二週目 3-5 時間目：増田） 第 4-6 講で学んだことを基に演習を行い、最後にプレゼンテーションをする。
第 4 ブロック第 10-12 講	ICT マーケティング演習①（一週目 10-12 時間目：今泉、豊田、増田） ：コンジョイント分析による ICT マーケティング 消費者の商品選択基準を把握する分析としてコンジョイント分析というものがある。本講義では、コンジョイント分析を通じて、データ解析、シミュレーション、そして、マーケティングモデリングを統合した演習を行う。
第 5 ブロック第 13-15 講	ICT マーケティング演習②（二週目 13-15 時間目：今泉、豊田、増田） ：選択型コンジョイント分析による ICT マーケティング 第 4 ブロックのコンジョイント分析につづき、さらに進んだコンジョイント分析として、選択型コンジョイント分析を題材に演習を行う。この演習を通じさらに進んだ分析手法として、ロジット分析についても学習する。

■教科書等： 指定図書、参考図書、参考 URL など

○マーケティングシミュレーション

教科書：

・土金達男（著）『シミュレーションによるシステムダイナミクス入門』東京電機大学出版局（2005）

指定図書：

・森田道也（著）『経営システムのモデリング学習—STELLA によるシステム思考』牧野書店（1997）

・西村行功（著）『システム・シンキング入門』日本経済新聞社（2004）

参考図書：

・ピーター・M. センゲ（著）『守部 信之（翻訳）、最強組織の法則—新時代のチームワークとは何か』徳間書店（1995）

○ICT マーケティング実践

参考図書：

・合崎 英男『農業・農村の計画評価—表明選好法による接近』農林統計協会（2005）

・朝野照彦『R によるマーケティング・シミュレーション』同友館（2008）

■評価について： 評価方法、基準など

講義科目ではあるが、演習が中心となるため、単位取得には出席が前提となる。評価については、講義内の演習への取り組みやレポートなどを総合して行うこととする。

■その他： 特に留意する事項など

★重要

本講義は、土曜の 3、4、5 限目で一ブロックとして、5つのブロックからなっている。第 1 ブロックは ICT におけるマーケティング思考とは何かの解説と、第 2-5 ブロックの解説ならびに事前に必要な知識の説明になる。第 2-5 ブロックは、それぞれ独立したテーマではあるが、ICT マーケティングを理解する上でそれぞれ重要な内容になるため、すべてを受講すること。

2013 年度授業計画書

■担当教員名：	大森拓哉、諸橋正幸、彩藤ひろみ
■講義名（和文）：	ICT メトリクスⅡ
■サブタイトル：	ICT 基礎 90 講（メトリクス）
■講義名（英文）：	ICT metricsⅡ
■ 講義目的： 本講義は、メトリクス（計測）の理解と実践を目的にしている。 Ⅱでは、ビジネスメトリクスとして、心理測定データ分析を中心に学び、最後に課題を解決する演習を実施する。 実際の課題を解決するための演習を行い、実力をあげる。	
■ 講義要旨： 本講義は、ICT 基礎 90 講中の「ICT メトリクス」に該当する。演習を交えて実際の問題解決に臨む。	
■講義の進め方： 全 15 講	
第 1 ブロック 第 1-3 講	オリエンテーション ・ ICT メトリクスⅡの全体像について ・ ビジネスメトリクス（諸橋：第 4-9 講）の内容と事前に必要な知識について ・ メトリクス演習（彩藤：第 10-15 講）の内容と事前に必要な知識について
第 2 ブロック 第 4-6 講	ビジネスメトリクス①（大森） ・ 心理測定データ分析その 1 人間の主観的データの測定法の基礎とその解析方法について講義・実習を行う。具体的には、質問紙（アンケート）作成を通して測定法の基礎と方法を学び、実際にデータを自ら収集し、手に入れたデータを統計ソフトを用いて分析を行う。得られたデータは基本的な統計量の算出からはじまり、多変量解析法の一つである因子分析を用いて全体・各個人の印象評価を解析する。分析の対象は、個人の内面・性格やある対象に対するイメージなどの主観的評価データである。
第 3 ブロック 第 7-9 講	ビジネスメトリクス②（大森） ・ 心理測定データ分析その 2 人間の主観的データの測定法の基礎とその解析方法について講義・実習を行う。具体的には、質問紙（アンケート）作成を通して測定法の基礎と方法を学び、実際にデータを自ら収集し、手に入れたデータを統計ソフトを用いて分析を行う。得られたデータは基本的な統計量の算出からはじまり、多変量解析法の一つである因子分析を用いて全体・各個人の印象評価を解析する。分析の対象は、個人の内面・性格やある対象に対するイメージなどの主観的評価データである。
第 4 ブロック 第 10-12 講	メトリクス演習① 実際の問題を題材に問題解決を図る。
第 5 ブロック 第 13-15 講	メトリクス演習② 実際の問題を題材に問題解決を図る。

■教科書等： 指定図書、参考図書、参考 URL など

教科書： 必要に応じて指定する

指定図書：

参考図書：

■評価について： 評価方法、基準など

講義科目ではあるが、演習が中心となるため、単位取得には出席が前提となる。評価については、講義内の演習への取り組みやレポートなどを総合して行うこととする。

■その他： 特に留意する事項など

★重要 本講義は、土曜の 3、4、5 限目で一ブロックとして、5つのブロックからなっている。第 1 ブロックは ICT におけるメトリクスとは何かの解説と、第 2-5 ブロックの解説ならびに事前に必要な知識の説明になる。第 2-5 ブロックは、それぞれ独立したテーマではあるが、ICT メトリクスを理解する上でそれぞれ重要な内容になるため、すべてを受講すること。

2013年度品川^(ハ王子) キャンパス 授業開講日程（パターン）表

春学期入学式は4/6(土)

春学期	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日		日曜日		土曜日（論文ゼミ毎週開講の場合）	
パターン	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B		
第1講 開講日(トライアル)	4月8日	4月15日	4月9日	4月16日	4月10日	4月17日	4月11日	4月18日	4月12日	4月19日	4月13日	4月20日	4月7日	4月14日	4月13日	6月22日
第2講 開講日	4月22日	5月20日	4月23日	5月7日	4月24日	5月8日	4月25日	5月9日	4月26日	5月10日	5月18日	5月11日	4月21日	5月19日	4月20日	6月29日
第3講 開講日	5月13日	6月3日	5月14日	5月21日	5月15日	5月22日	5月16日	5月23日	5月17日	5月24日	6月1日	5月25日	5月12日	6月2日	5月11日	7月6日
第4講 開講日	5月27日	6月17日	5月28日	6月4日	5月29日	6月5日	5月30日	6月6日	5月31日	6月7日	6月15日	6月8日	6月9日	6月16日	5月18日	7月13日
第5講 開講日	6月10日	7月1日	6月11日	6月18日	6月12日	6月19日	6月13日	6月20日	6月14日	6月21日	6月29日	6月22日	6月23日	6月30日	5月25日	7月20日
第6講 開講日	6月24日	7月15日	6月25日	7月2日	6月26日	7月3日	6月27日	7月4日	6月28日	7月5日	7月13日	7月6日	7月7日	7月14日	6月1日	7月27日
第7講 開講日	7月8日	7月29日	7月9日	7月16日	7月10日	7月17日	7月11日	7月18日	7月12日	7月19日	7月27日	7月20日	7月21日	7月28日	6月8日	8月3日
第8講 開講日	7月22日	8月5日	7月23日	7月30日	7月24日	7月31日	7月25日	8月1日	7月26日	8月2日	8月10日	8月3日	8月4日	8月11日	6月15日	
予備日	8/6-8/16															

秋学期入学式は9/14(土)

秋学期	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日		日曜日		土曜日（論文ゼミ毎週開講の場合）	
パターン	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B		
第1講 開講日(トライアル)	9月23日	9月30日	9月24日	10月1日	9月25日	10月2日	9月26日	10月3日	9月27日	10月4日	9月28日	10月5日	9月22日	9月29日	9月28日	11月30日
第2講 開講日	10月7日	10月14日	10月8日	10月15日	10月9日	10月16日	10月10日	10月17日	10月11日	10月18日	10月12日	10月19日	10月6日	10月13日	10月5日	12月7日
第3講 開講日	10月21日	10月28日	10月22日	10月29日	10月23日	10月30日	10月24日	10月31日	10月25日	11月1日	11月9日	11月2日	10月20日	10月27日	10月12日	12月14日
第4講 開講日	11月4日	11月11日	11月5日	11月12日	11月6日	11月13日	11月7日	11月14日	11月8日	11月15日	11月23日	11月16日	11月3日	11月10日	10月19日	12月21日
第5講 開講日	11月18日	11月25日	11月19日	11月26日	11月20日	11月27日	11月21日	11月28日	11月22日	11月29日	12月7日	11月30日	11月17日	11月24日	11月2日	1月11日
第6講 開講日	12月2日	12月9日	12月3日	12月10日	12月4日	12月11日	12月5日	12月12日	12月6日	12月13日	12月21日	12月14日	12月1日	12月8日	11月9日	1月18日
第7講 開講日	12月16日	1月6日	12月17日	1月7日	12月18日	1月8日	12月19日	1月9日	12月20日	1月10日	1月18日	1月11日	12月15日	1月19日	11月16日	1月25日
第8講 開講日	1月13日	1月20日	1月14日	1月21日	1月15日	1月22日	1月16日	1月23日	1月17日	1月24日	2月1日	1月25日	1月12日	1月26日	11月23日	
予備日	1/27-2/8															